

**卓越大学院プログラム
事後評価
アンケート調査結果**

結果報告

令和7年3月

独立行政法人日本学術振興会
卓越大学院プログラム委員会事務局

実施概要

アンケート実施期間：令和6年4月17日（水）～5月24日（金）＊

＊5月10日（金）締切を5月24日（金）まで延長して実施

アンケート対象学生：

1．抽出条件

プログラムに選抜された学生（プログラムが独自に授与する学位又はプログラム修了証の授与対象者）のうち、現在も在籍している全学生（休学中の者を含む）。

2．対象者数

1,193名

3．回答者数

1,096名（回答率91.9%）

アンケート対象プログラム担当者：

1．条件

令和6年4月1日時点で参画しているプログラム担当者

2．対象者数

1,109名

3．回答者数

922名（回答率83.1%）

アンケート対象プログラム修了者：

1．条件

プログラム参加学生（編入も含む）のうち、令和6年3月末までにプログラムを修了した全学生

2．対象者数

494名

3．回答者数

395名（回答率80.0%）

アンケートの回答依頼スケジュール（参考）：下記の表のとおり。

	学生	担当者	修了者
回答の依頼	4月17日（水）	4月17日（水）	4月17日（水）
第1回リマインド	5月7日（火）	5月7日（火）	5月7日（火）
第2回リマインド	5月10日（金）	5月10日（金）	5月10日（金）
第3回リマインド	5月17日（金）	5月17日（金）	5月17日（金）

・上記のほか、不達との連絡が大学からあった際には個別に配信。

目次

第1部 学生アンケート調査結果	5
1. プログラムへの参加動機（問7-1）	5
2. プログラムがなかった場合の最終学位（問7-2）	6
3. プログラムに対する感想（問8）	7
4. プログラムで受けた指導（問10）	8
5. 環境の整備と有効性（問11A）	10
6. 経験の有無と有効性（問11B）	11
7. 身に付いた能力（問12）	13
8. プログラムへの評価（問13）	14
9. プログラムの効果・負担（問14）	15
10. 修了後の進路（問15）	15
11. 学生の属性（問2, 3, 4, 5）	17
12. プログラム情報の獲得方法（問19）	20
第2部 プログラム担当者アンケート調査結果	21
1. プログラムへの関与（問3）	21
2. 指導の内容（問5）	22
3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6）	24
4. プログラムの有効性（問7）	26
6. プログラムに対する印象（問9）	27
7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10）	28
9. 参加教員の属性（問2, 3, 4）	29
第3部 修了者アンケート調査結果	32
1. プログラムへの参加動機（問6-1）	32
2. プログラムへの参加動機（問6-2）	33
3. プログラムに対する感想（問7）	34
4. プログラムで受けた指導（問8）	35
5. 環境の整備と有効性（問9A）	37
6. 経験の有無と有効性（問9B）	38
7. 身に付いた能力（問10）	40
8. プログラムの効果・負担（問11）	41
9. 修了後の進路（問12）	41
12. プログラム情報の獲得方法（問17）	47
附録A サンプルと回答者数	
附録B 学生アンケート調査と単純集計結果	
附録C プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果	
附録D 修了者アンケート調査と単純集計結果	

【参考：学生、修了者とプログラム担当者の設問の比較】

以下の設問については、学生、修了者とプログラム担当者へ同じ質問をしています。参考までに対応する設問の一覧を示します。

学生／修了者		プログラム担当者	
問 10 ／ 問 8	【4. プログラムで受けた指導】 このプログラムで、次のような指導をどの程度の頻度で受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。 ・副指導教員など指導教員以外の教員からの指導 ・企業、政府機関など学外者からの指導、助言 ・メンター等による授業外のサポート ・産学共同研究の場への参画 ・主専攻以外の分野の授業等の履修 ・研究室ローテーション ・プロジェクト形式による授業や課題 ・キャリアパス具体化のための情報提供	問 5	【2. 指導の内容】 このプログラムで、先生は以下のような指導を行われていますか。また、行っている場合、それは有効ですか。 ・指導学生以外の学生への指導 ・主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等 ・産学共同研究の場への学生の参画 ・研究室ローテーションの受け入れ ・プロジェクト形式による授業や課題 ・メンター等としての授業外のサポート
	【5. 環境の整備と有効性】 このプログラムで次のような修学環境は整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。 ・奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援 ・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 ・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 ・学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会 ・QE (Qualifying Examination) などによる審査の機会 ・英語による授業、指導、QE 等の機会		【3. 実施されたプログラムと整備された環境】 このプログラムで、以下のようなことは実施あるいは整備されていますか。また1～2を選択した場合、それは有効に機能していますか。 ・企業、政府機関など学外者からの指導 ・キャリアパス具体化のための情報提供 ・奨励金や授業料免除等大学からの金銭的支援 ・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 ・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・本プログラムの中での留学 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動
	【6. 経験の有無と有効性】 このプログラムで次のようなことを経験しましたか。また経験した場合それは有効でしたか。 ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・本プログラムの中での留学（3ヶ月未満） ・本プログラムの中での留学（3ヶ月以上1年未満） ・本プログラムの中での留学（1年以上） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動		

問 12 ／ 問 10	【7. 身に付いた能力】 このプログラムによって、下のような能力は身についたと思いますか。／プログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。 ・高度な専門的知識・研究能力 ・高い国際性 ・専門以外の分野の幅広い知識 ・物事を俯瞰し本質を見抜く力 ・自ら課題を発見し解決に挑む力 ・独創的な能力 ・チームのマネージメント力 ・企画立案、関係者との調整、統率する能力 ・他者と協働する力	問 7	【4. プログラムの有効性】 このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせる為にどの程度有効だと思いますか。 ・高度な専門的知識・研究能力 ・高い国際性 ・専門以外の分野の幅広い知識 ・物事を俯瞰し本質を見抜く力 ・自ら課題を発見し解決に挑む力 ・独創的な能力 ・チームのマネージメント力 ・企画立案、関係者との調整、統率する能力 ・他者と協働する力
問 13 ／ 該 当 な し	【8. プログラムへの評価】 以下の点について、どのように考えますか。 ・プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている ・多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている ・指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である ・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい ・後輩にもこのプログラムを勧めたい	問 9	【6. プログラムに対する印象】 以下の点について、どう考えられていますか。 ・プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています ・連携先機関と共通理念に基づいた教育が行われている ・既存の研究科等や機関の枠を超え、博士課程前期・後期一貫した体系的な教育課程の編成による高度な研究を通じた組織的な教育が行われている ・プログラムを通じて授与される学位の質保証が適切に行われている ・多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている ・プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である ・大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である ・優秀な学生が多数入学している ・今後優秀な学生をより多く獲得できる ・優秀な社会人の博士学位の取得促進が行われている ・学生はプログラムの意図を良く理解している ・学生にとって、将来の進路が明確になっている ・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す見込みがある ・このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている ・このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある ・これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい
問 14 ／ 問 11	【9. プログラムの効果・負担】 以下の点について、どのように考えますか。 ・このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである） ・所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている ・所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えている ・修了後の進路に不安がない	問 11	【8. 学生への効果・負担】 以下の点について、どう考えられていますか。 ・このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる（得られそうである） ・学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている ・プログラムに参画している学生は所属研究室において専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えられる ・学生の将来の進路に不安がない

第1部 学生アンケート調査結果

1. プログラムへの参加動機（問7-1）

学生にこのプログラムへの参加動機について、あてはまるもの全て（図1）と、その中で最も直接的な動機に近いもの（図2）について聞いている。

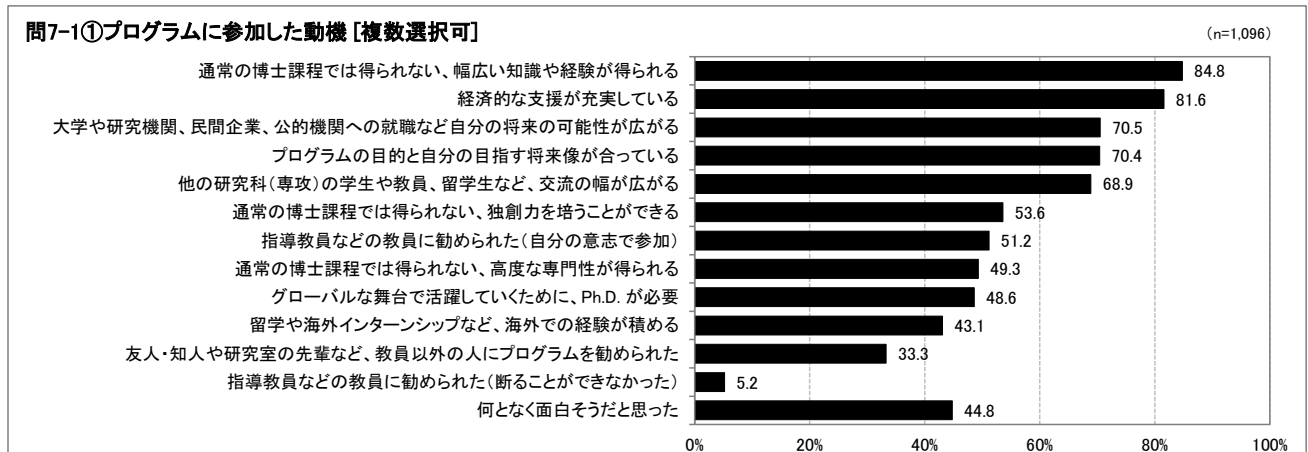


図1 プログラムへの参加動機（複数選択可）(n=1,096)

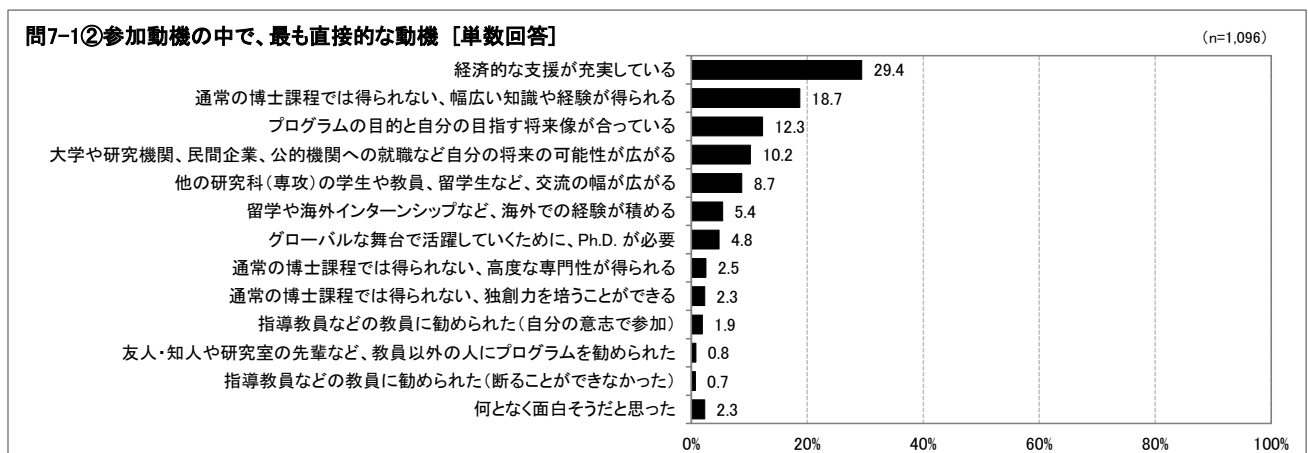


図2 プログラムへの参加動機（単数回答）(n=1,096)

2. プログラムがなかった場合の最終学位（問7－2）

学生にこのプログラムがなかった場合、どの最終学位を選択していたかについて聞いている。（図3）

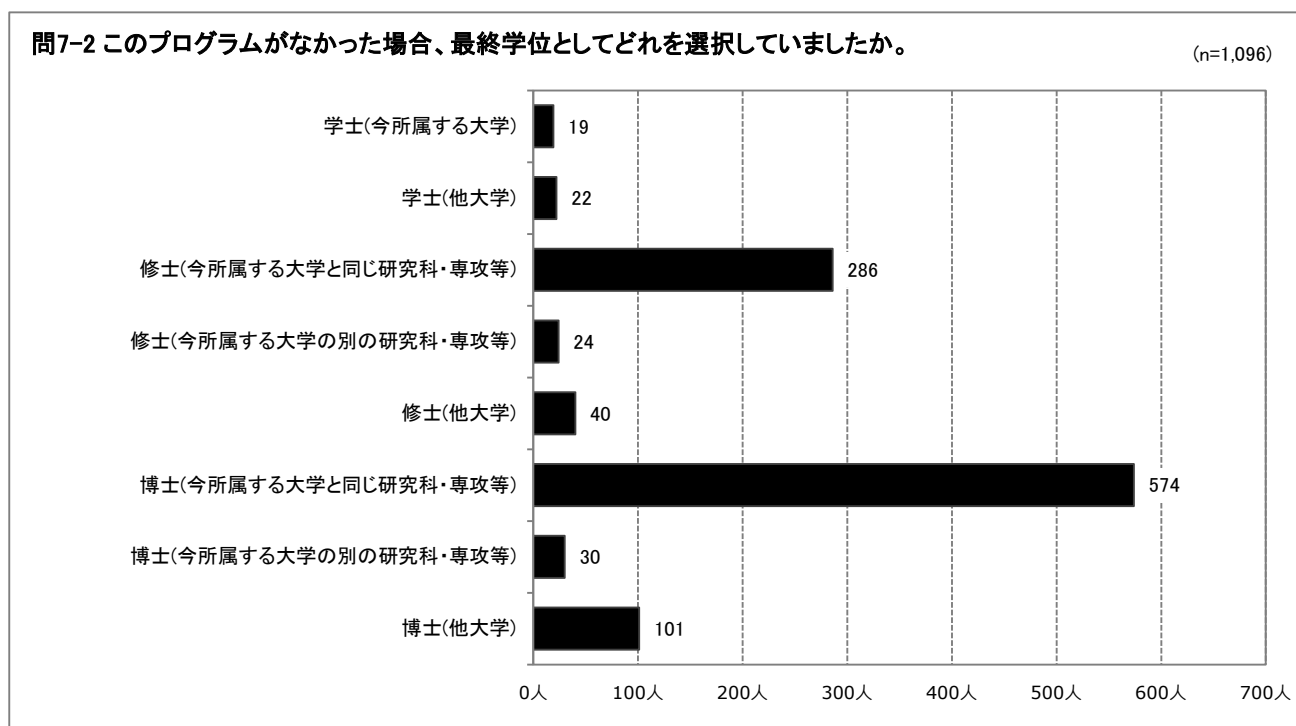


図3 プログラムがなかった場合の最終学位 (n=1,096)

3. プログラムに対する感想（問8）

学生にこのプログラムをどのように評価するか感想を聞いている。（図4）

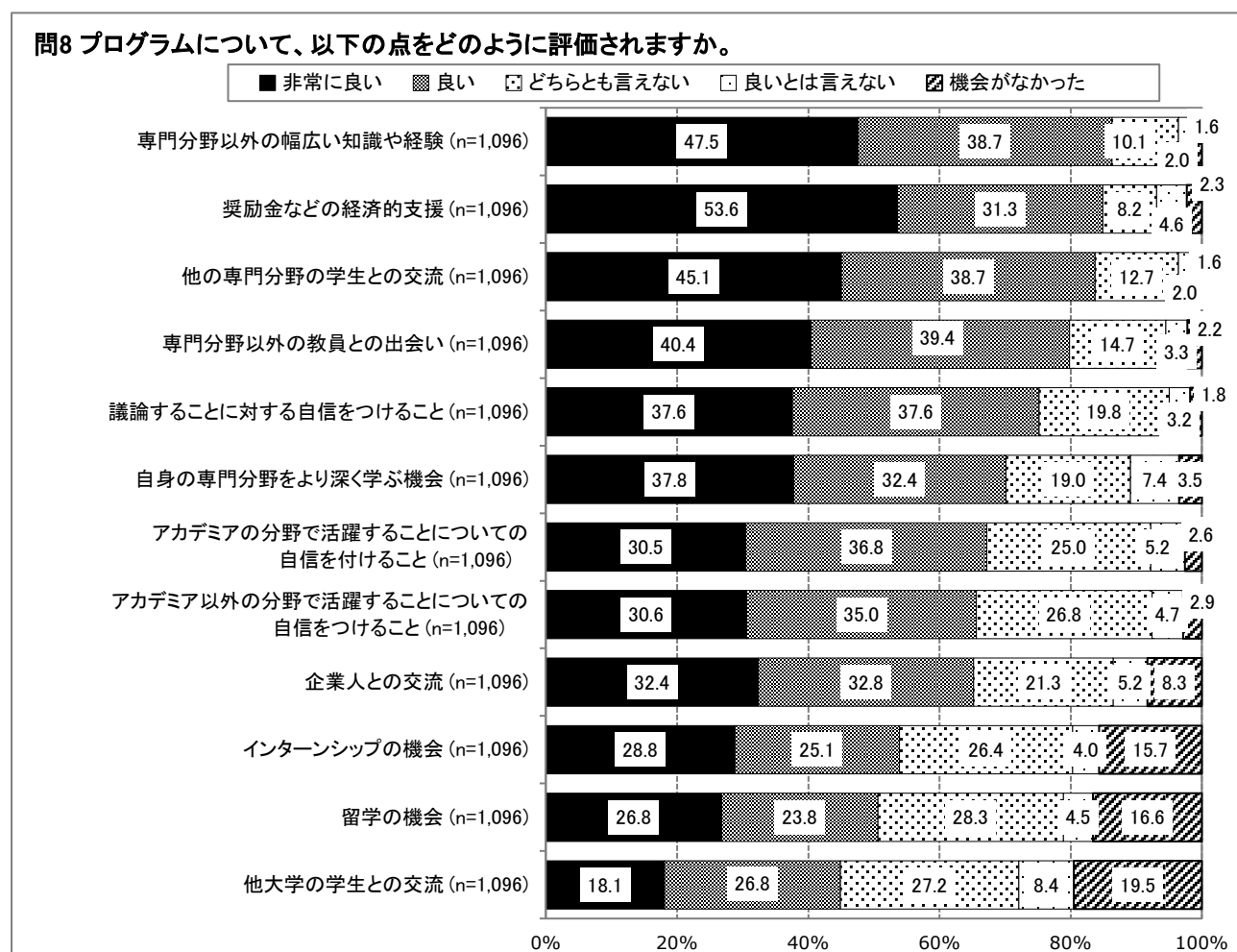


図4 プログラムに対する感想 (n=1,096)

4. プログラムで受けた指導（問10）

学生にこのプログラムについて、どのような指導をどの程度の頻度で受けたか（図5）、また受けた指導は、それが有効であったか（図6）、について聞いている。

指導の内容

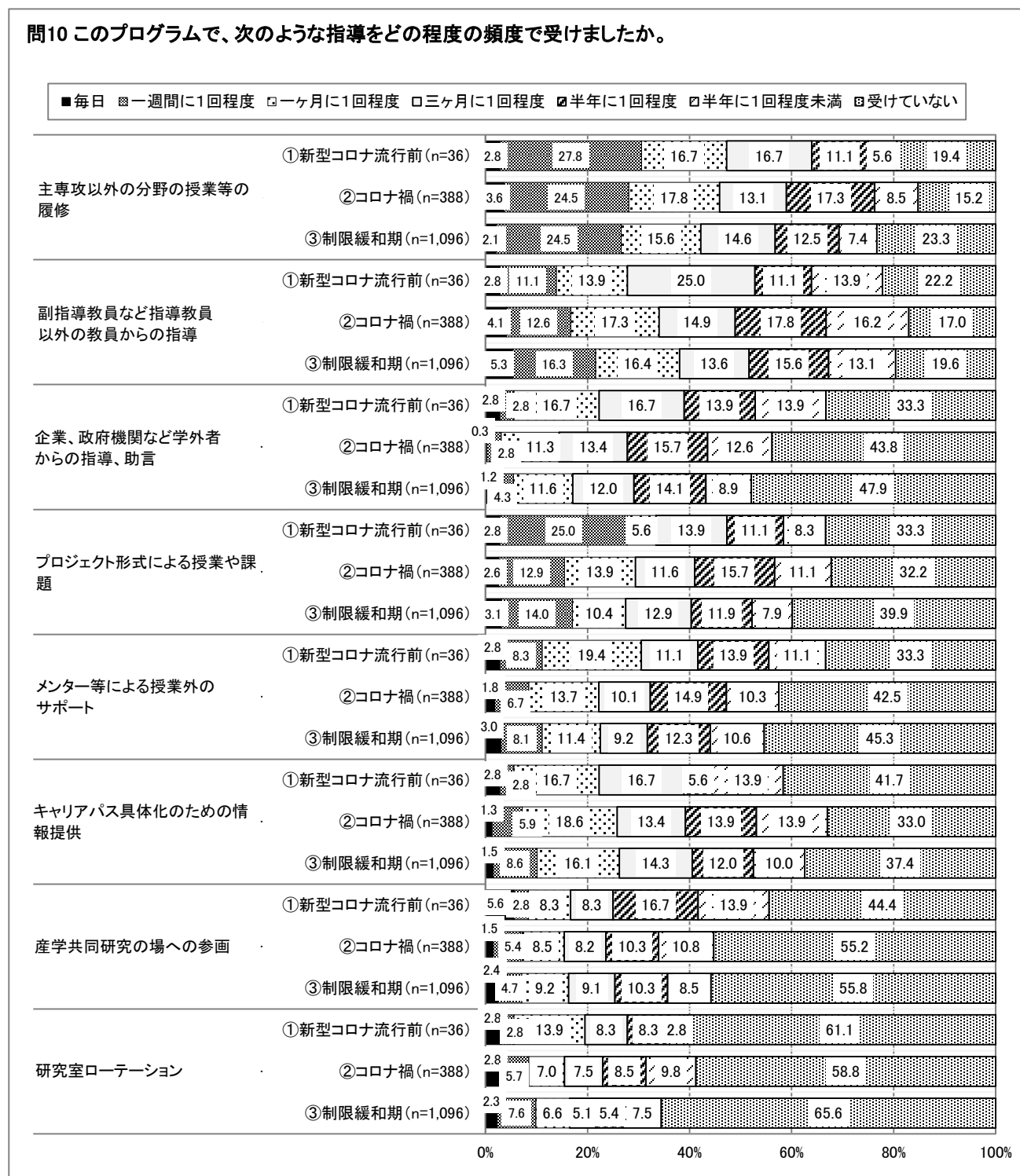


図5 プログラムで受けた指導（①新型コロナ流行前 n=36、②コロナ禍 n=388、③制限緩和期 n=1,096）

受けた指導の有効性

<「毎日」～「半年に1回程度未満」を選択した場合のみ回答>

問10 以下のような指導を受けた場合、それは有効でしたか。

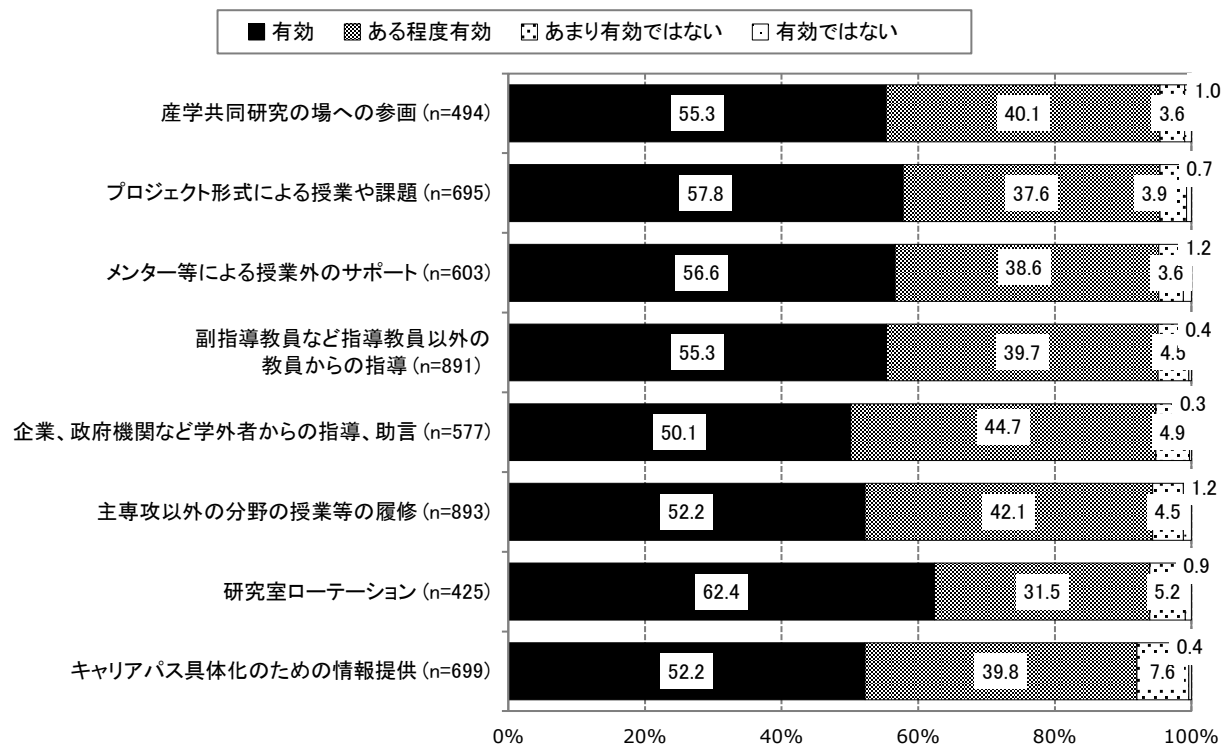


図6 指導を受けた場合の有効性

5. 環境の整備と有効性（問 1 1 A）

学生に研究やプログラムの活動に専念するためにどのような環境が整備され経験しているか（図 7）、それが有効に機能しているか（図 8）、について聞いている。

プログラムで整備された環境

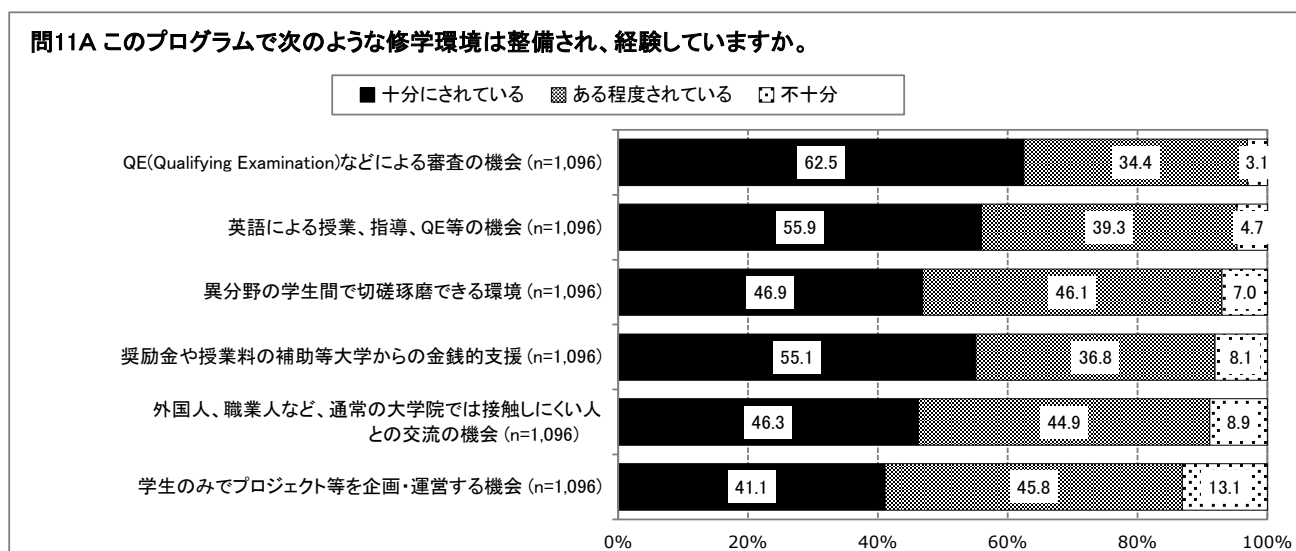


図 7 プログラムで整備された環境 (n=1, 096)

環境の有効性

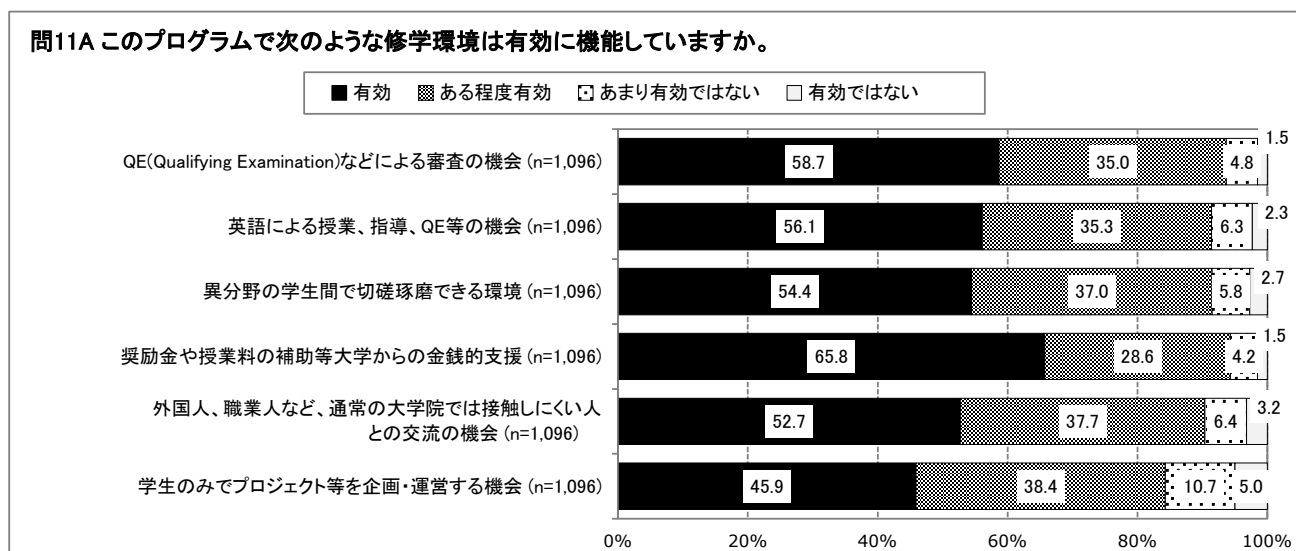


図 8 整備された環境の有効性 (n=1, 096)

6. 経験の有無と有効性（問 1 1 B）

プログラムで用意された活動に参加したか（図 9）、それが有効に機能しているか（図 1 0）について聞いている。

プログラムでの経験

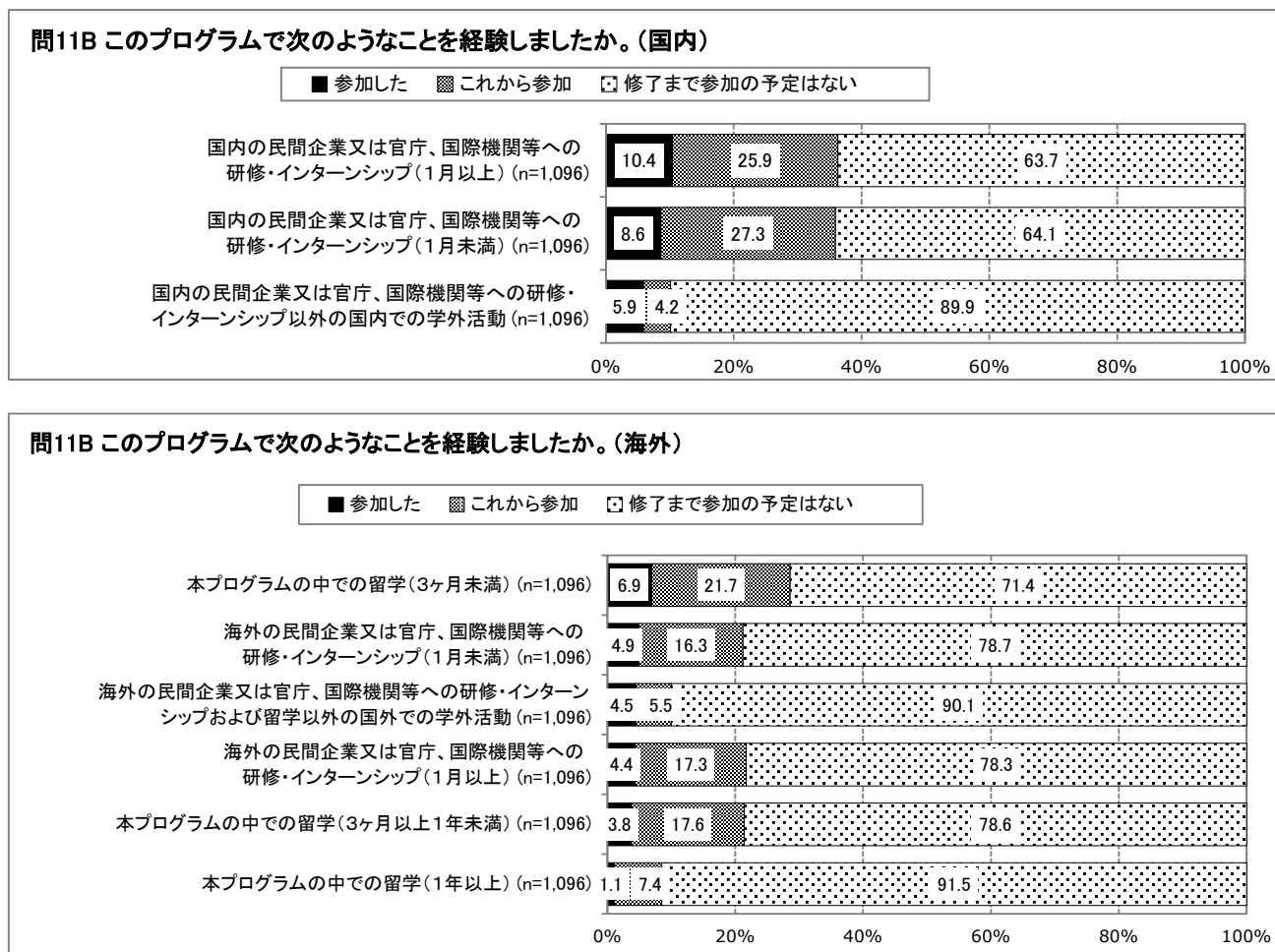


図 9 プログラムでの経験 (n=1, 096)

経験の有効性

<「参加した」を選択した場合のみ回答>

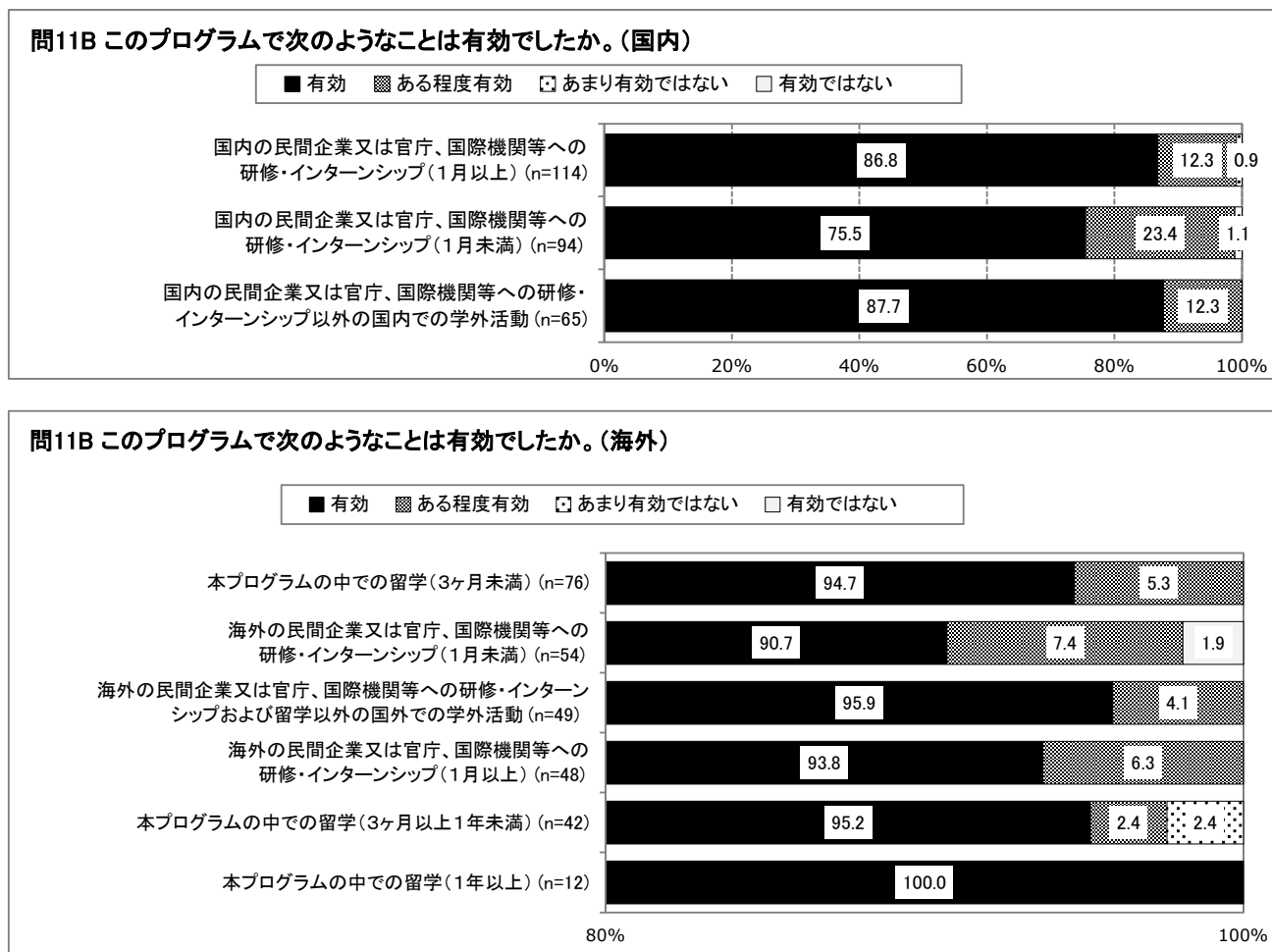


図 10 プログラムでの経験の有効性

7. 身に付いた能力（問 1 2）

学生にプログラムに参画することにより身に付いた能力（図 1 1）を聞いている。

身に付いた能力

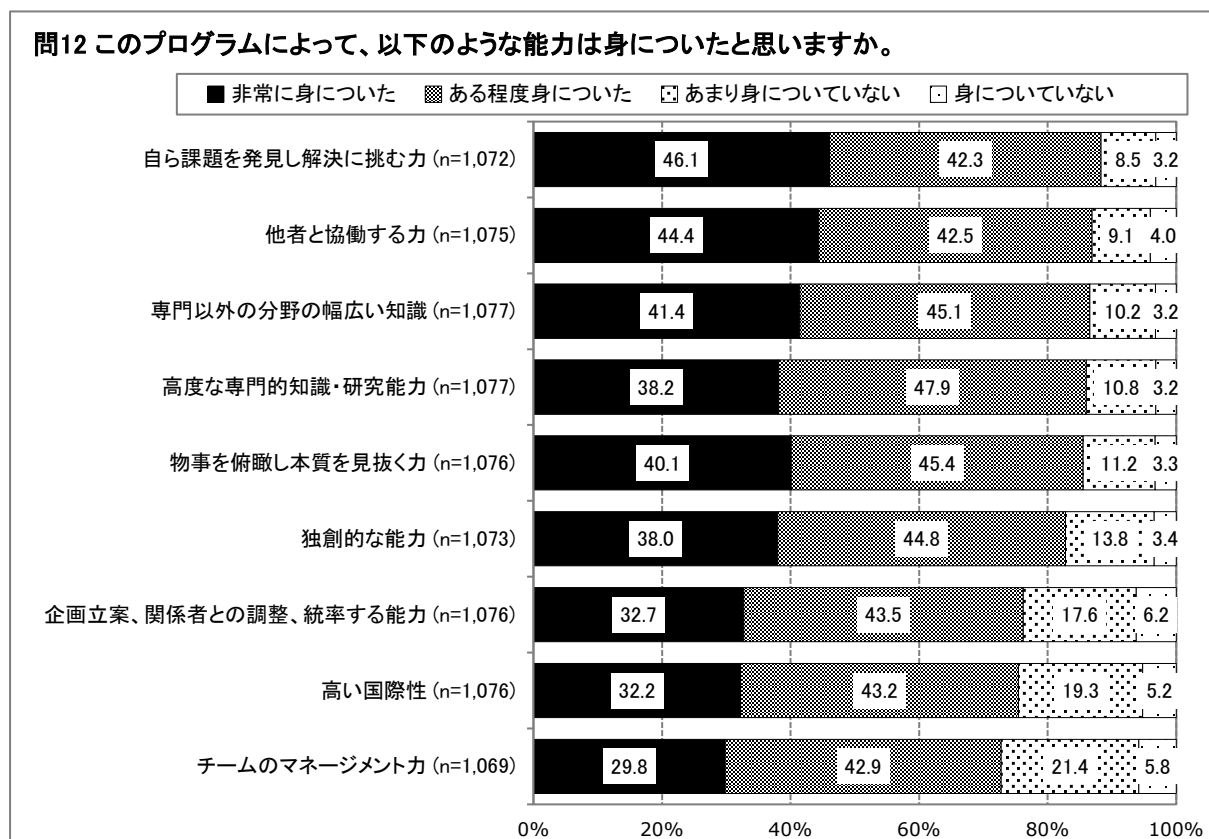


図 11 プログラムによって身に付いた能力

8. プログラムへの評価（問13）

学生にプログラムに実際に参加している教員や、プログラムに参加していない周囲の教員等のプログラムへの理解や、プログラムそのものに対する印象を聞いている。（図12）

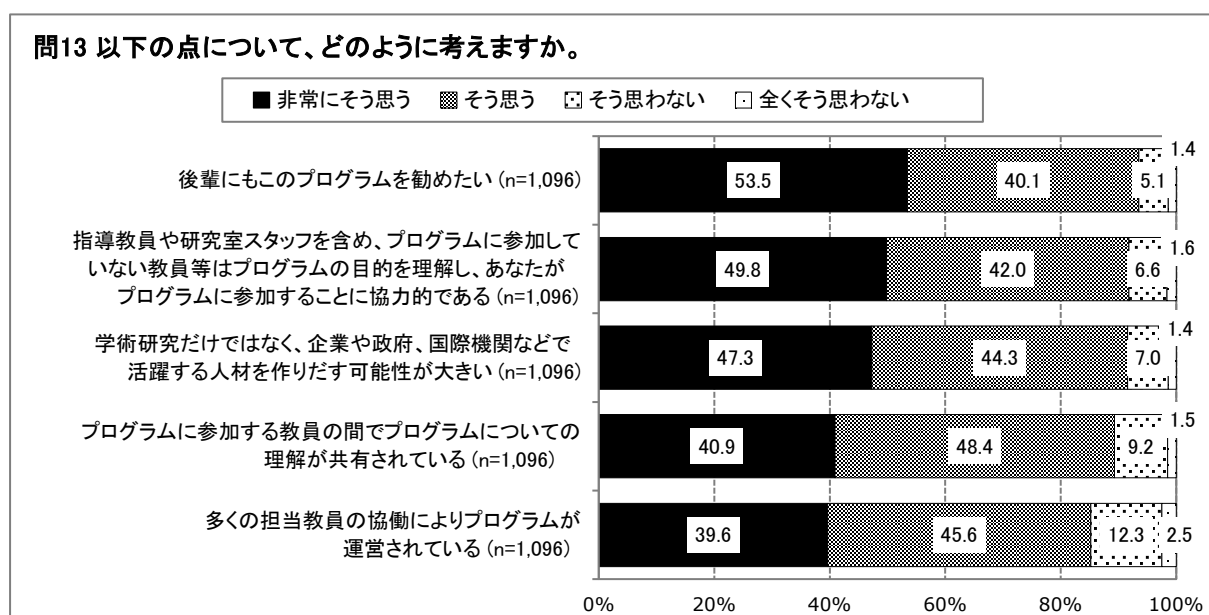


図12 プログラムへの評価（n=1,096）

9. プログラムの効果・負担（問14）

学生にプログラム参加による研究面やキャリア面での効果、また負担について聞いている（図13）。

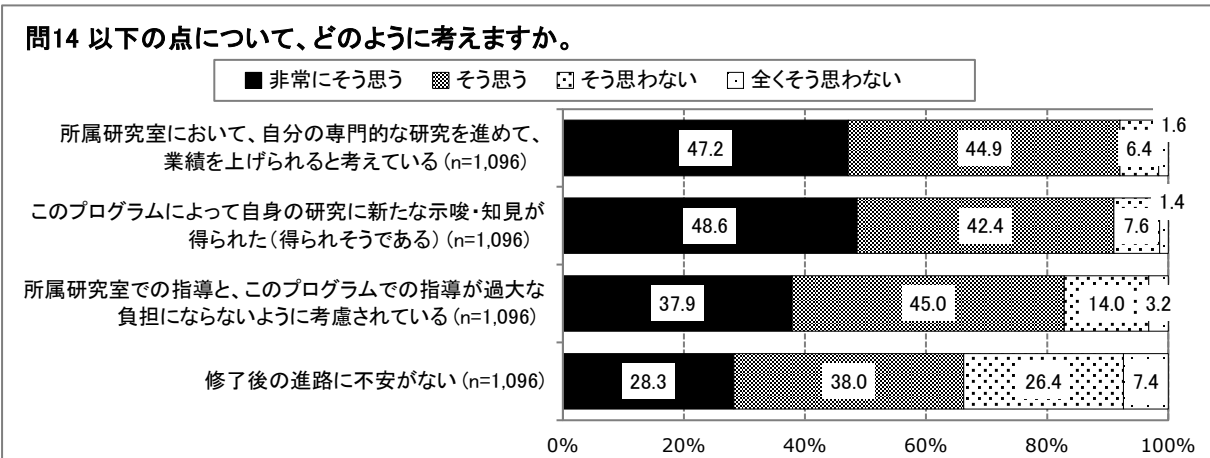


図13 プログラムの効果・負担 (n=1,096)

10. 修了後の進路（問15）

学生の進路について、入学時、アンケート回答時点（現在）の希望および決定した進路について聞いている（図14～図17）。

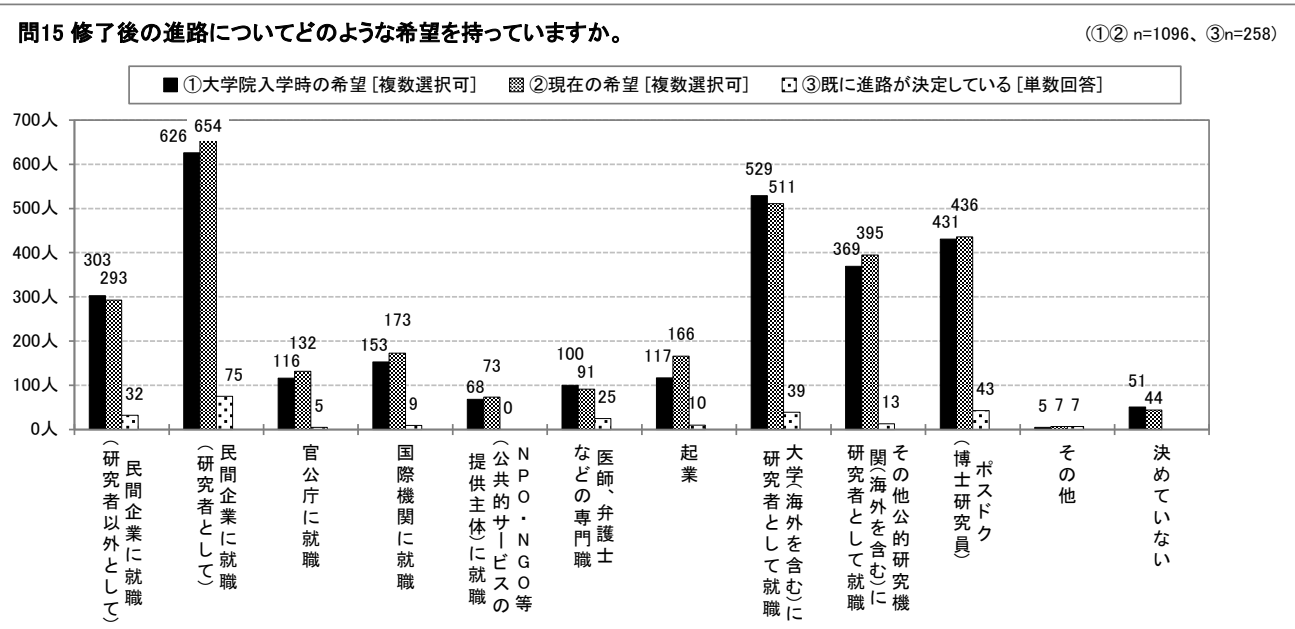


図14 ①大学院入学時、②現在の希望、③進路決定済み比較 (①②n=1,096、③n=19)

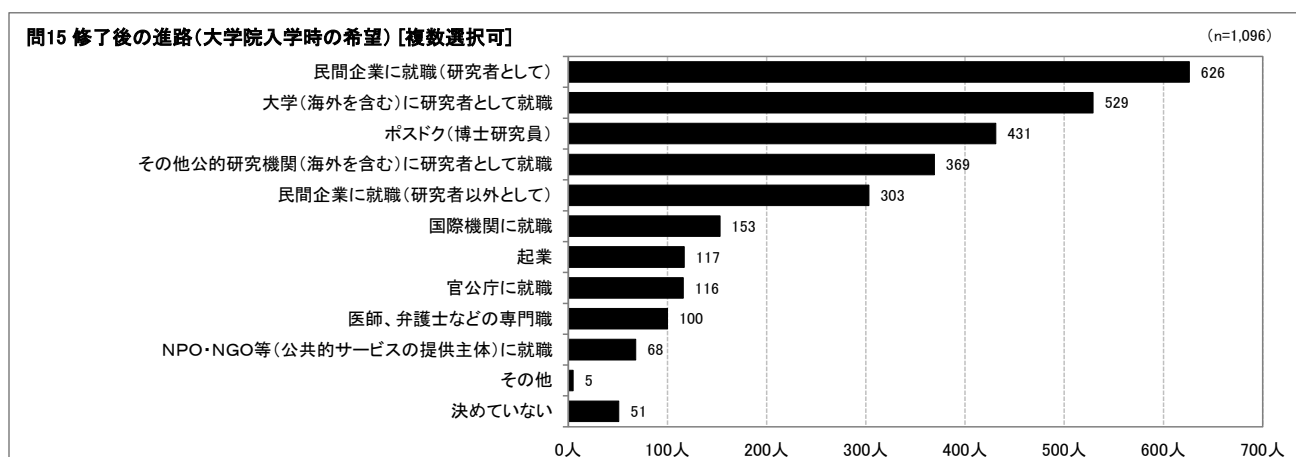


図 15 大学院入学時の修了後の進路の希望 (n=1,096)

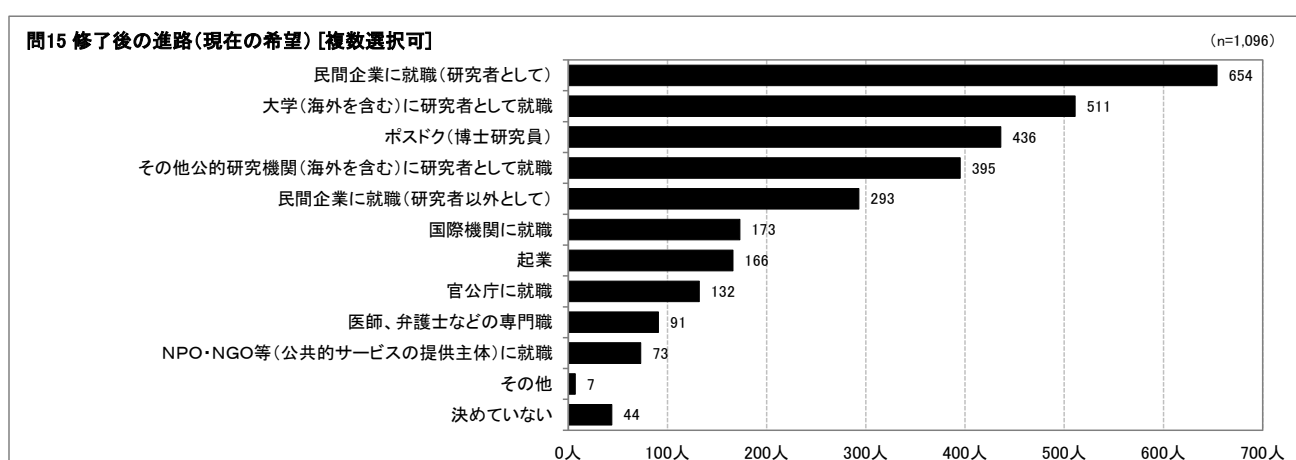


図 16 アンケート回答時点での修了後の進路の希望 (n=1,096)

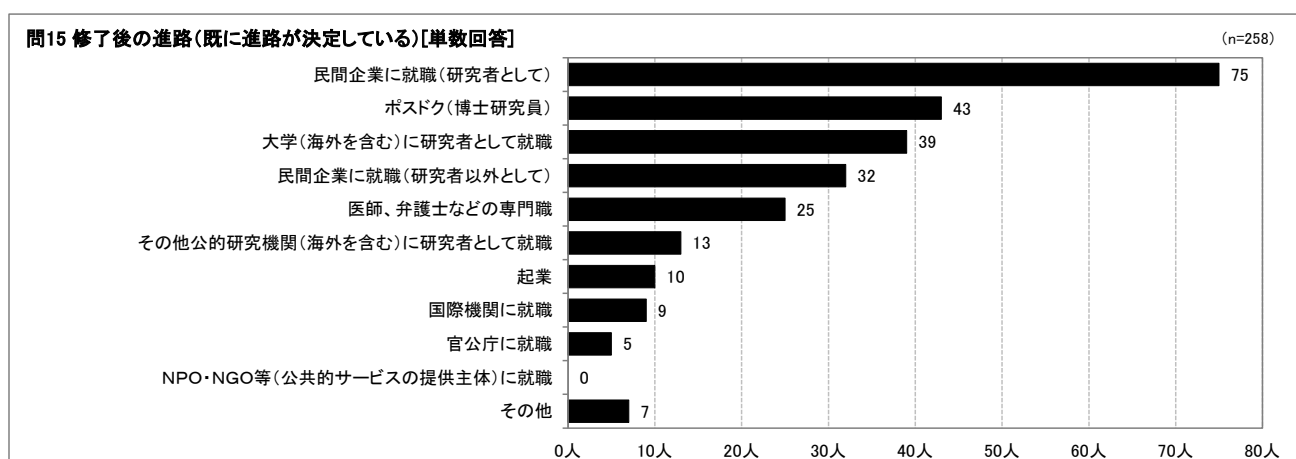
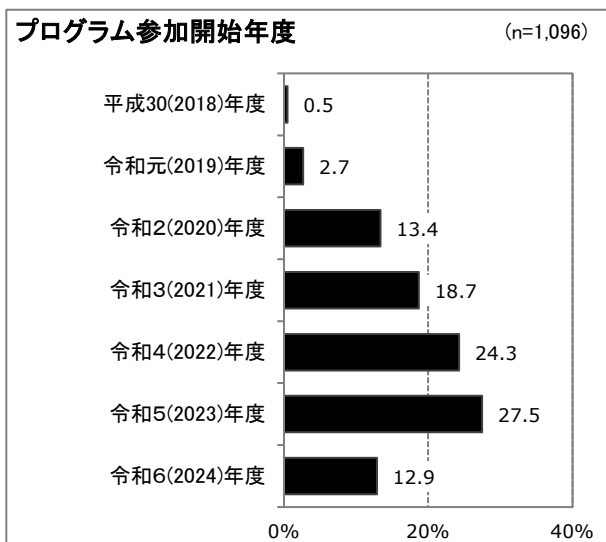
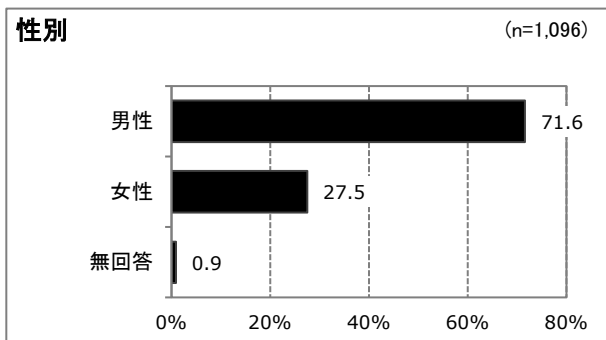
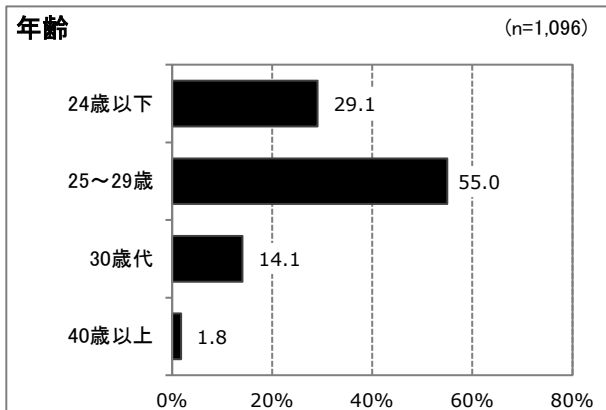
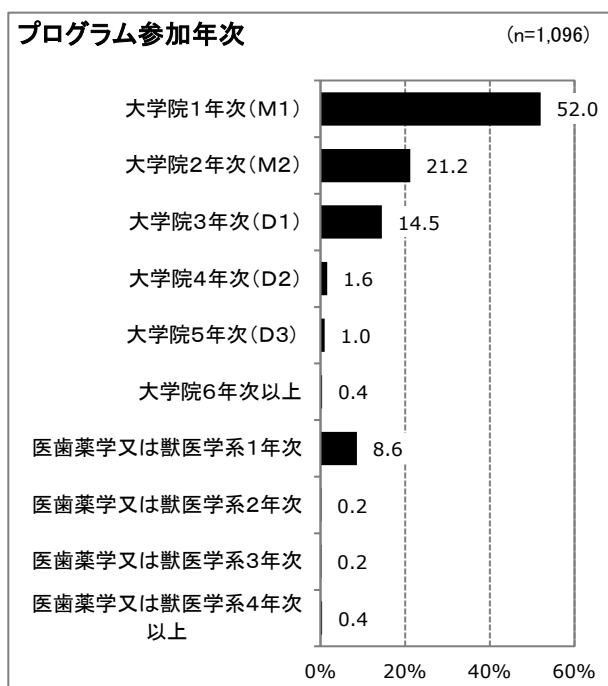
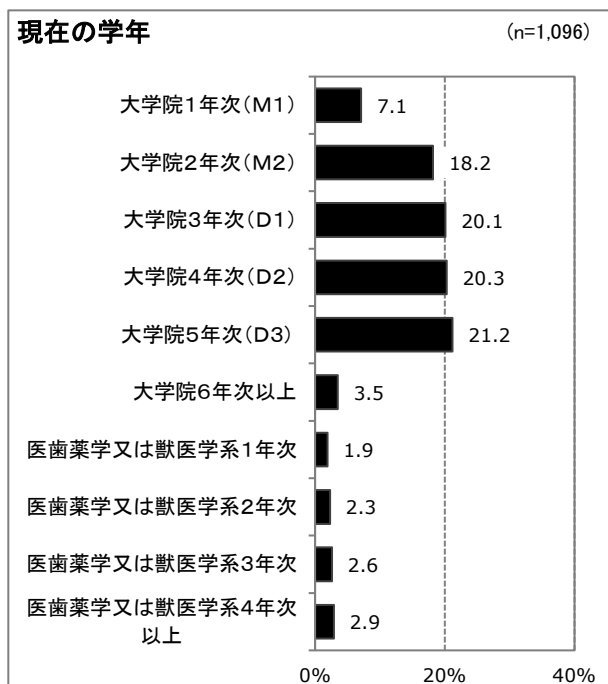


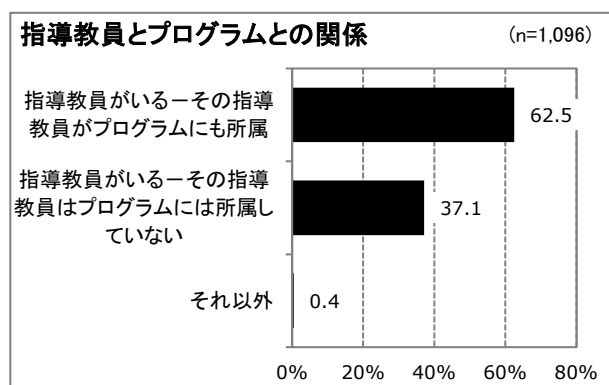
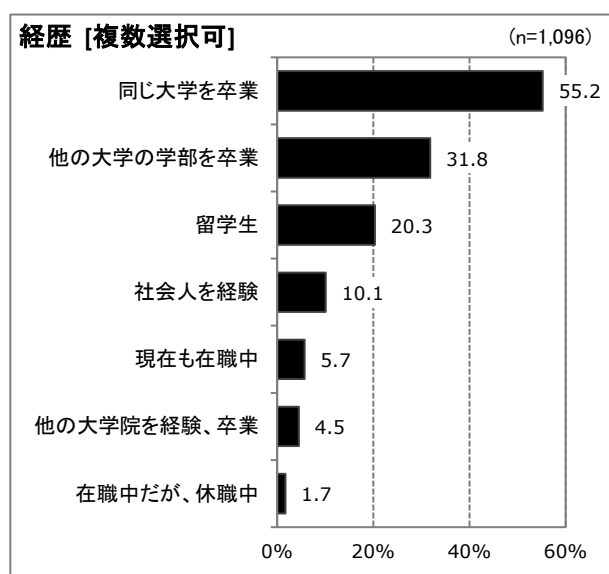
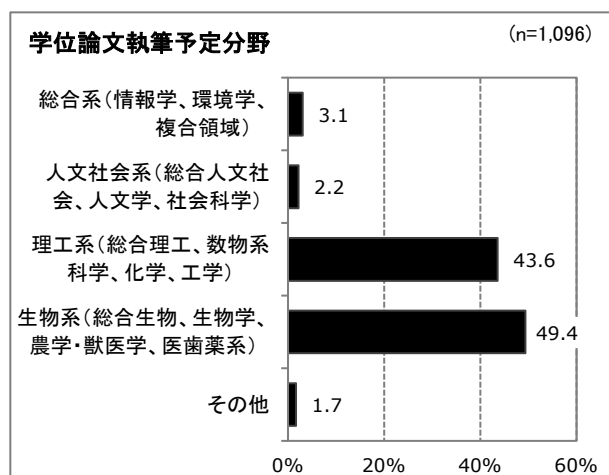
図 17 既に決定している進路 (n=258)

1 1. 学生の属性（問 2, 3, 4, 5）

本項目では、アンケートを回答した学生の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。







12. プログラム情報の獲得方法（問19）

本項目では、プログラムをどのようにして知ったかについて、回答を選択した人数を掲載する。なお、本項目は任意回答としている。（図18）

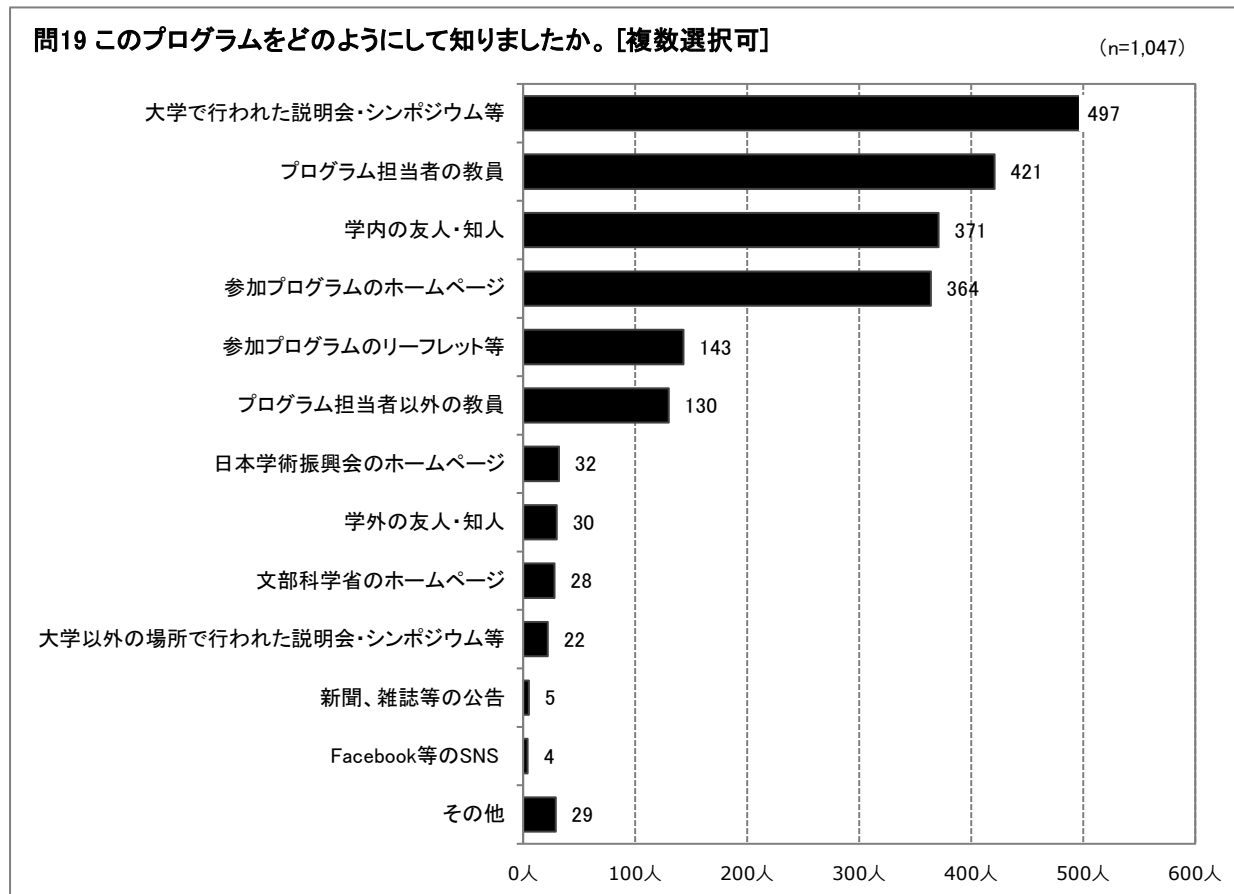


図18 プログラム情報の獲得方法 (n=1,047)

第2部 プログラム担当者アンケート調査結果

1. プログラムへの関与（問3）

学位プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成などを総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤または非常勤の者（以下、プログラム担当者）に対し、本事業への申請時に想定されていたエフォートと、令和5年度の実績としてのエフォートを聞いている（図19）。

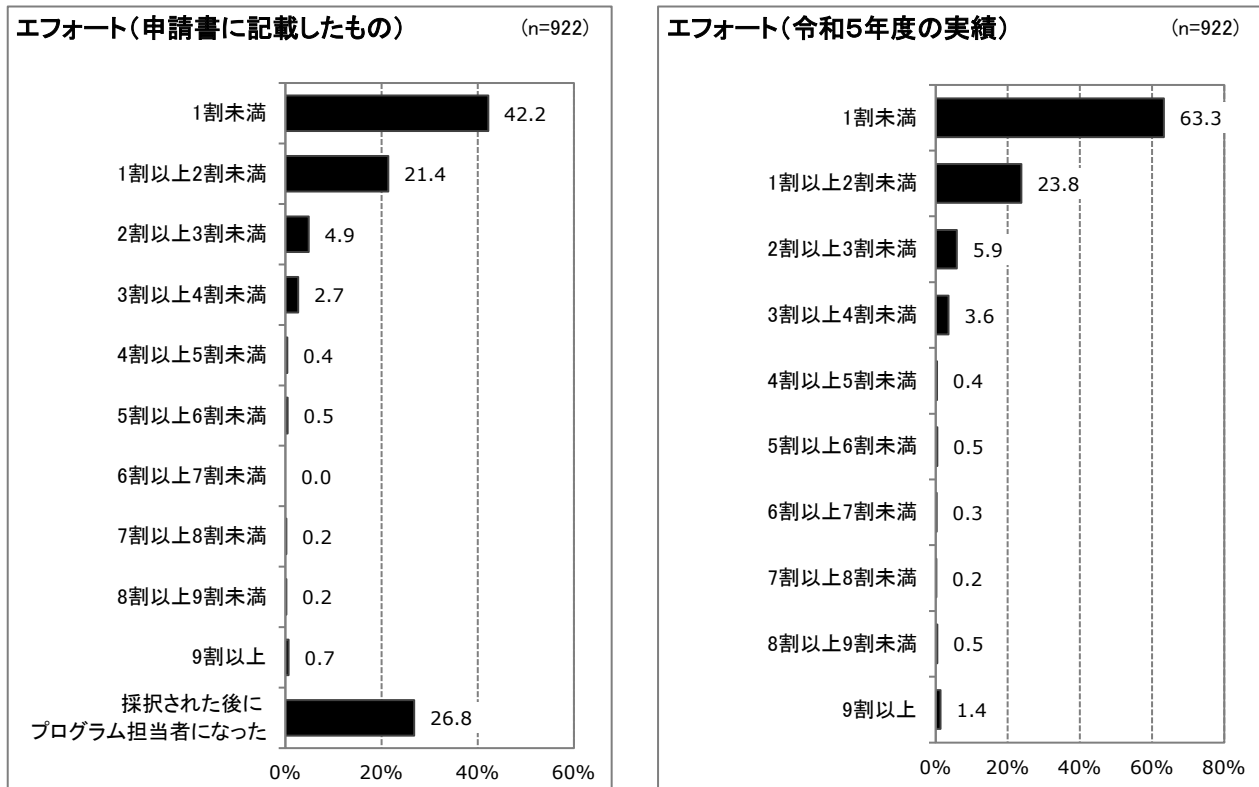


図19 申請時の想定と令和2年度実績のエフォート (n=922)

2. 指導の内容（問5）

プログラム担当者に対し、どのような指導を行っているか（図20）、また行っている場合はその有効性について聞いている（図21）。

行っている指導

問5 このプログラムで以下のような指導が行われていますか。

■ 毎日 ■ 一週間に1回程度 □ 一ヶ月に1回程度 □ 三ヶ月に1回程度 ▨ 半年に1回程度 □ 半年に1回程度未満 □ 行っていない

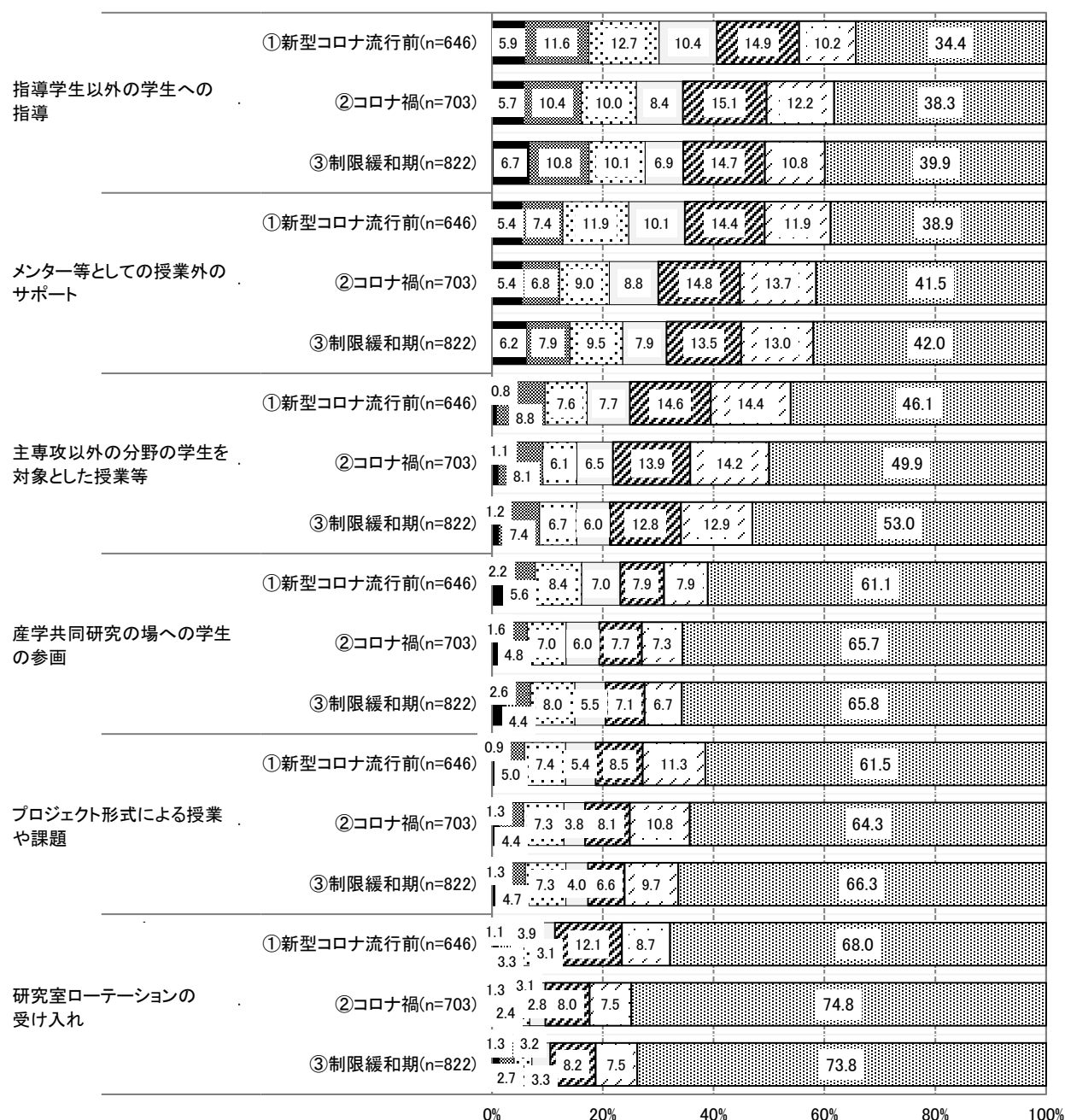


図20 プログラムで担当している指導等（①新型コロナ流行前 n=646、②コロナ禍 n=703、③制限緩和期 n=822）

指導の有効性

<「よく行っている」「行っている」を選択した場合のみ回答>

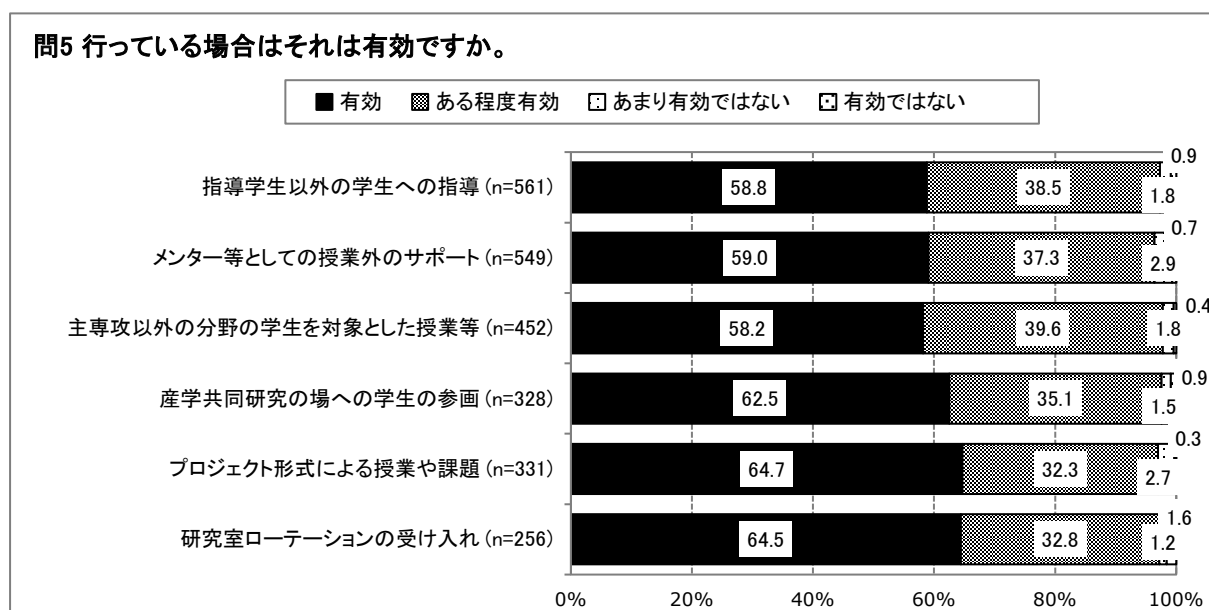


図 21 指導の有効性

3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6）

本プログラム内で学生のために実施されたプログラムや整備された環境について、それが十分実施（整備）されていると感じているか（図22）、また「されている」を選択した場合にはそれが有効と考えているかについて聞いている（図23）。

プログラムの実施及び環境の整備状況

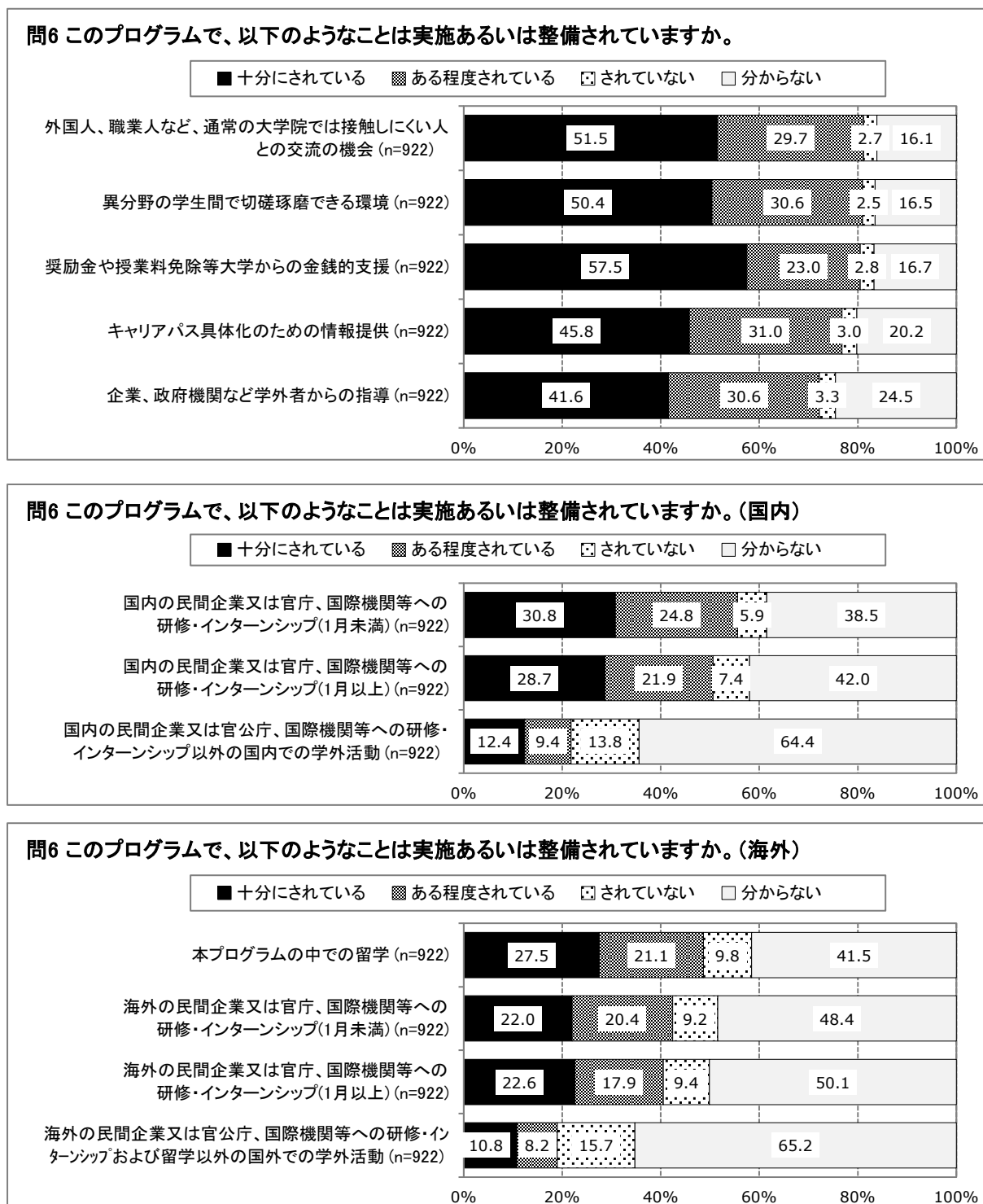


図22 プログラムの実施や環境の整備状況 (n=922)

実施されたプログラムと整備された環境の有効性

<「されていない」「分からない」以外を選択した場合のみ回答>

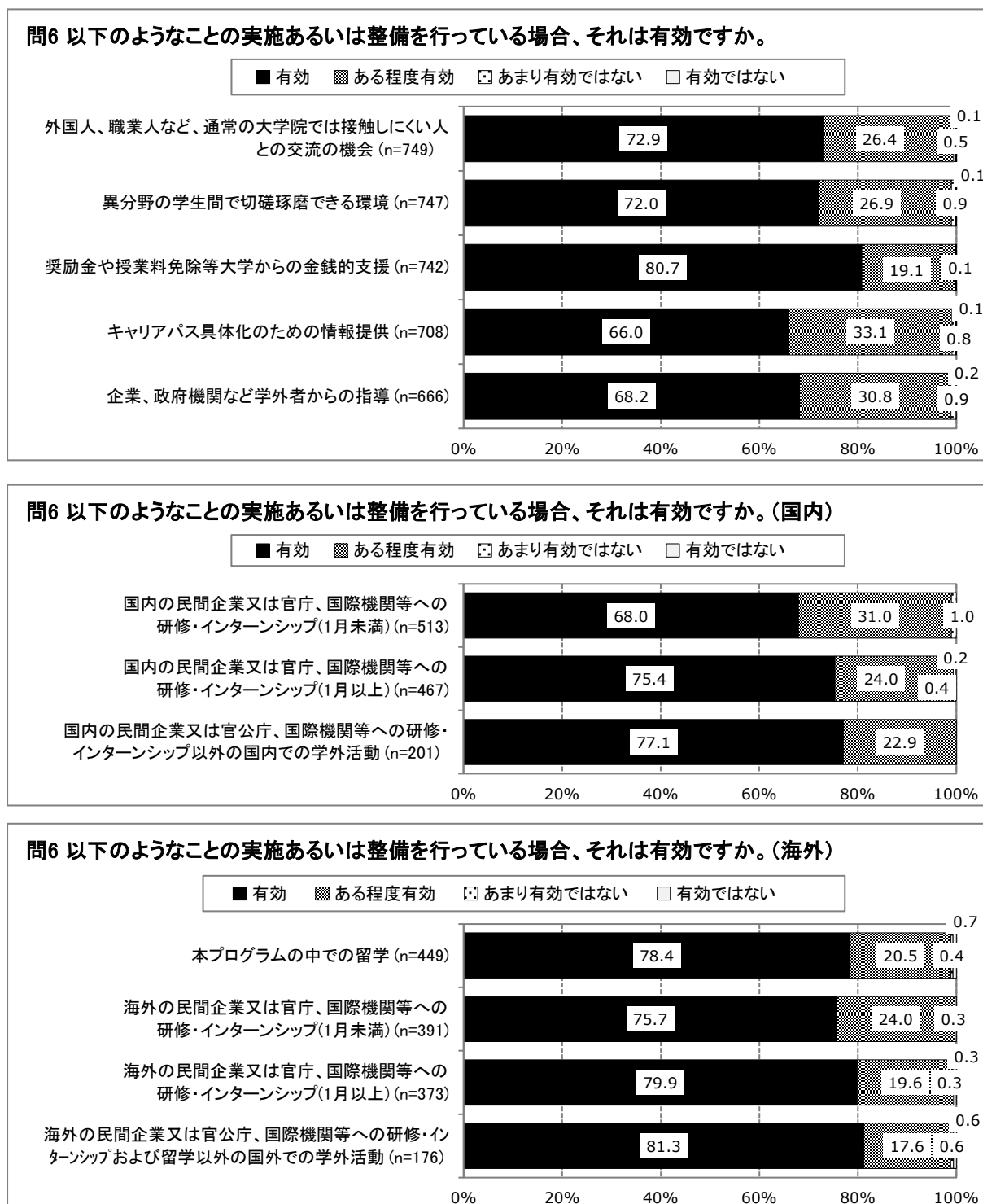


図 23 実施されたプログラムと整備された環境の有効性

4. プログラムの有効性（問7）

各プログラムに参画することにより、学生に各能力を身に付けさせることができるか、その有効性を聞いている（図24）。

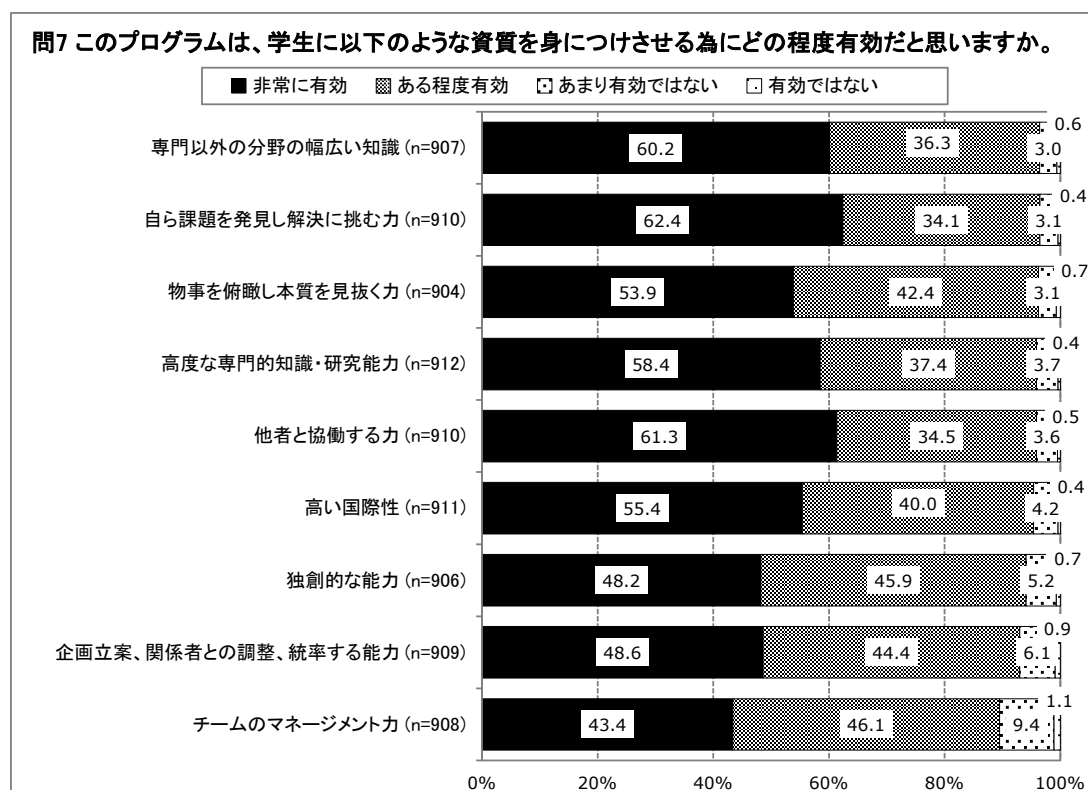


図24 学生へ能力を身に付けさせるためのプログラムの有効性

5. 運営・管理（問8）

プログラムの運営・管理の面についての印象をプログラム担当者へ聞いている（図25）。

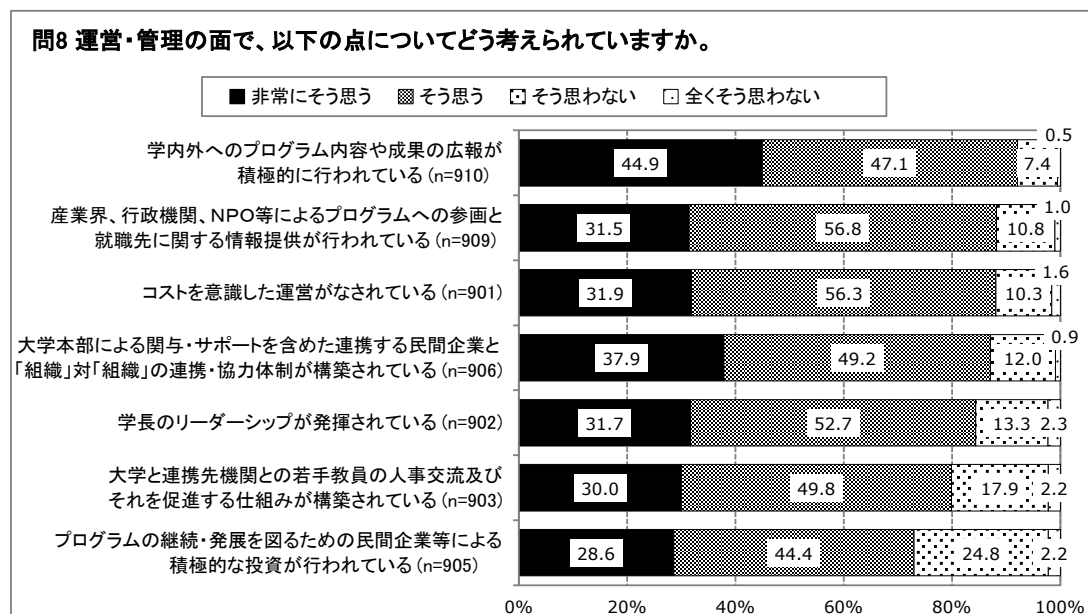


図25 運営・管理の面での印象

6. プログラムに対する印象（問9）

プログラムに参画している学生やプログラムの将来展望などを含めた、プログラムの印象を聞いている（図26）。

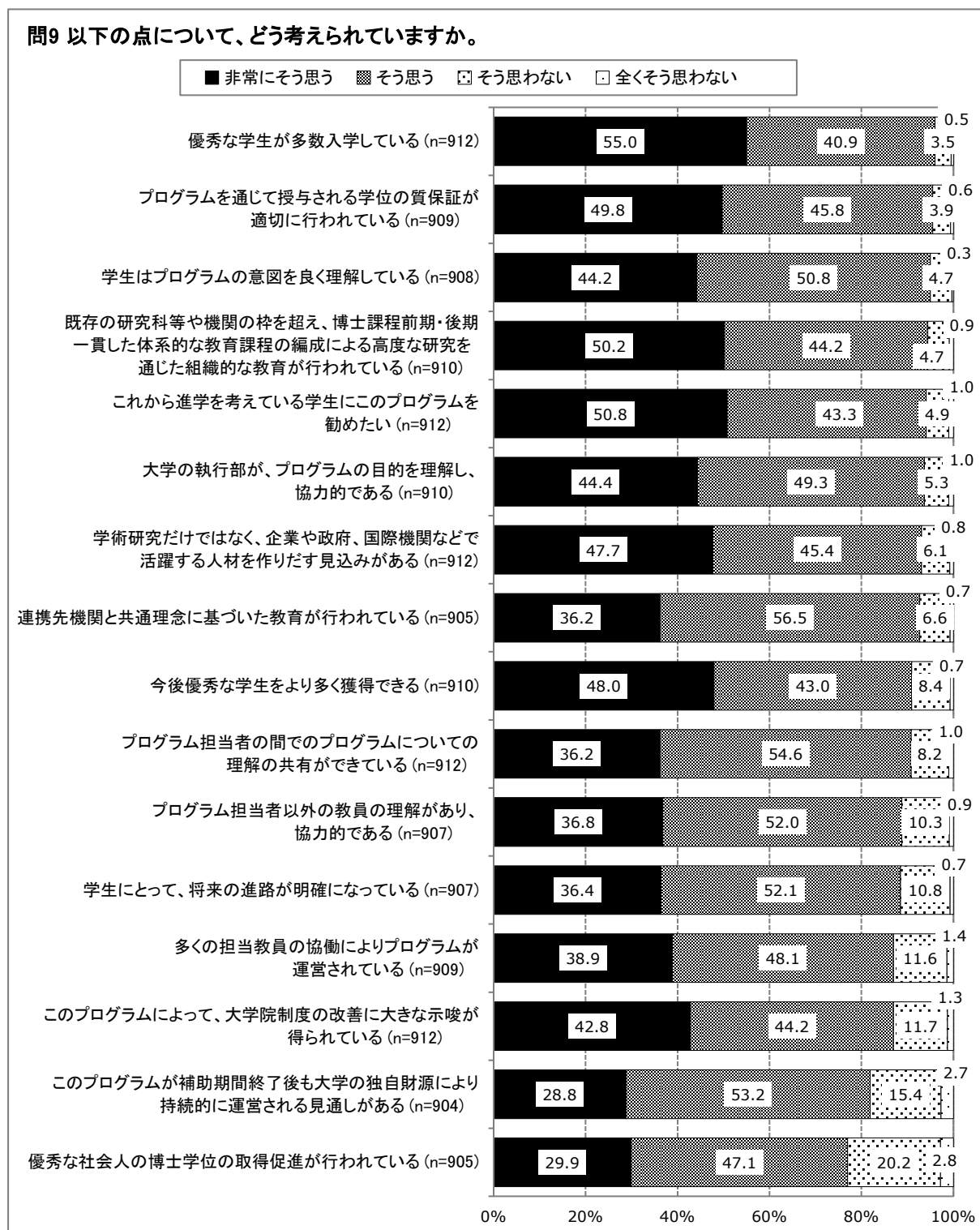


図 26 プログラムに対する印象

7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10）

プログラムで担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケートを行っているか聞いている（図27）。

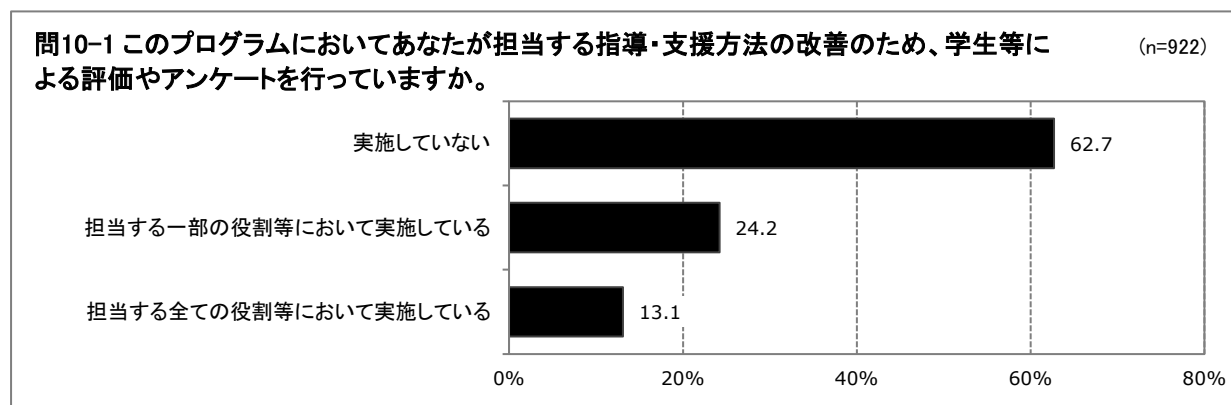


図27 指導・支援の改善のための評価等の実施 (n=922)

8. 学生への効果・負担（問11）

学生への効果や負担等について聞いている（図28）。

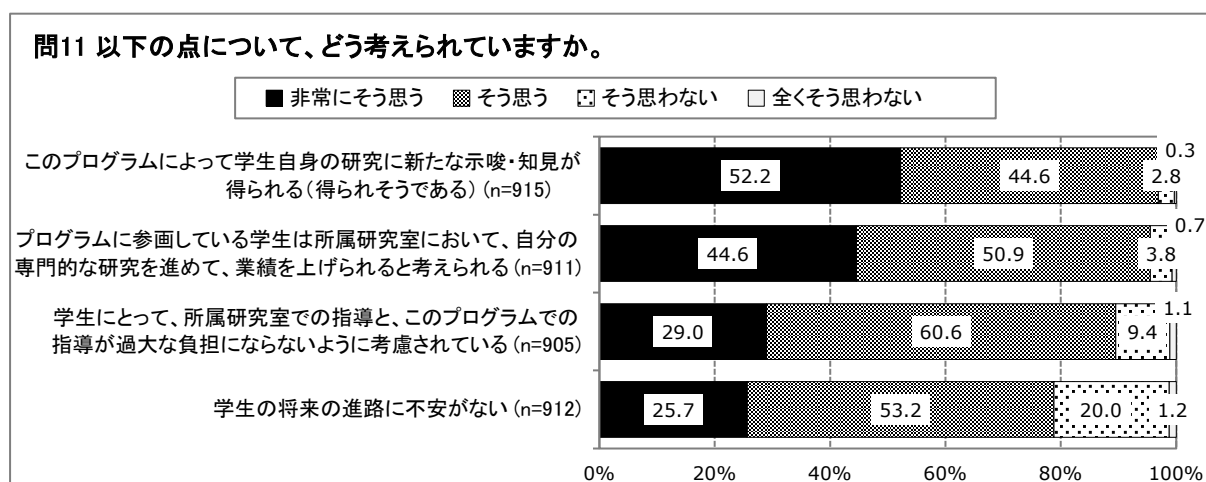
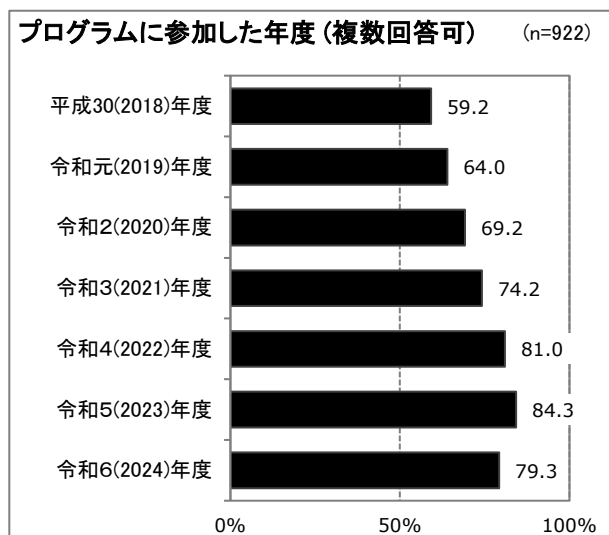
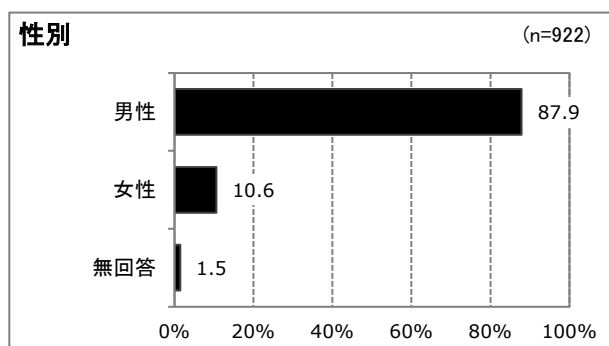
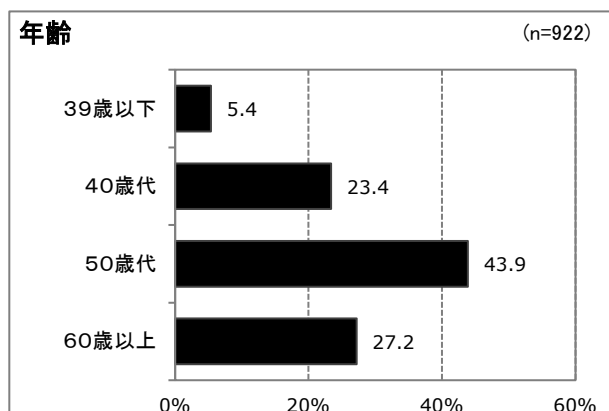
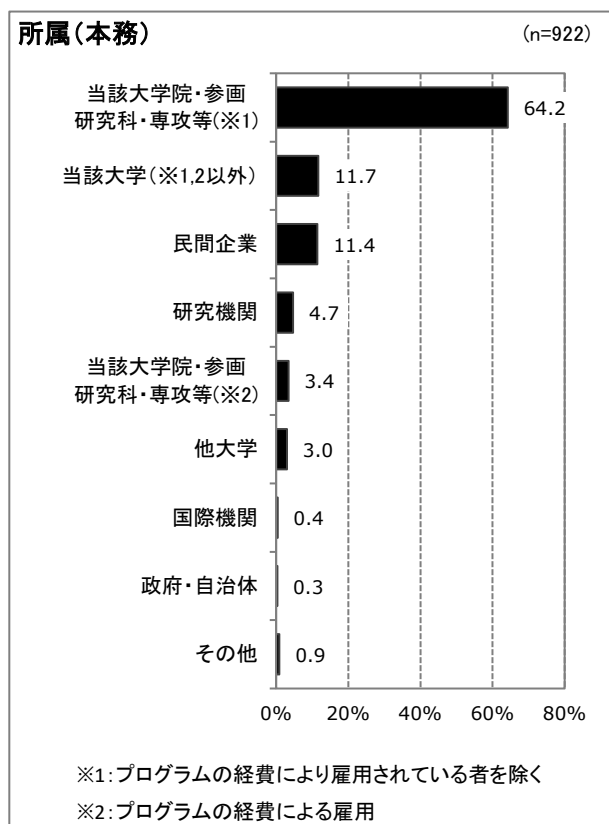
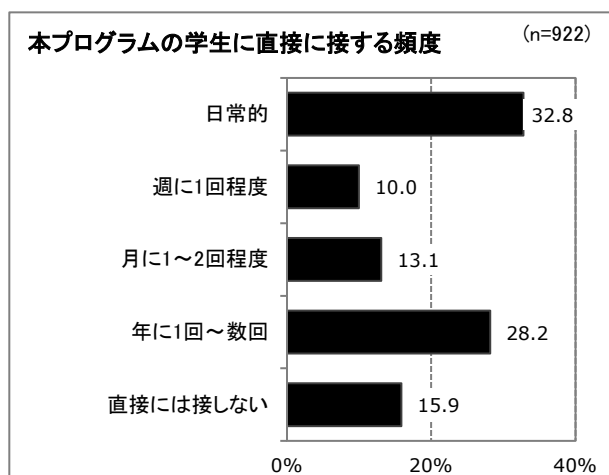


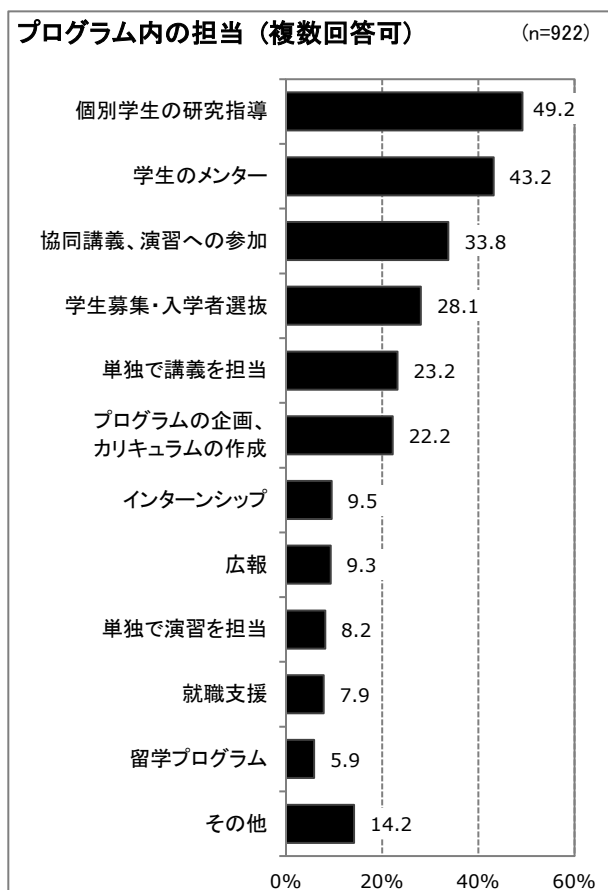
図28 学生への効果・負担等

9. 参加教員の属性（問2，3，4）

本項目ではアンケートに回答したプログラム担当者の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。







第3部 修了者アンケート調査結果

1. プログラムへの参加動機（問6-1）

修了者にこのプログラムへの参加動機について、あてはまるもの全て（図1）と、その中で最も強い動機（図2）について聞いている。

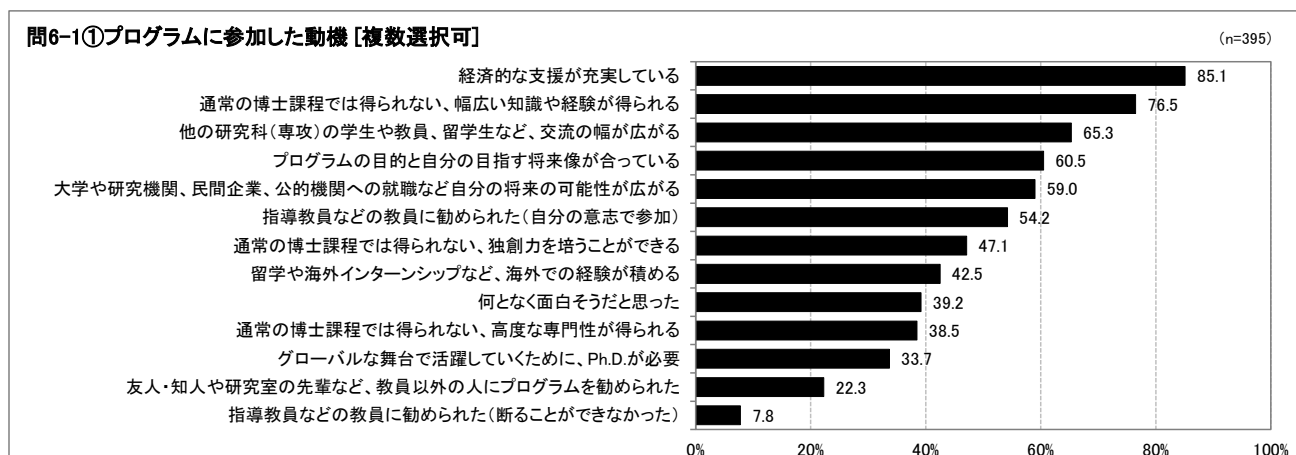


図1 プログラムへの参加動機（複数選択可）(n=395)

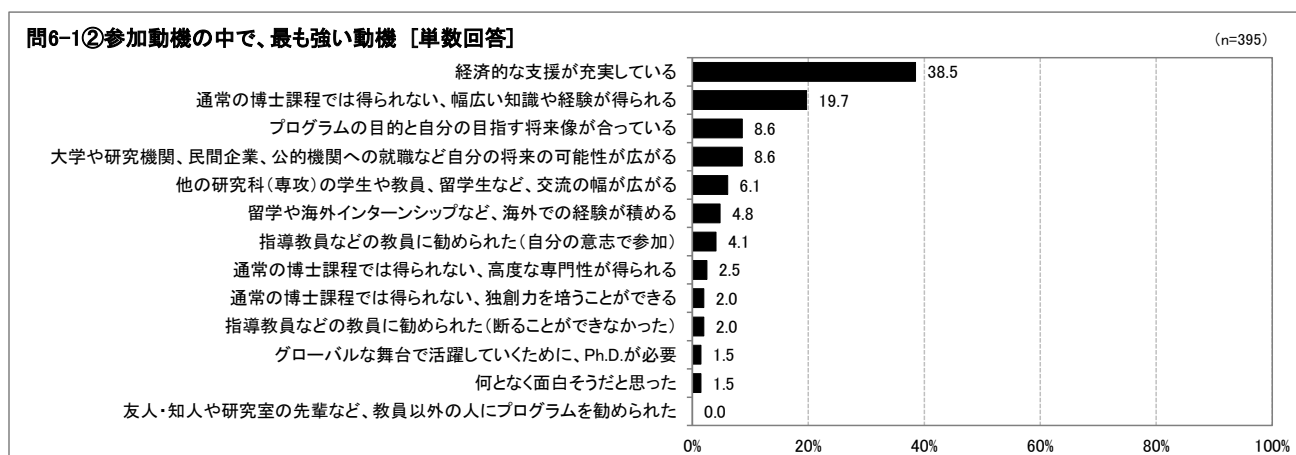


図2 プログラムへの参加動機（単数回答）(n=395)

2. プログラムへの参加動機（問6－2）

修了者にプログラムへの参加動機がどの程度満たされたか聞いている。（図3）

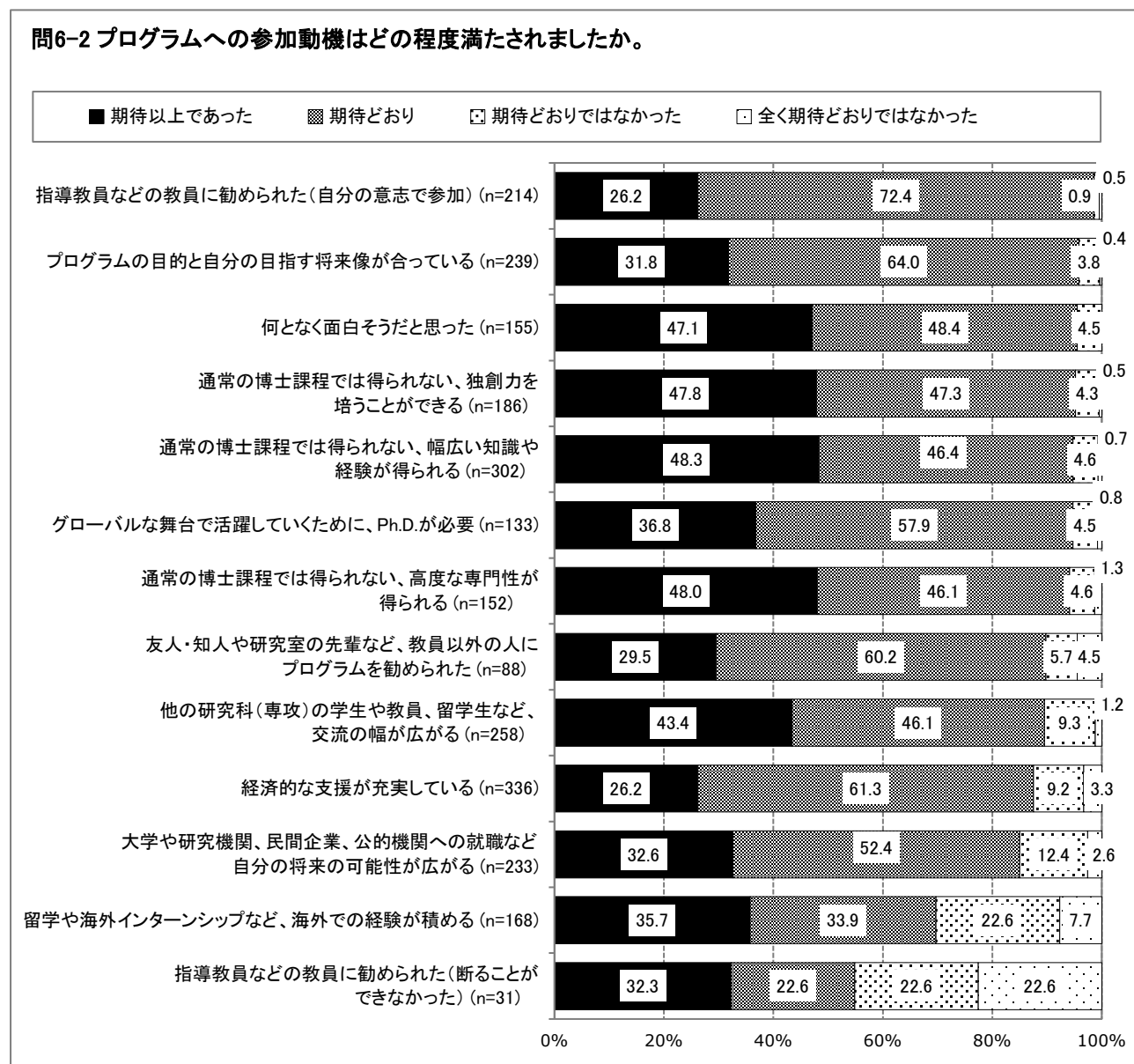


図3 プログラムへの参加動機

3. プログラムに対する感想（問7）

修了者にこのプログラムをどのように評価するか感想を聞いている。（図4）

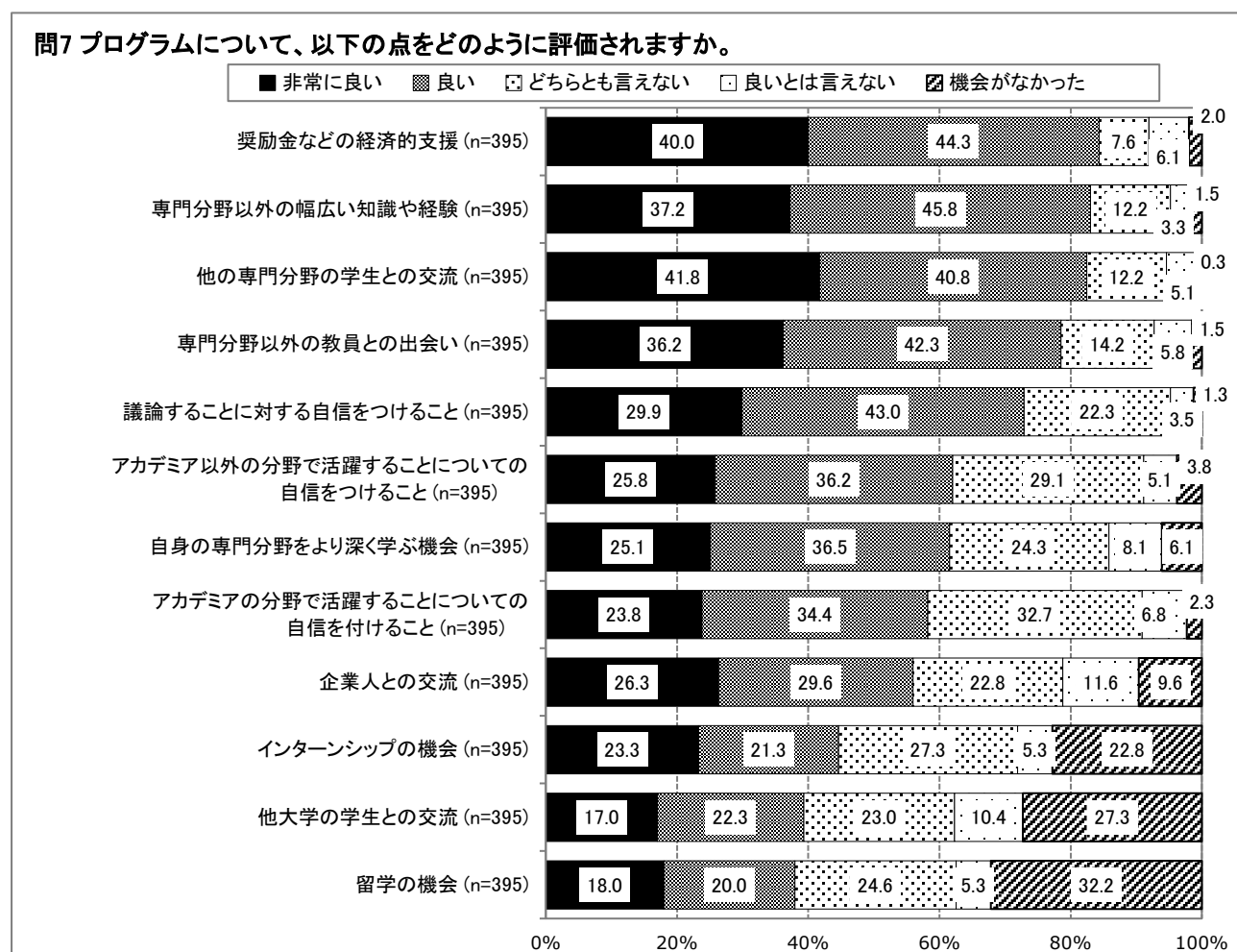


図4 プログラムに対する感想（n=395）

4. プログラムで受けた指導（問8）

修了者にこのプログラムについて、どのような指導をどの程度の頻度で受けたか（図5）、また受けた指導は、それが有効であったか（図6）、について聞いている。

指導の内容

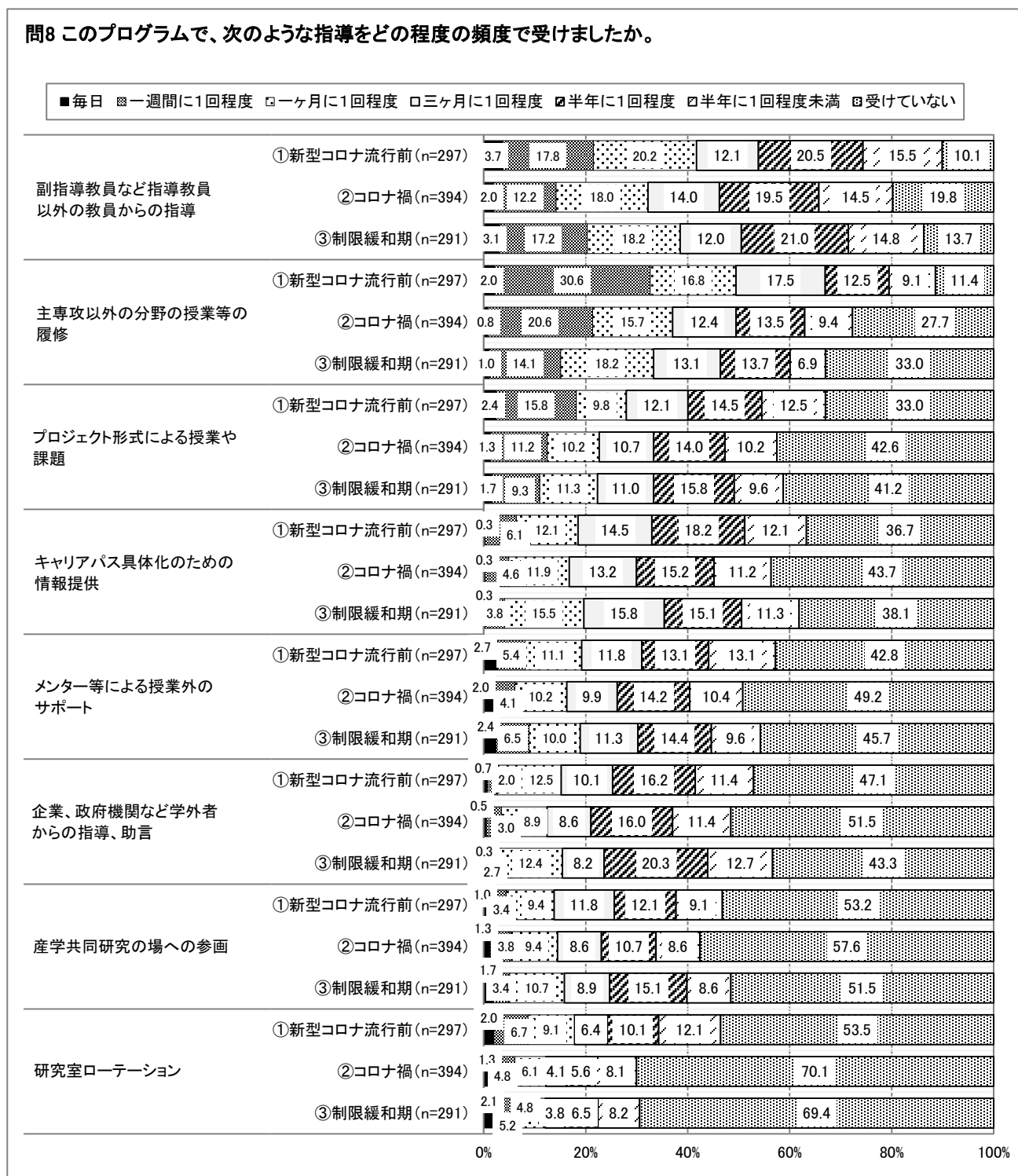


図5 プログラムで受けた指導（①新型コロナ流行前 n=297、②コロナ禍 n=394、③制限緩和期 n=291）

受けた指導の有効性

<「毎日」～「半年に1回程度未満」を選択した場合のみ回答>

問8 以下のような指導を受けた場合、それは有効でしたか。

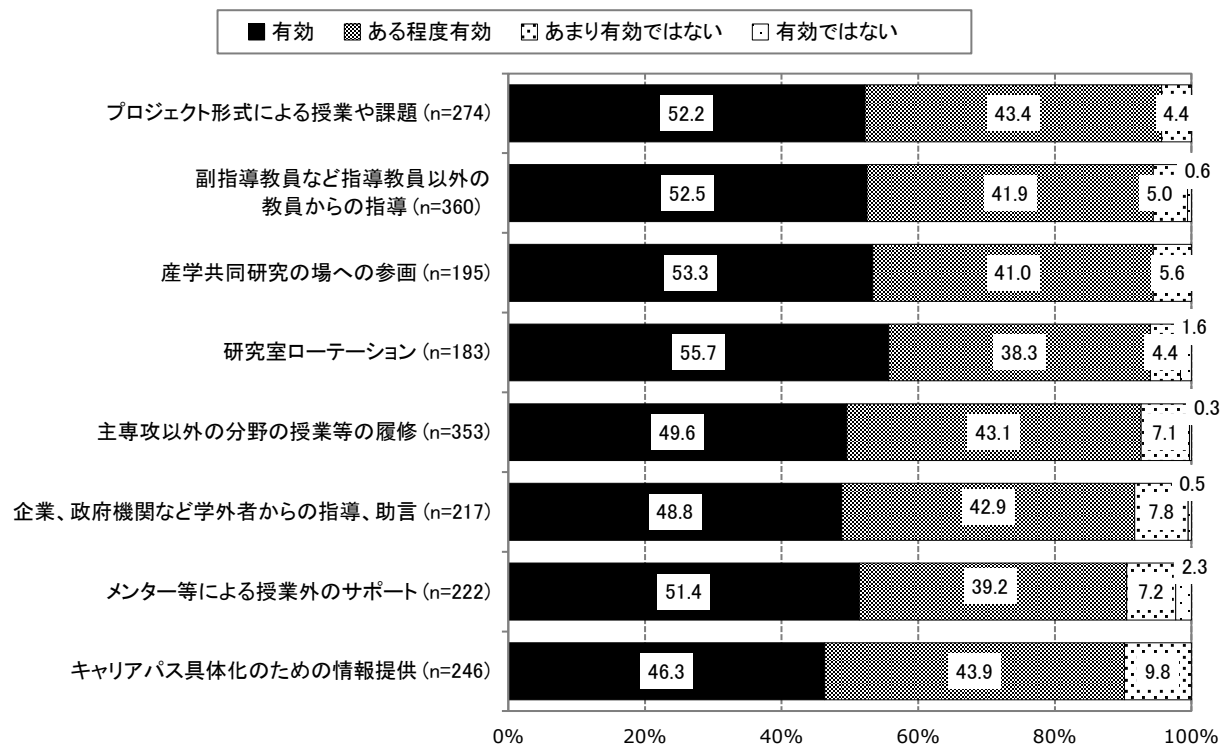


図6 指導を受けた場合の有効性

5. 環境の整備と有効性（問9A）

修了者に研究やプログラムの活動に専念するためにどのような環境が整備されていたか（図7）、それが有効に機能していたか（図8）、について聞いている。

プログラムで整備された環境

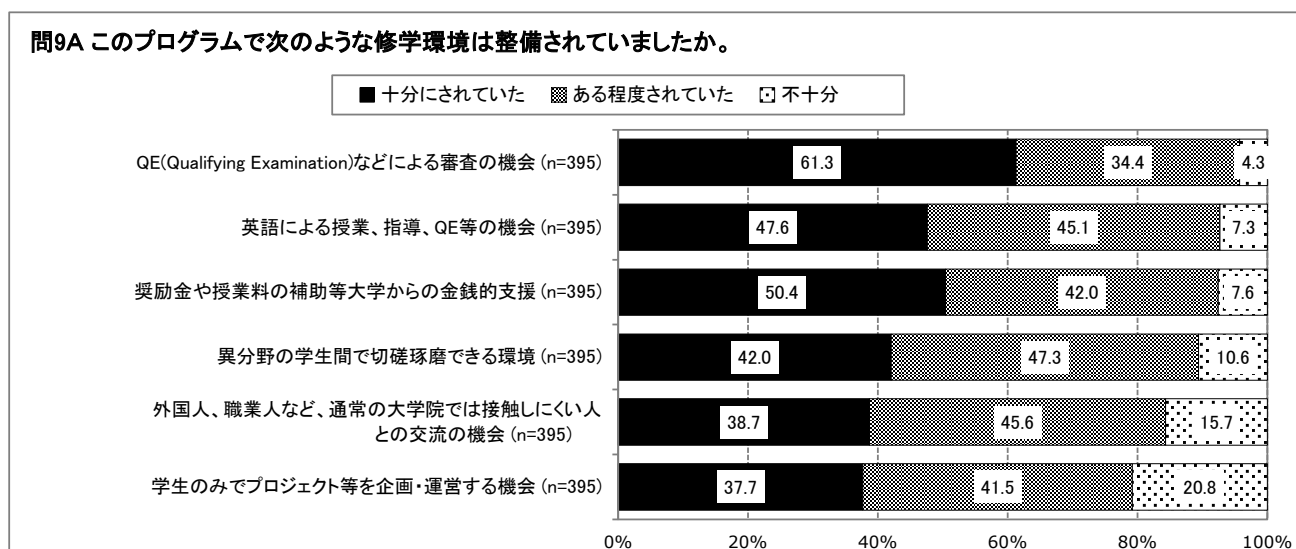


図7 プログラムで整備された環境（n=395）

環境の有効性

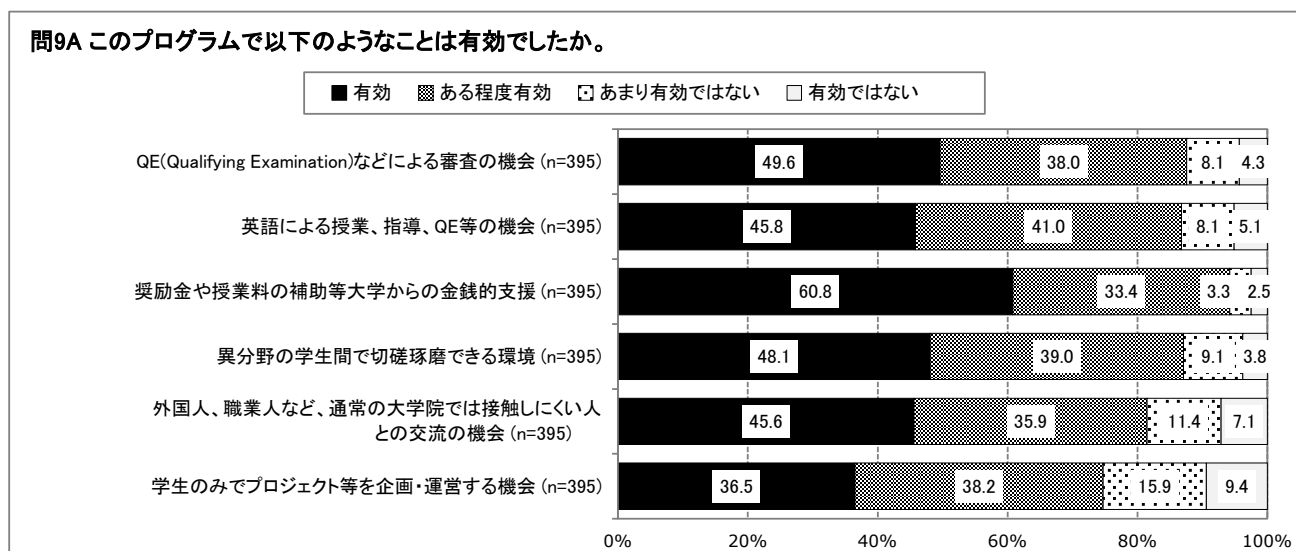


図8 整備された環境の有効性（n=395）

6. 経験の有無と有効性（問9B）

プログラムで用意された活動に参加したか（図9）、それが有効に機能していたか（図10）について聞いている。

プログラムでの経験

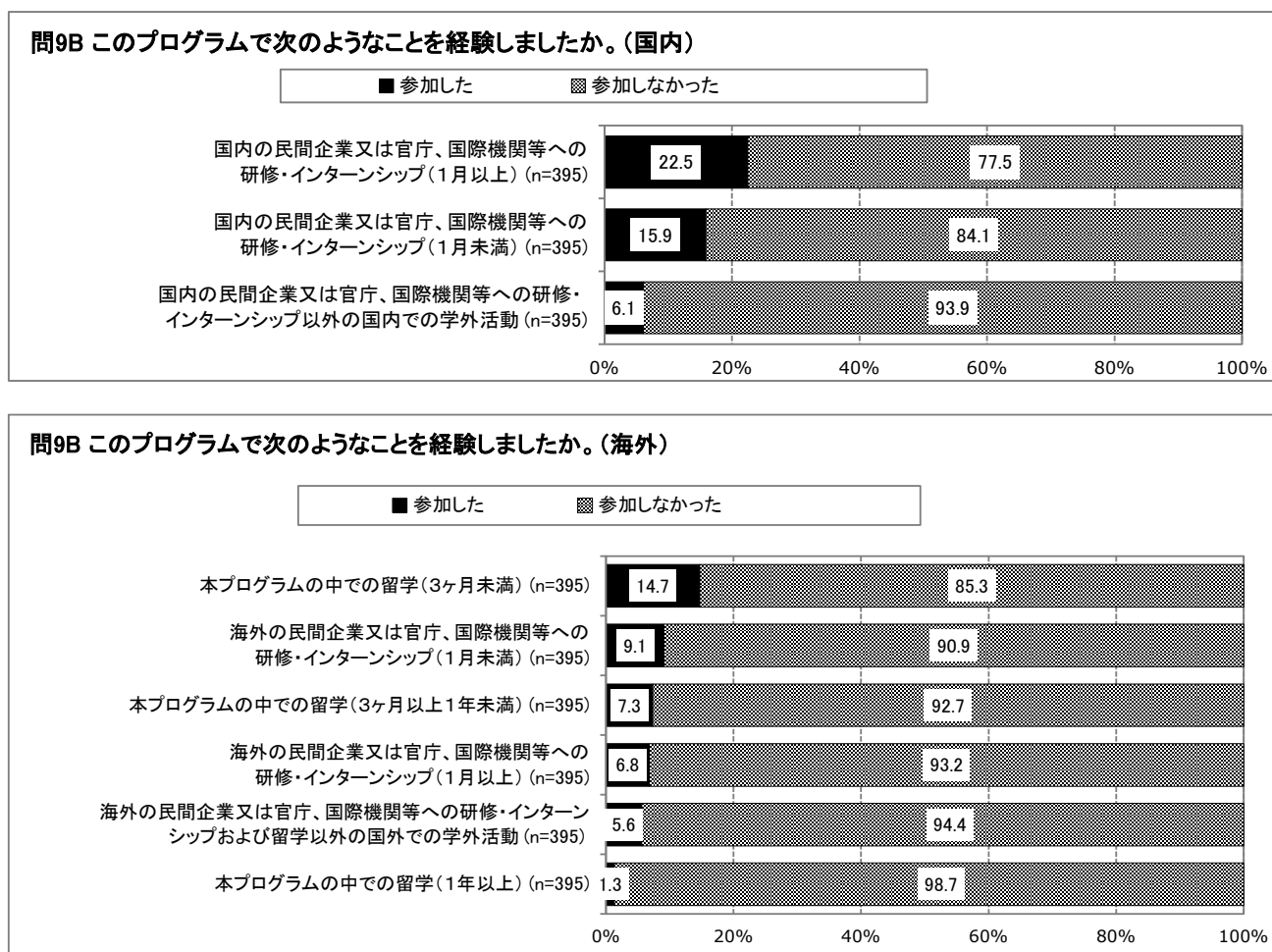


図9 プログラムでの経験 (n=395)

経験の有効性

<「参加した」を選択した場合のみ回答>

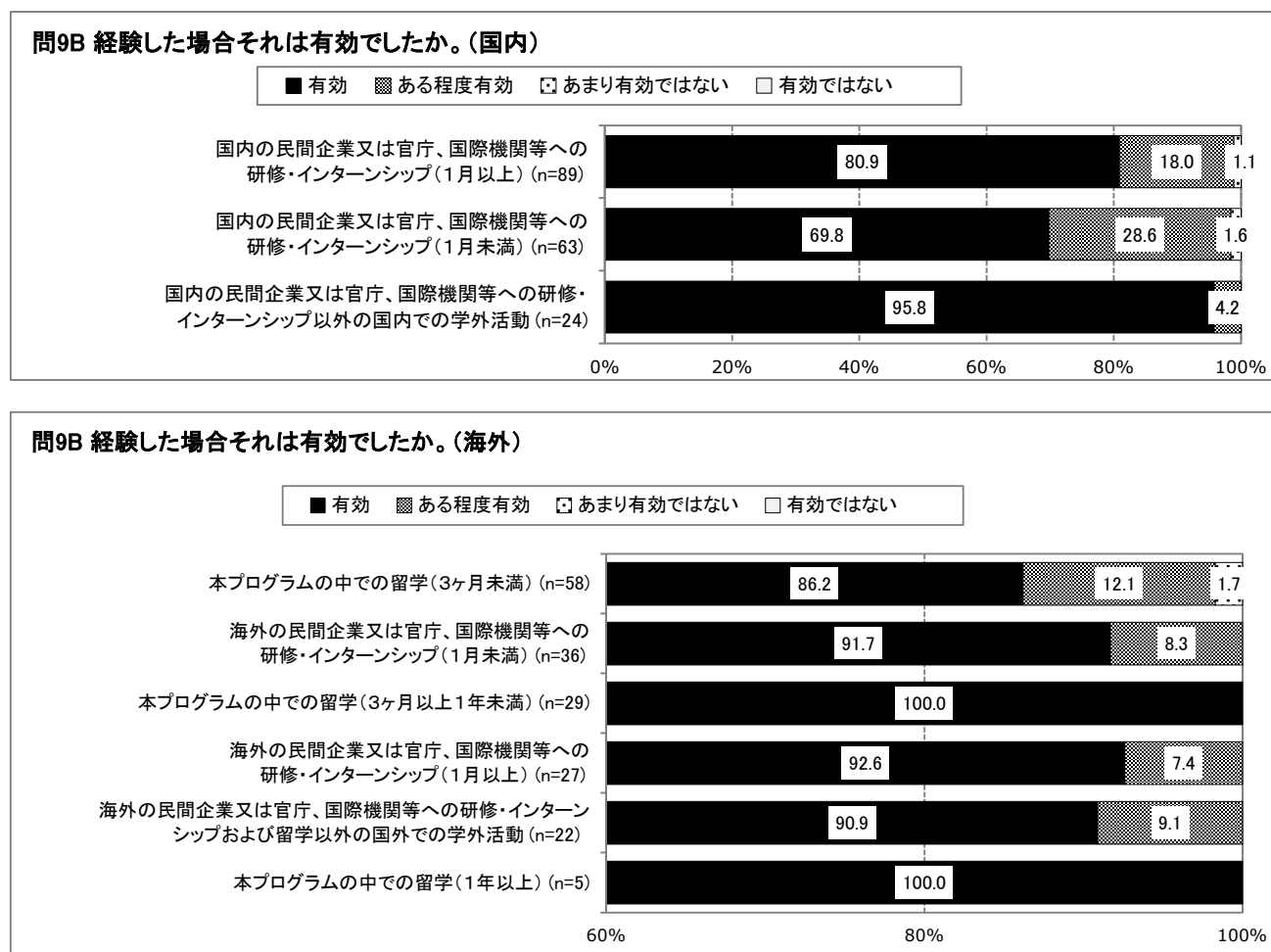


図 10 プログラムでの経験の有効性

7. 身に付いた能力（問10）

修了者にプログラムに参加することにより能力がどのように変化したかについて参加前と修了後（図11）の状況を聞いている。

身に付いた能力

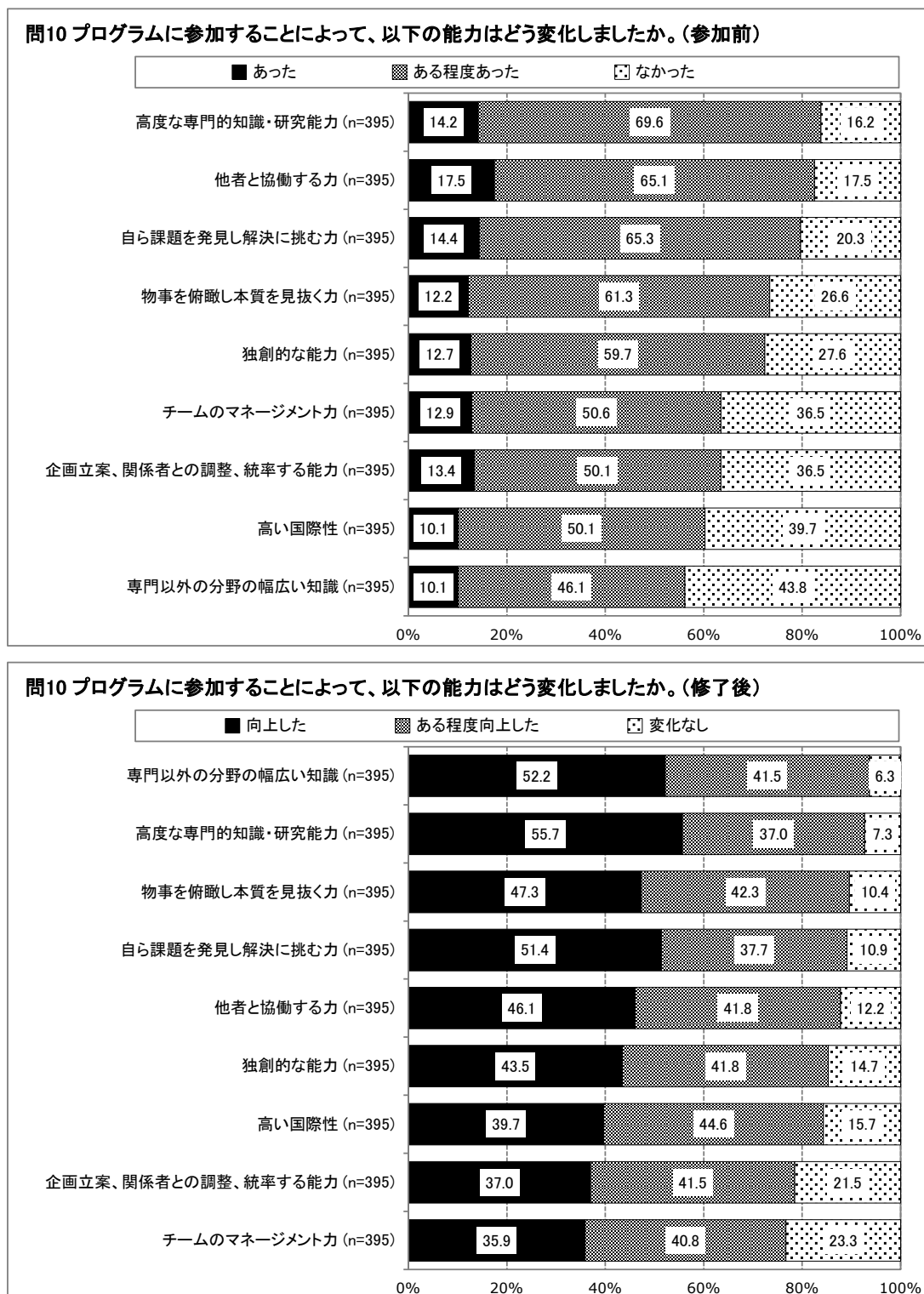


図11 プログラムによって身に付いた能力

8. プログラムの効果・負担（問 1 1）

修了者にプログラム参加による研究面やキャリア面での効果、また負担について聞いている（図 1 2）。

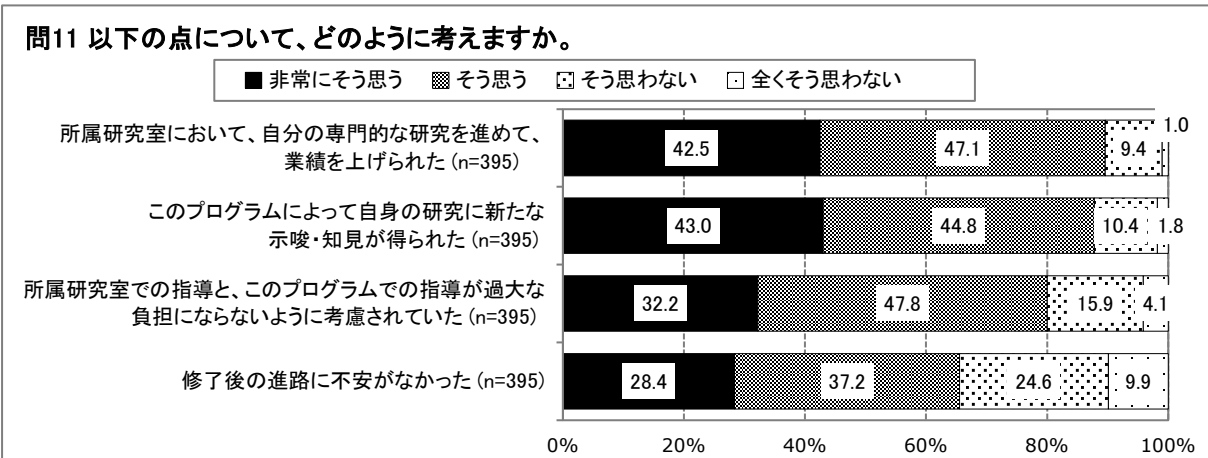


図 12 プログラムの効果・負担 (n=395)

9. 修了後の進路（問 1 2）

修了後の進路について、入学時の希望、修了時、令和 6 年 4 月 1 日現在の状況および今後の希望について聞いている（図 1 3～図 1 6）。

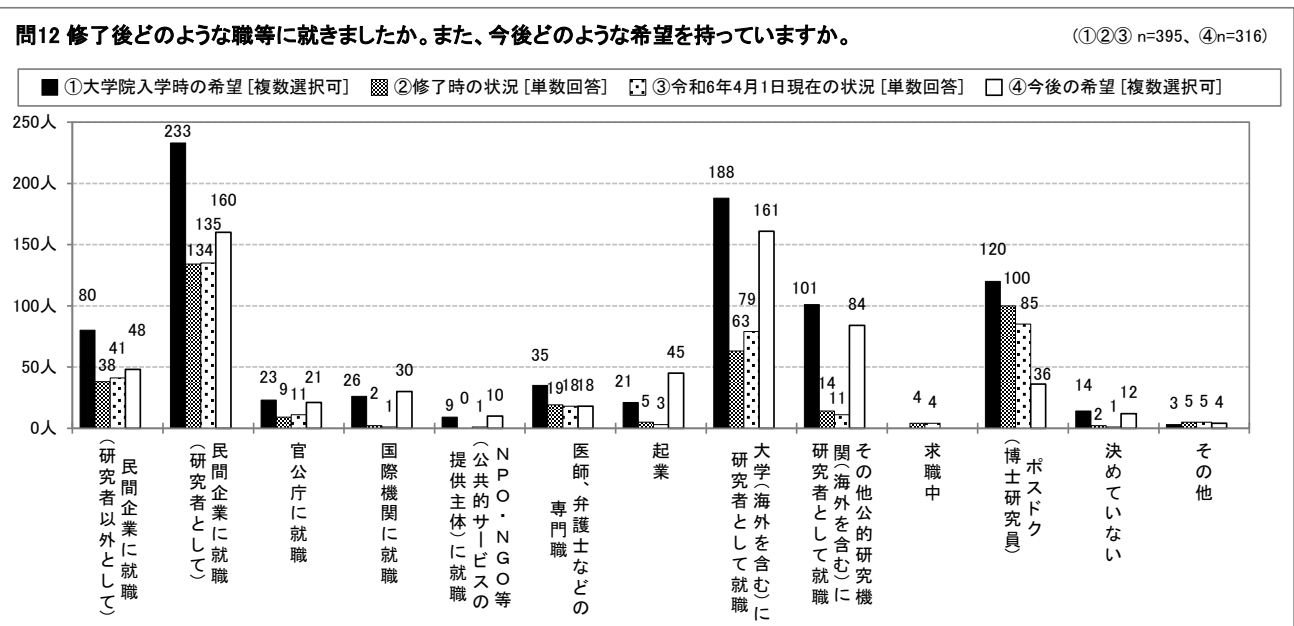


図 13 ①大学院入学時の希望、②修了時の状況、③令和 6 年 4 月 1 日現在の状況、④今後の希望比較 (①②③n=395、④n=316)

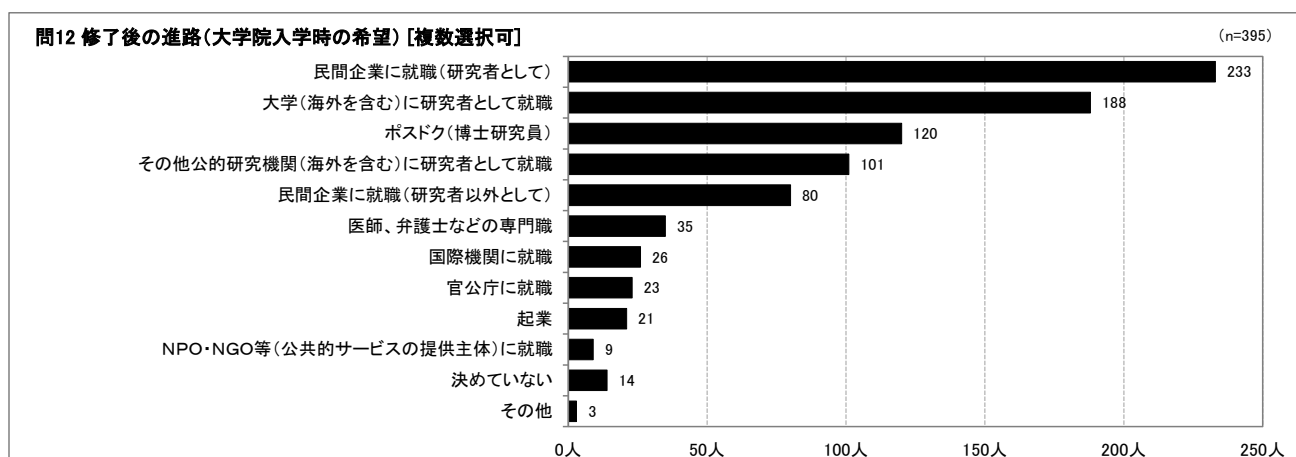


図 14 大学院入学時の進路の希望 (n=395)

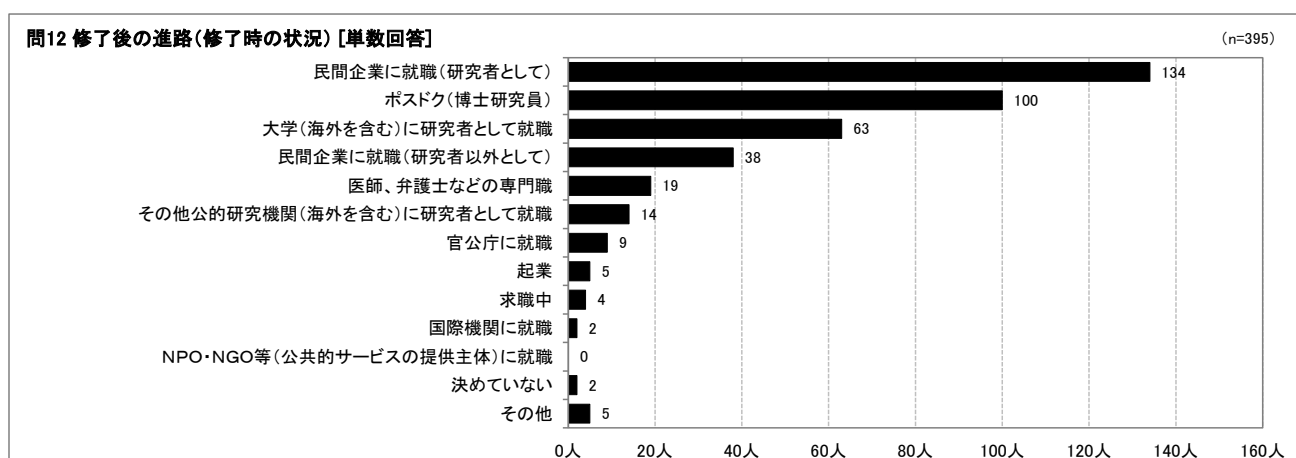


図 15 修了時の進路の状況 (n=395)

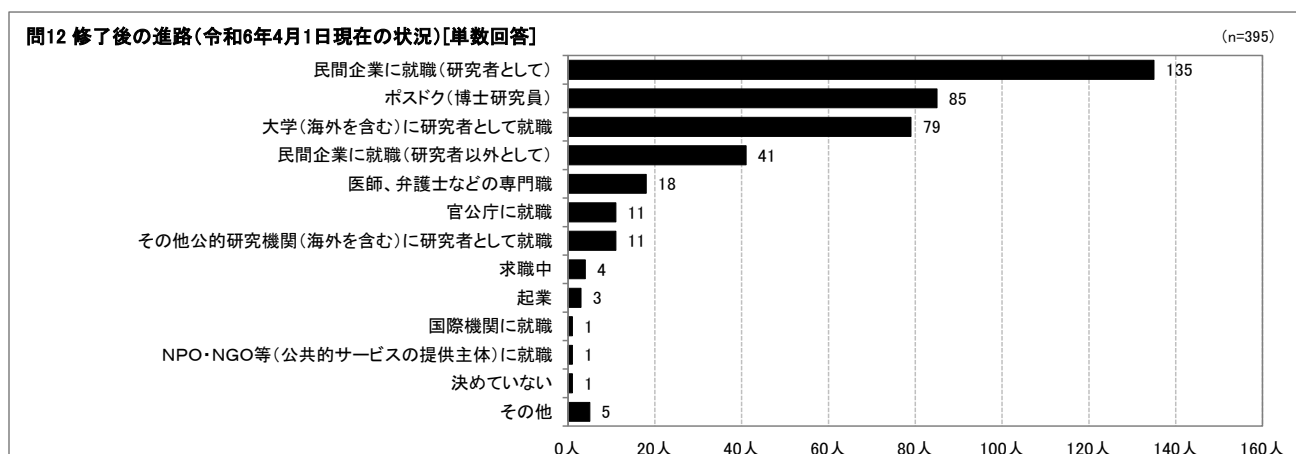


図 16 令和 6 年 4 月 1 日現在の進路の状況 (n=395)

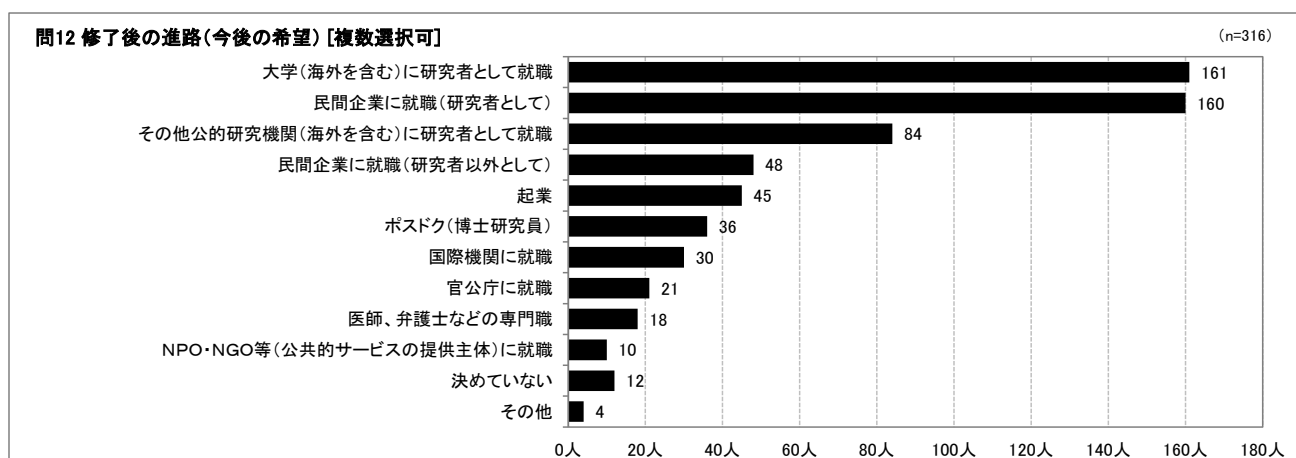
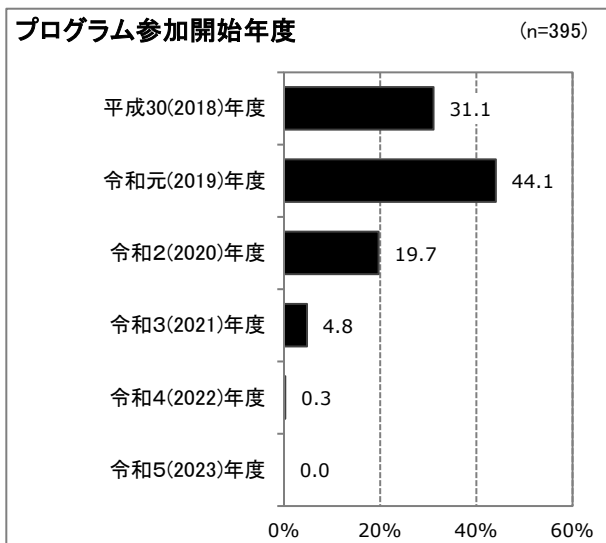
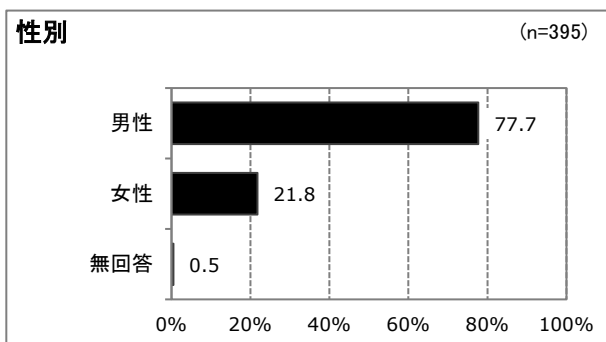
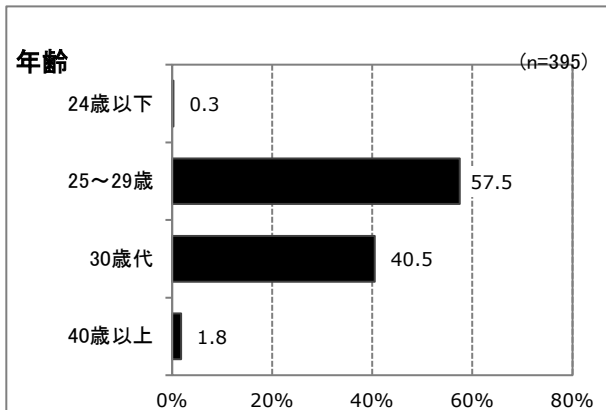
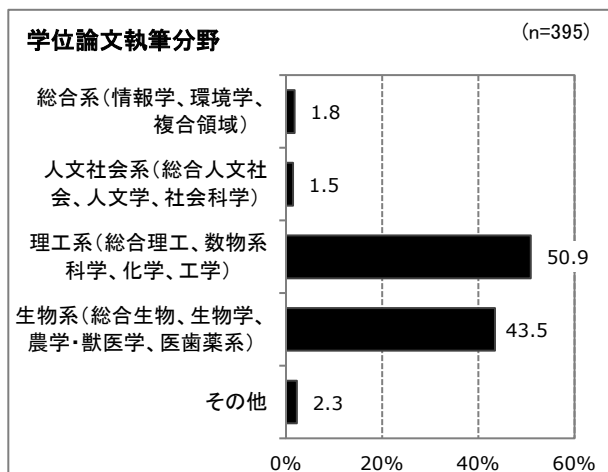
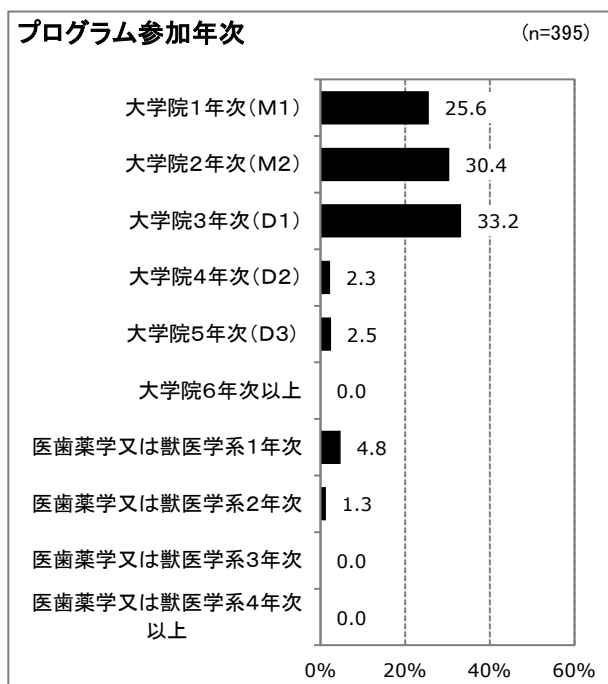
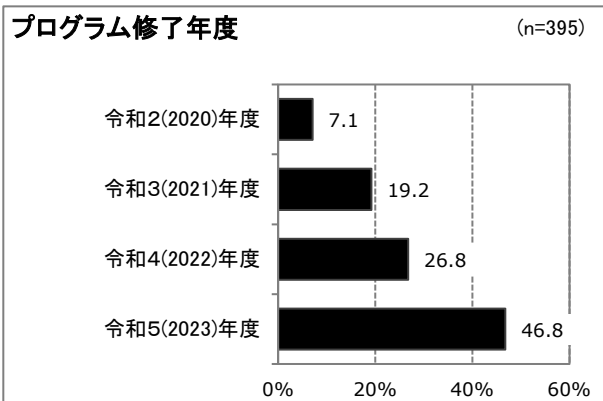


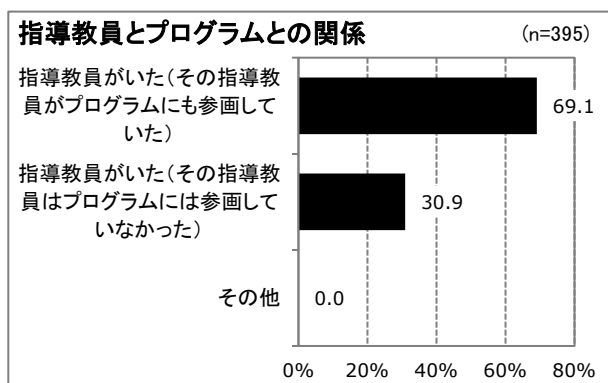
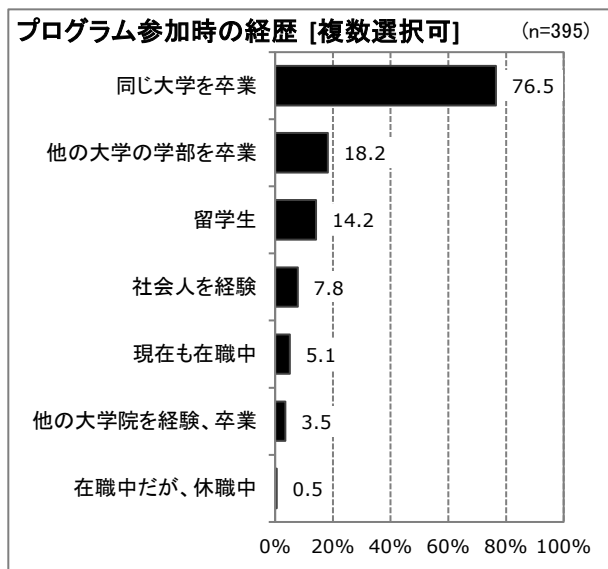
図 17 既に決定している進路 (n=316)

1 2. 修了者の属性（問 2， 3， 4， 5）

本項目では、アンケートを回答した修了者の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。







1 2. プログラム情報の獲得方法（問 1 7）

本項目では、プログラムをどのようにして知ったかについて、回答を選択した人数を掲載する。なお、本項目は任意回答としている。（図 1 8）

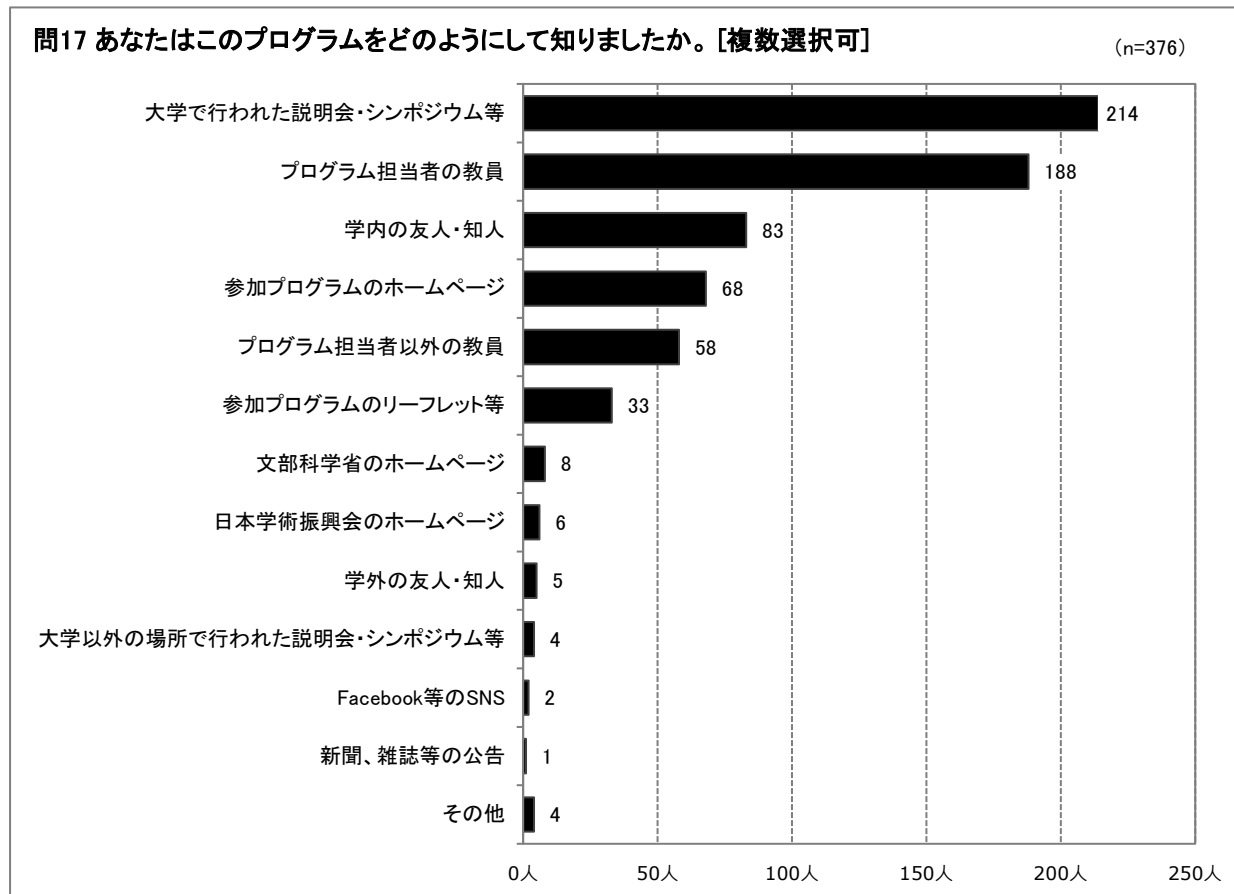


図 18 プログラム情報の獲得方法（n=376）

附録A サンプルと回答者数

	機関名	プログラム名称	プログラム担当者			学生			修了者		
			対象者	回答者	回答率	対象者	回答者	回答率	対象者	回答者	回答率
1801	北海道大学	One Health フロンティア卓越大学院	33	30	90.9%	83	71	85.5%	20	11	55.0%
1802	東北大学	未来型医療創造卓越大学院プログラム	81	65	80.2%	68	68	100.0%	16	16	100.0%
1803	東北大学	人工知能エレクトロニクス卓越大学院プログラム	68	60	88.2%	99	81	81.8%	34	28	82.4%
1804	筑波大学	ヒューマニクス学位プログラム	112	103	92.0%	60	57	95.0%	10	10	100.0%
1805	東京大学	生命科学技術国際卓越大学院プログラム	88	74	84.1%	159	145	91.2%	128	89	69.5%
1806	東京農工大学	「超スマート社会」を新作業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成	78	61	78.2%	72	58	80.6%	19	18	94.7%
1807	東京工業大学	「物質×情報＝複素人材」育成を通じた持続可能社会の創造	81	75	92.6%	88	79	89.8%	41	27	65.9%
1808	長岡技術科学大学	グローバル超実践ルートテクノロジープログラム	55	38	69.1%	45	41	91.1%	10	8	80.0%
1809	名古屋大学	トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム	56	56	100.0%	135	130	96.3%	65	61	93.8%
1810	名古屋大学	未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラム	92	80	87.0%	46	46	100.0%	13	13	100.0%
1811	京都大学	先端光・電子デバイス創成学	36	33	91.7%	54	51	94.4%	34	33	97.1%
1812	大阪大学	生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養	107	75	70.1%	114	107	93.9%	17	14	82.4%
1813	広島大学	ゲノム編集先端人材プログラム	57	49	86.0%	57	57	100.0%	14	12	85.7%
1814	長崎大学	世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム	107	82	76.6%	40	35	87.5%	14	11	78.6%
1815	早稲田大学	パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム	58	41	70.7%	73	70	95.9%	59	44	74.6%
卓越大学院プログラム事後評価総計			1109	922	83.1%	1193	1096	91.9%	494	395	80.0%

附録B 学生アンケート調査と単純集計結果

卓越大学院プログラム 平成30年度採択プログラム事後評価 学生アンケート調査

●この調査は卓越大学院プログラム（注）平成30年度採択プログラム事後評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムに参加する皆さん（大学により各プログラムに選抜された学生）にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。

●いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 ＜卓越大学院プログラムとは＞

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

本事業により、これまで行われてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの育成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが期待されています。

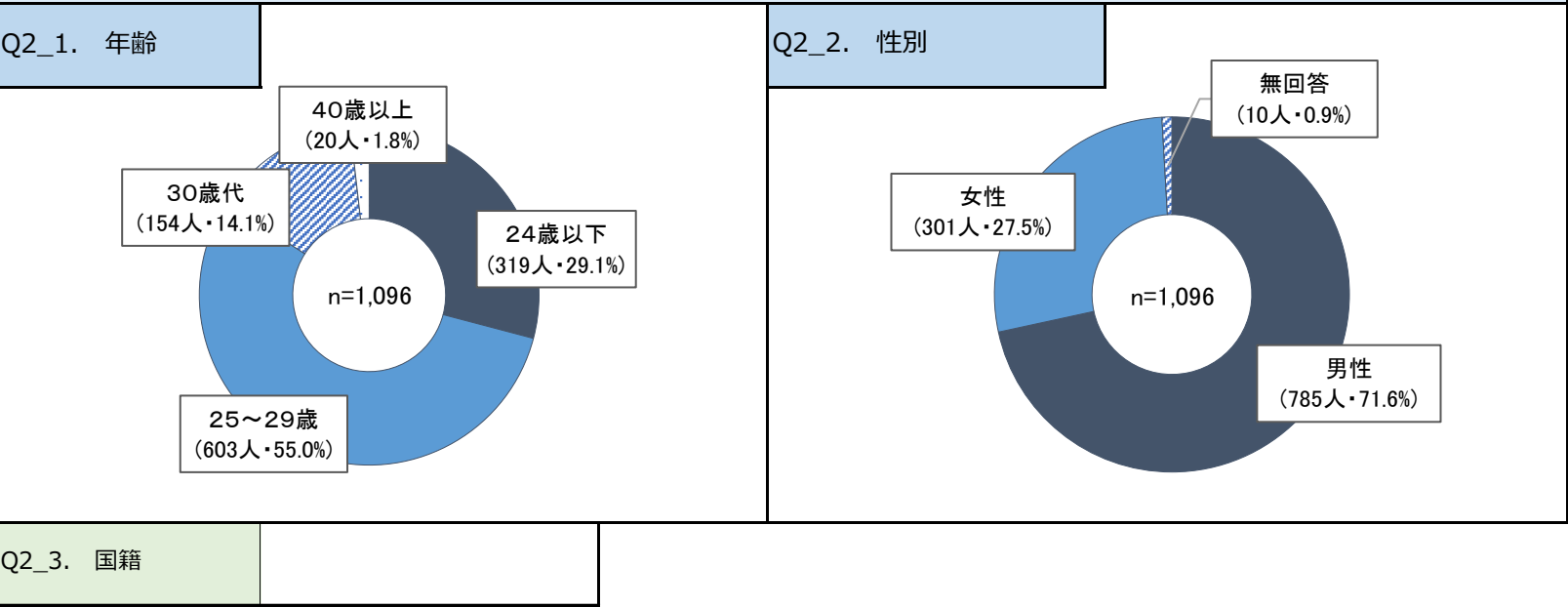
参加されているプログラムと、ご自身についてうかがいます

I. 回答者の属性

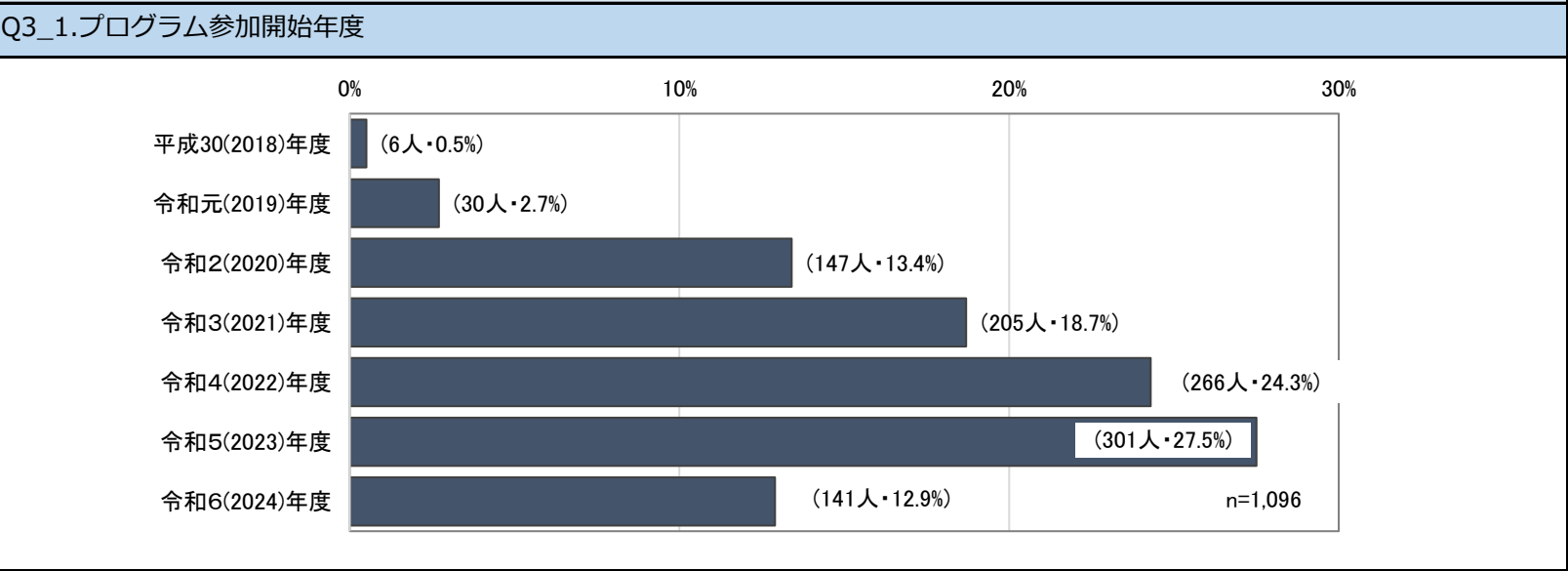
Q 1. 参加している大学・プログラム名について、表示されている内容を確認してください。

全体

Q2. 年齢、性別について選択してください。

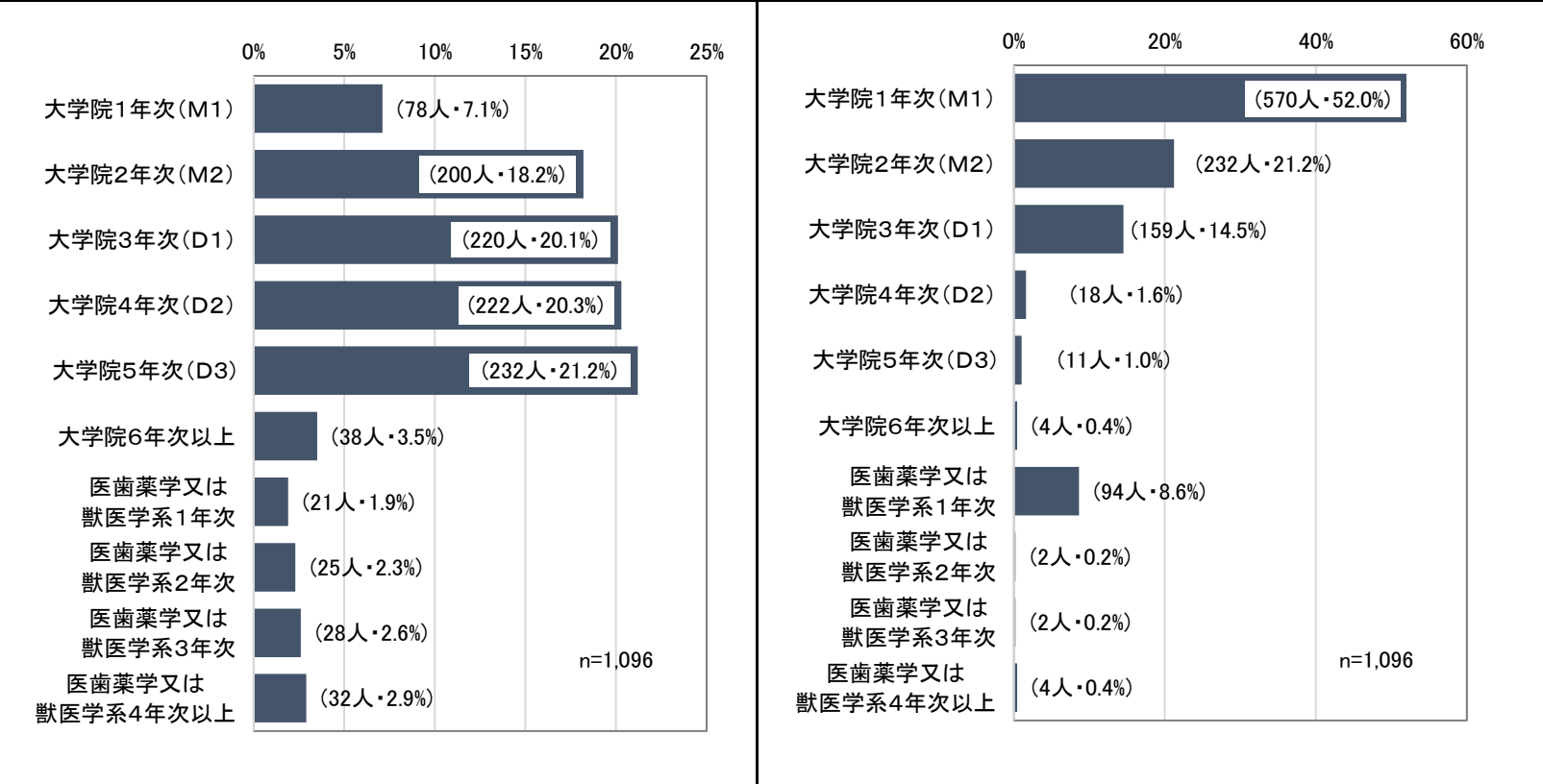


Q3. プログラムとの関係について選択してください。

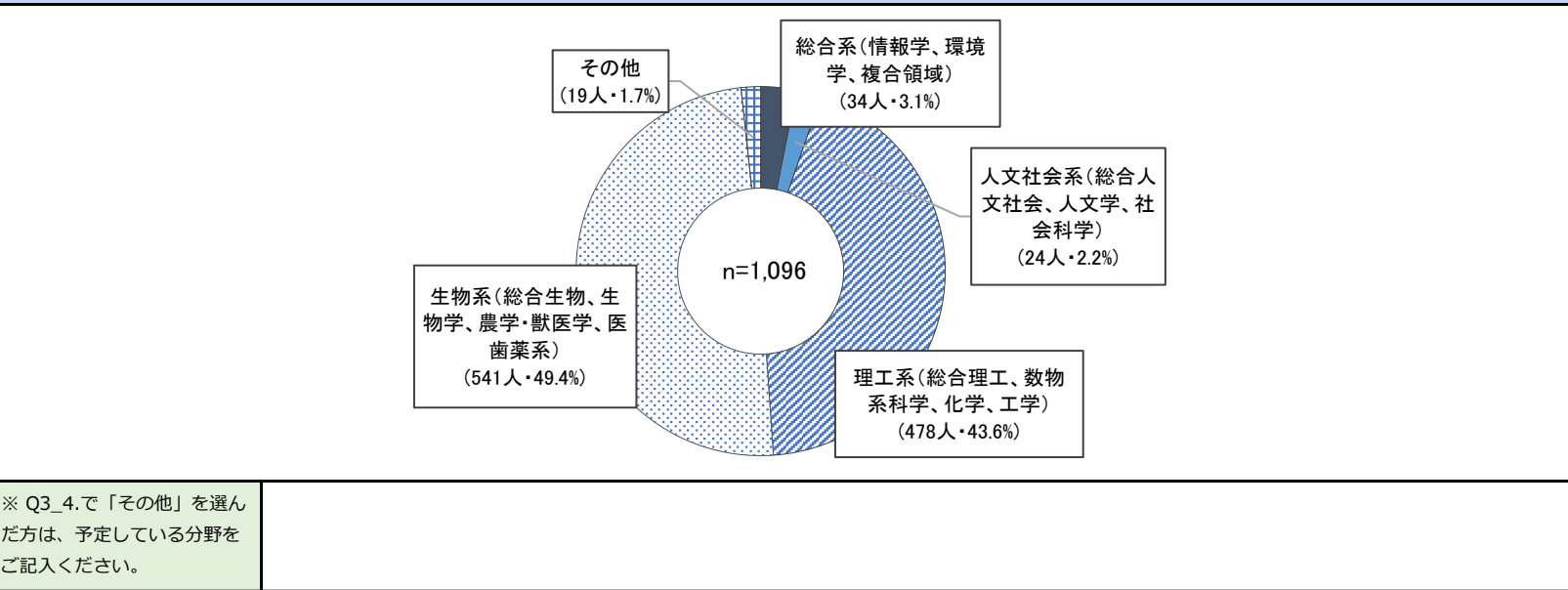


Q3_2. 現在の学年

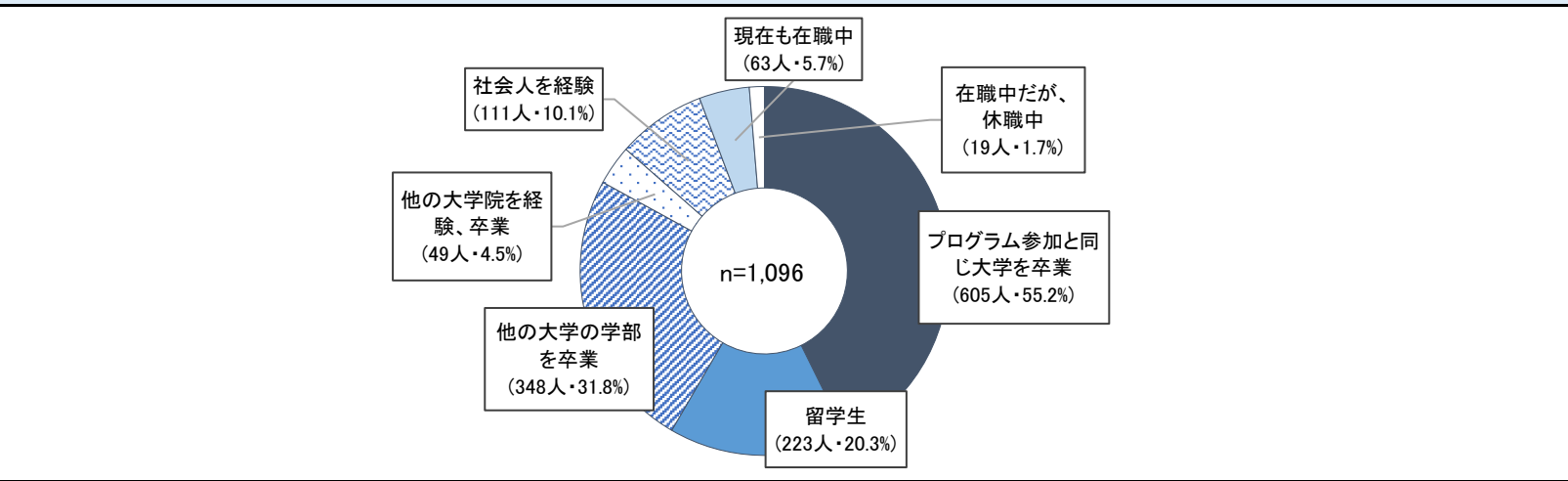
Q3_3.プログラムに参加した年次



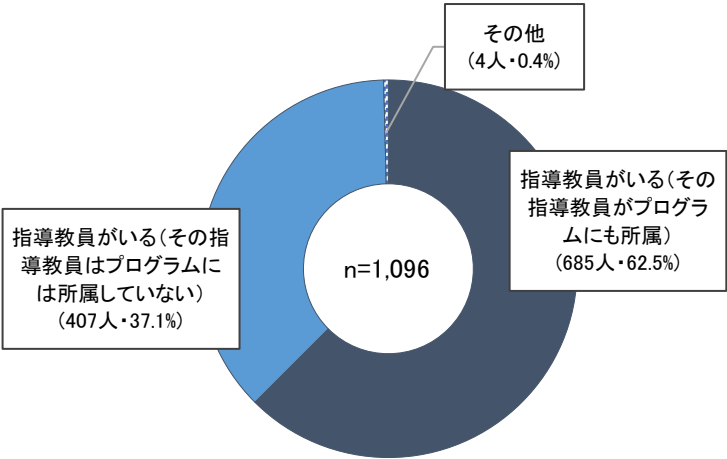
Q3_4.学位論文の執筆を予定している分野



Q4. あなたの経歴にあてはまるものを全て選択してください。



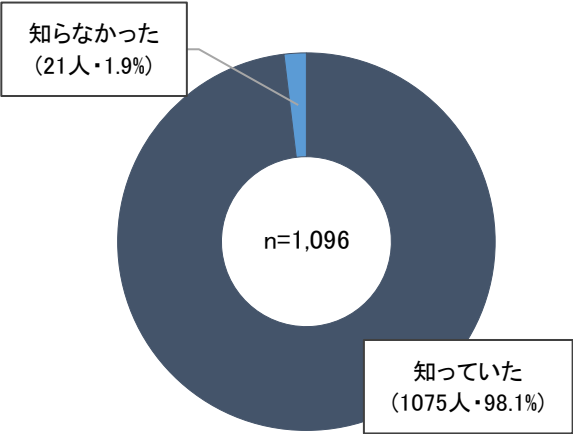
Q5. あなたの指導教員（専門分野における研究指導を行う教員1名）とプログラムの関係について、あてはまるものを選択してください。



※ Q5.で「その他」を選んだ方は、詳細をご記入ください。

II. 事業趣旨の理解

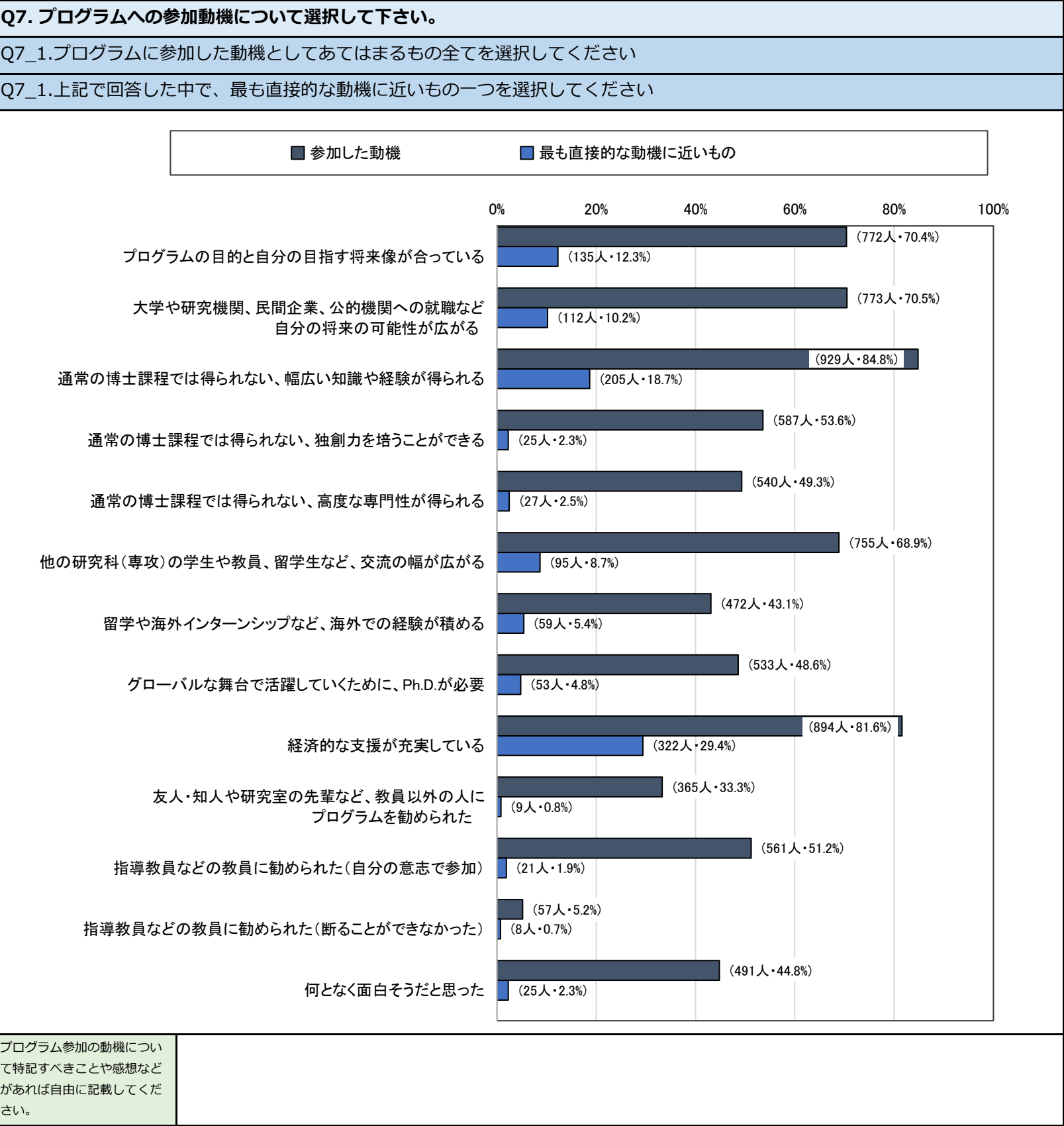
Q6. 本事業の目的（表紙「卓越大学院プログラムとは」を参照）に沿って大学はプログラムを実施していますが、本事業の趣旨を知っていましたか。



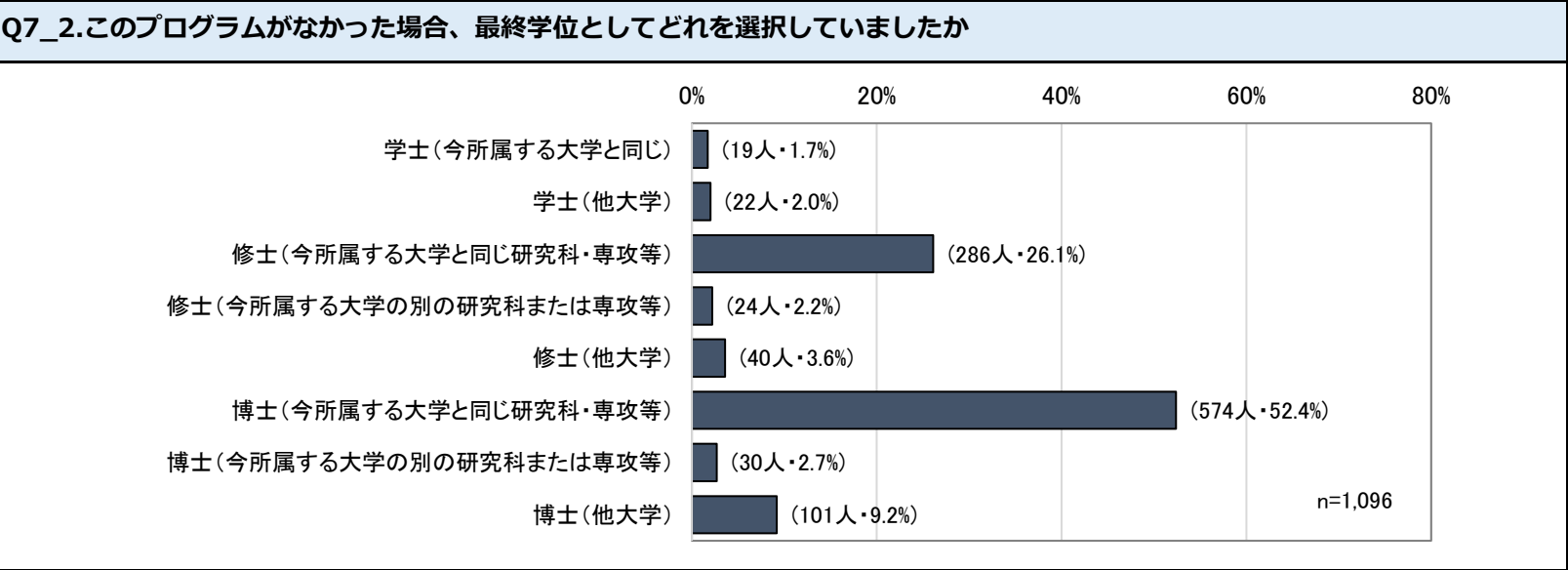
Q6の選択理由をご記入ください。

回答例 1：プログラムの説明会、教員からプログラムの趣旨、概要、狙いなどの事前説明があった。
回答例 2：プログラムへの参加を勧められただけでプログラムの趣旨、概要、狙いなどの説明はなかった

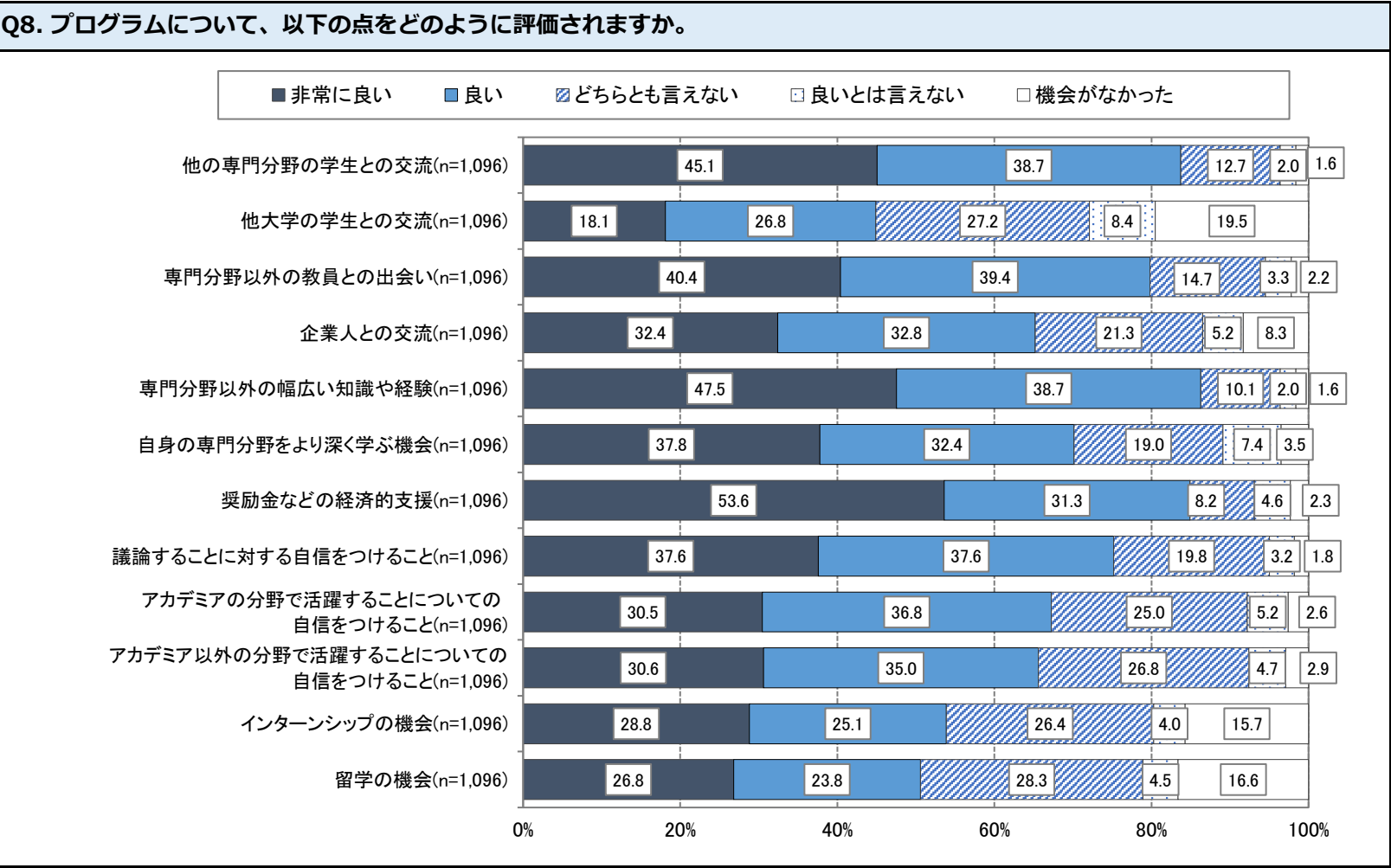
III. プログラムへの参加動機



IV. プログラムがなかった場合の経歴



V. プログラムの内容に対する評価



Q9. 問8の項目以外にプログラムの評価できる点、できない点をご記入ください。

プログラムでの実施状況等についてうかがいます

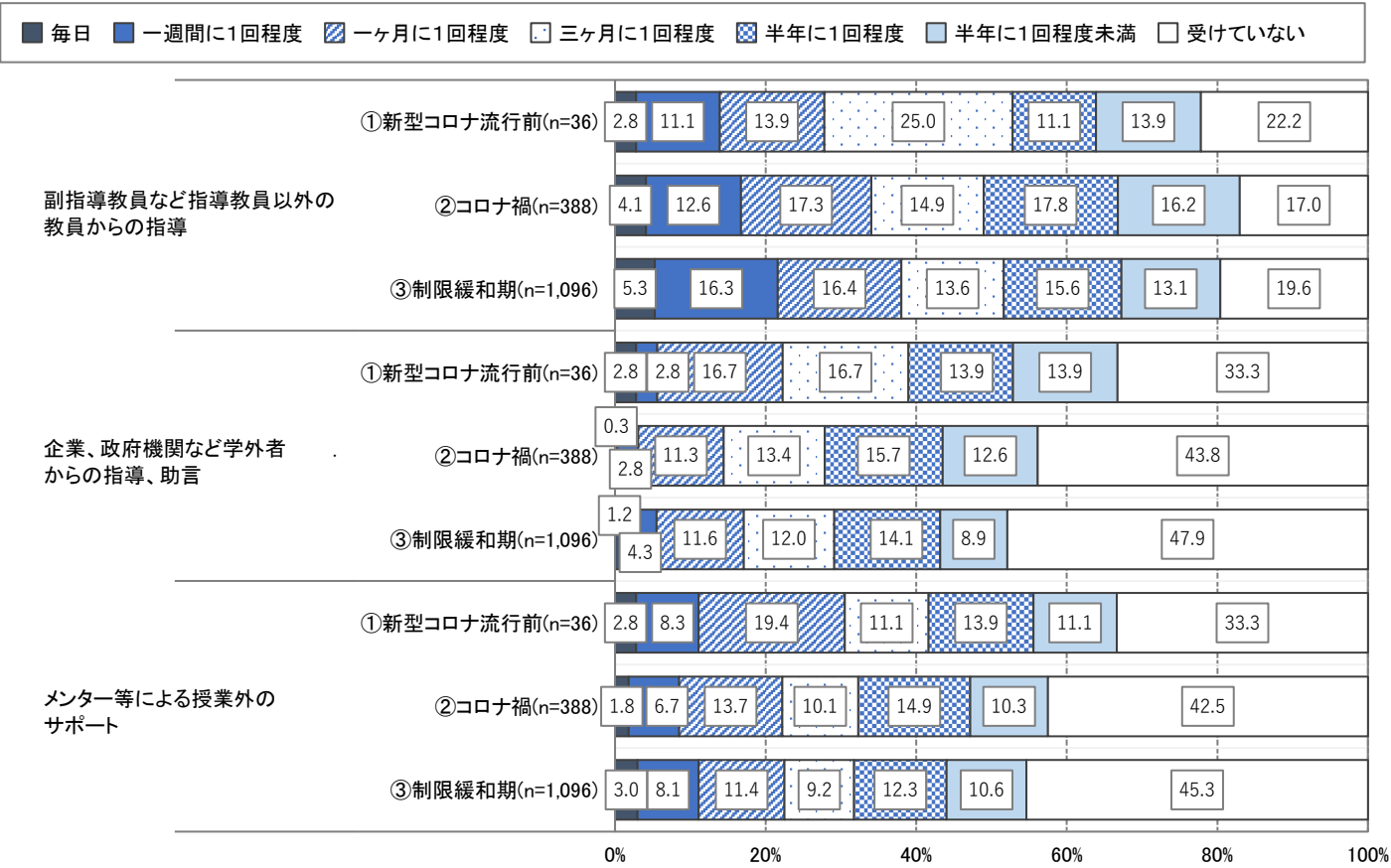
VI. プログラムで受けた指導とその有効性

Q10. このプログラムで、次のような指導をどの程度の頻度で受けましたか。
また、受けた場合、それは有効でしたか。

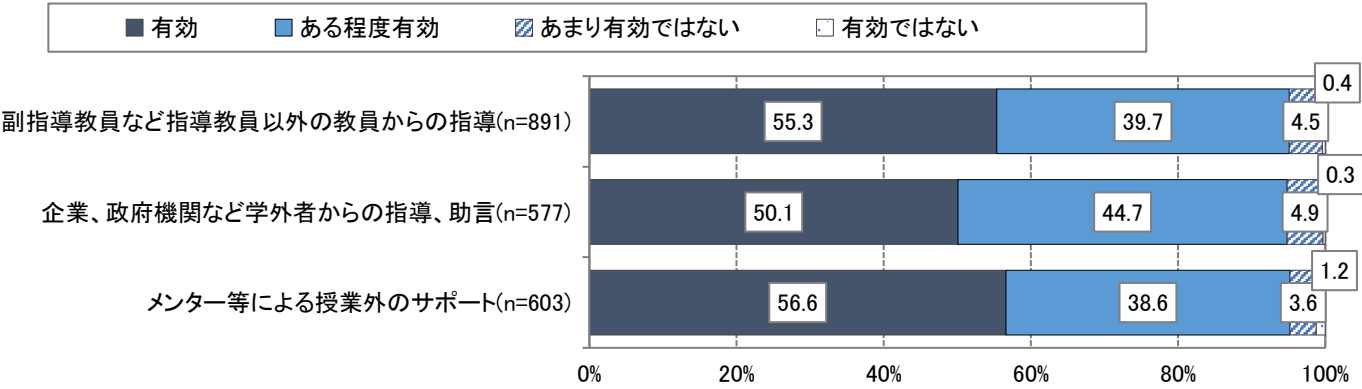
①2018（平成30）～2019（令和元）年度「新型コロナ流行前」、
②2020（令和2）～2021（令和3）年度「コロナ禍」、
③2022（令和4）年度～「制限緩和後」、
それぞれの期間について回答してください。 ※プログラム参加前の期間についての回答は不要です。

<人的な指導>

Q10.人的な指導を受けた頻度



Q10.人的な指導を受けた場合の有効性



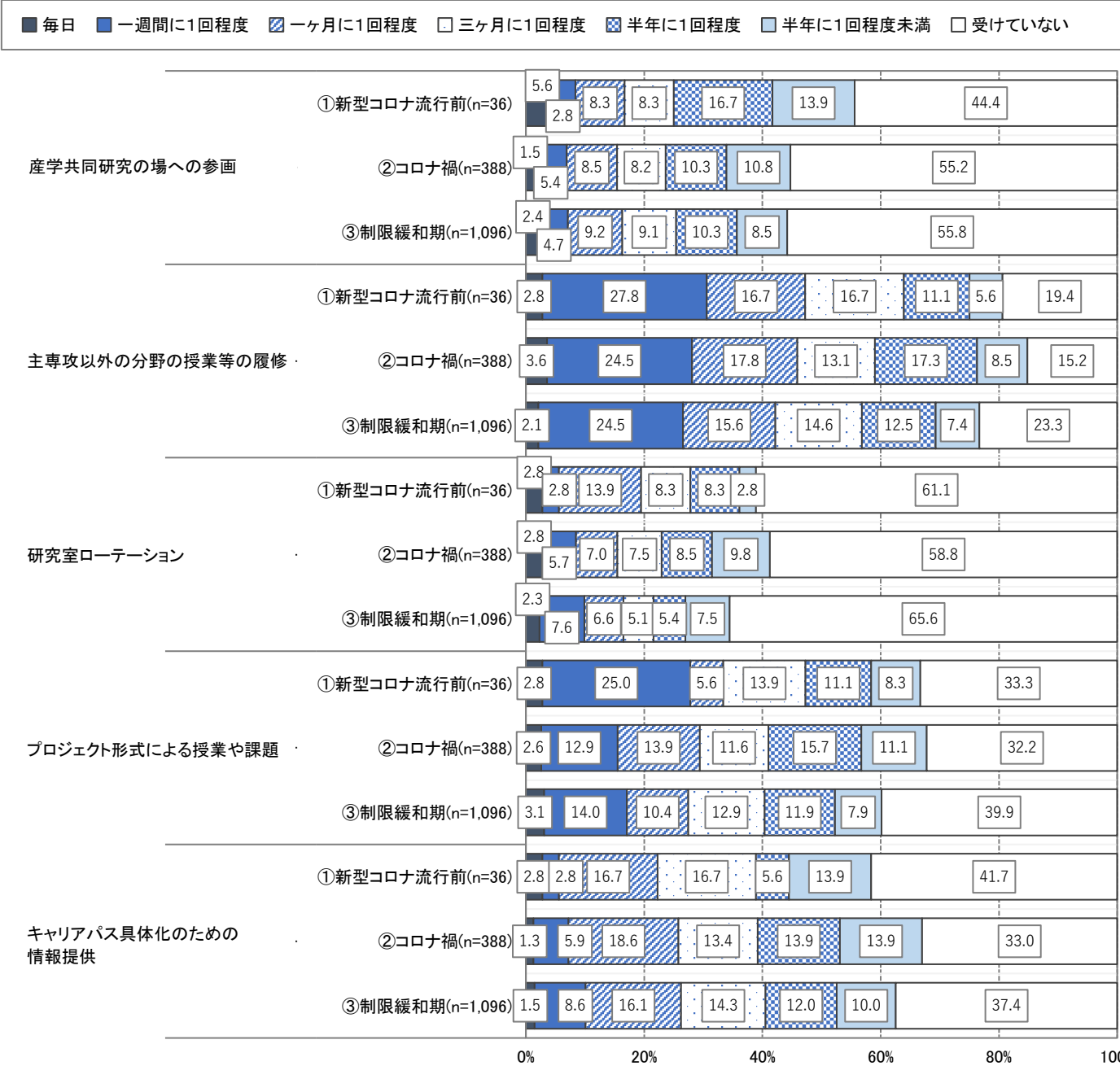
研究・生活・修了後の進路など特記すべき意見や感想などがあれば自由に記載してください。

研究・生活・修了後の進路など特記すべき意見や感想などがあれば自由に記載してください。

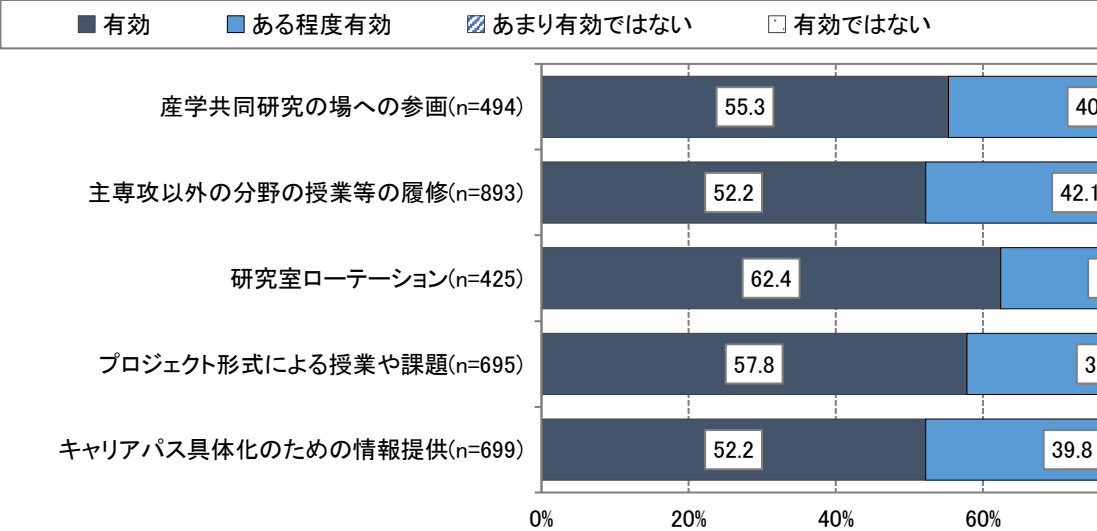
研究・生活・修了後の進路など特記すべき意見や感想などがあれば自由に記載してください。

<機会の提供>

Q10.機会の提供を受けた頻度



Q10.機会の提供を受けた場合の有効性



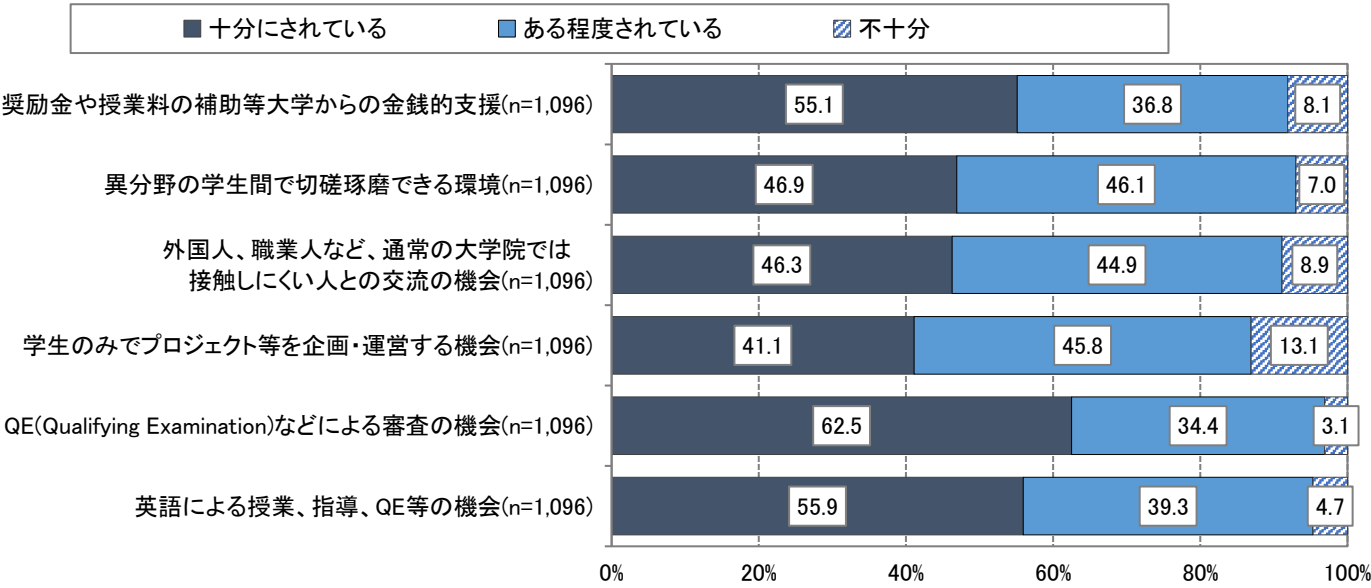
選択した理由や、特に有効または有効でないと思った点などご記入ください。

コロナ禍に、当初予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われた指導等があればその内容をご記入ください。

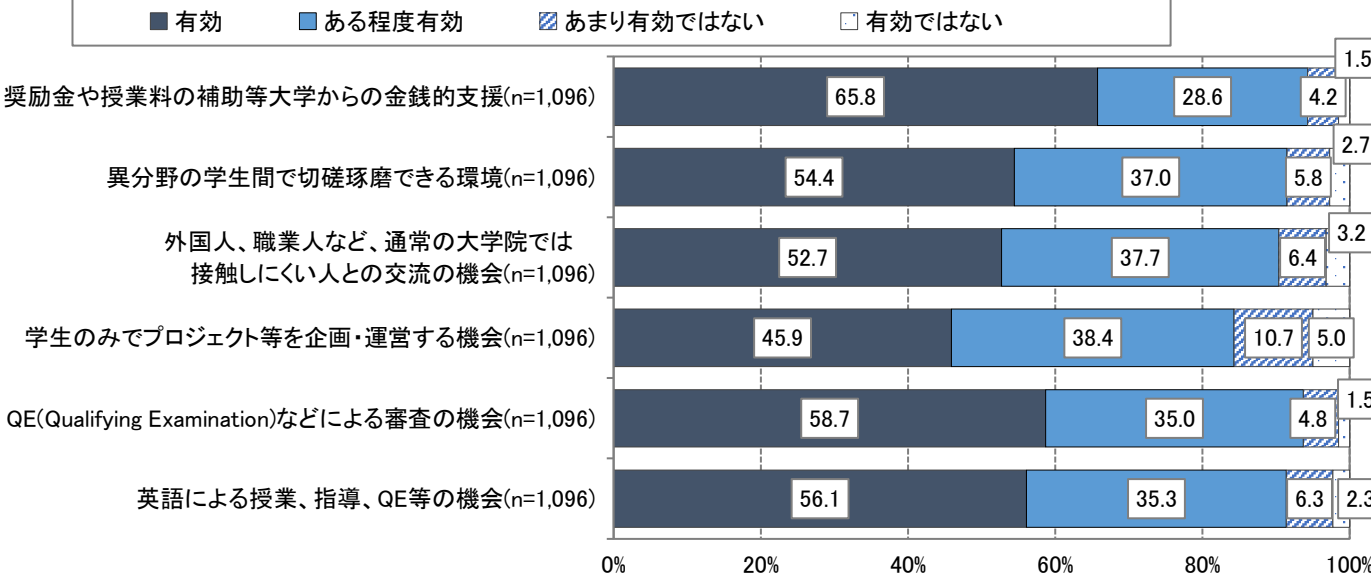
VII. 修学環境の整備とその有効性

Q 1 1 A. このプログラムで次のような修学環境は整備され、経験していますか。また、それは有効に機能していますか。

Q11A.修学環境の整備



Q11A.修学環境整備の有効性



選択した理由や、特に有効であると思った点などご記入ください。

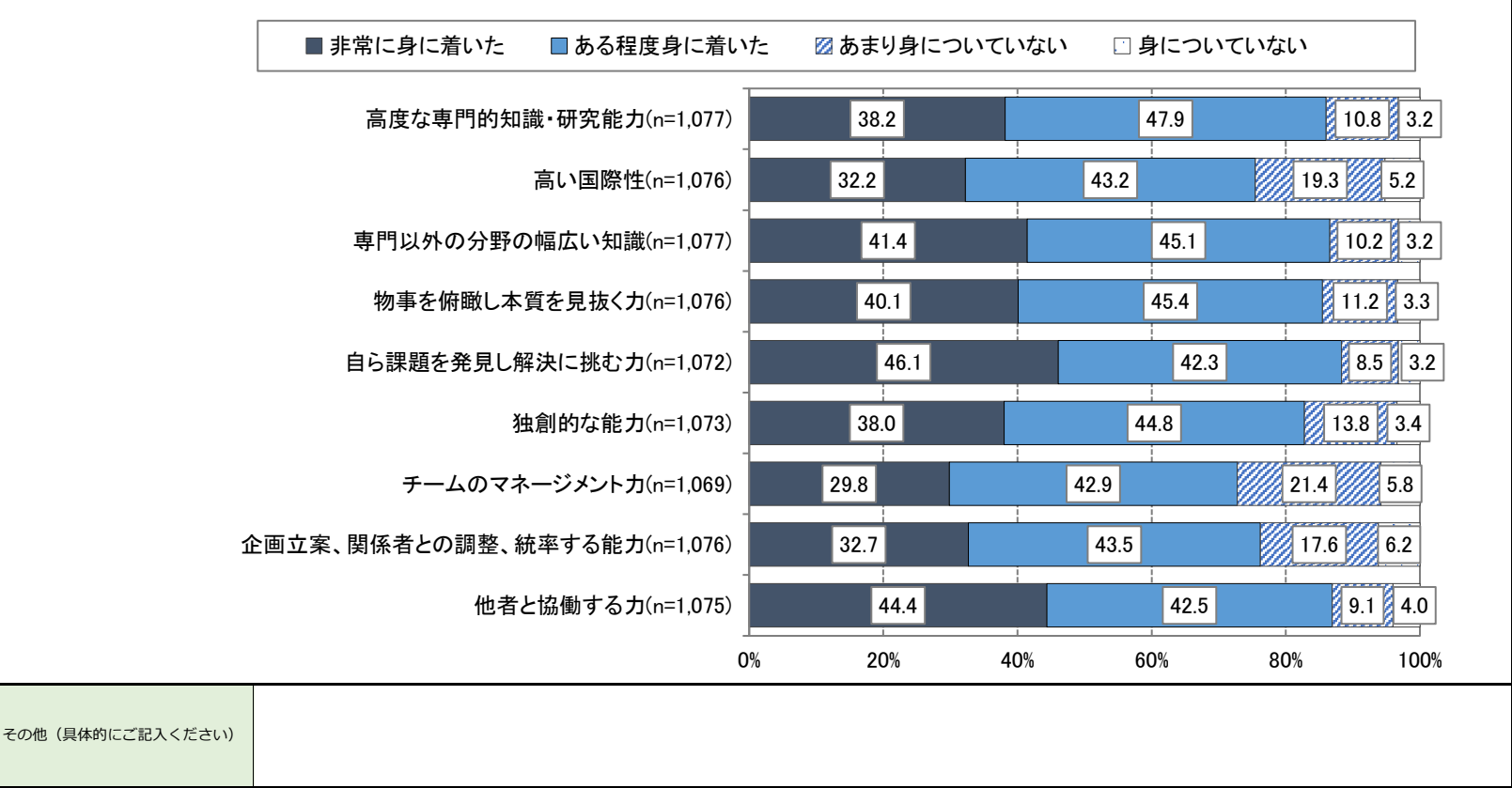
VIII. プログラムでの経験とその有効性

Q11B. プログラムでの経験の有効性	
■ 有効 ■ ある程度有効 ■ あまり有効ではない □ 有効ではない	
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への 研修・インターンシップ(1ヶ月未満)(n=94)	75.5 23.4 1.1
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への 研修・インターンシップ(1ヶ月以上)(n=114)	86.8 12.3 0.9
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・ インターンシップ以外の国内での学外活動(n=65)	87.7 12.3
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への 研修・インターンシップ(1ヶ月未満)(n=54)	90.7 7.4 1.9
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への 研修・インターンシップ(1ヶ月以上)(n=48)	93.8 6.3
本プログラムの中での留学(3ヶ月未満)(n=76)	94.7 5.3
本プログラムの中での留学(3ヶ月以上1年未満)(n=42)	95.2 2.4 2.4
本プログラムの中での留学(1年以上)(n=12)	100.0
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターン シップおよび留学以外の国外での学外活動(n=49)	95.9 4.1
0% 20% 40% 60% 80% 100%	
選択した理由や、特に有効と思った 点をご記入ください。	

インターンシップや留学等について、コロナ禍の影響があった場合はご記入ください。
また、当初予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われたことがあればその内容をご記入ください。

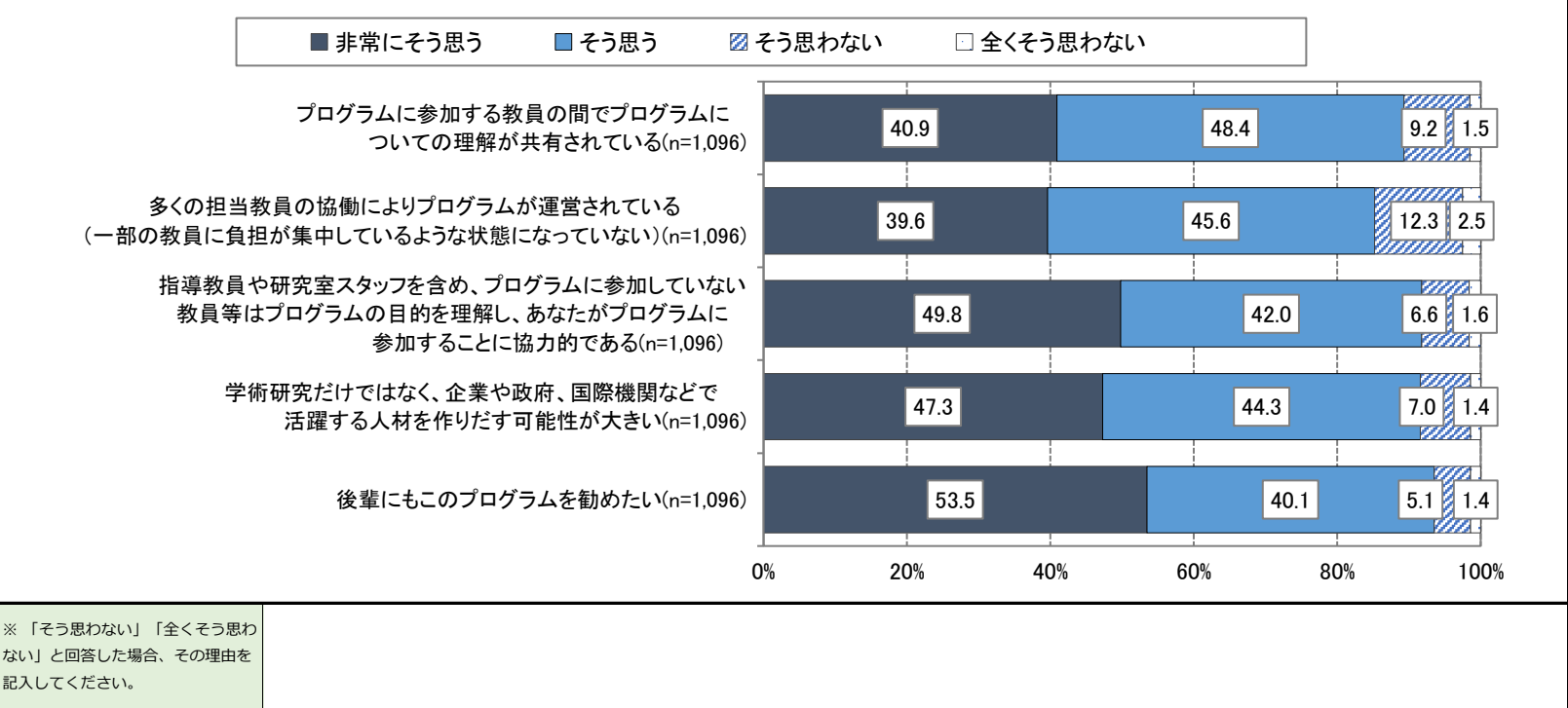
IX. プログラムで身に付いた能力

Q 1 2. このプログラムで次のような能力は身についたと思いますか



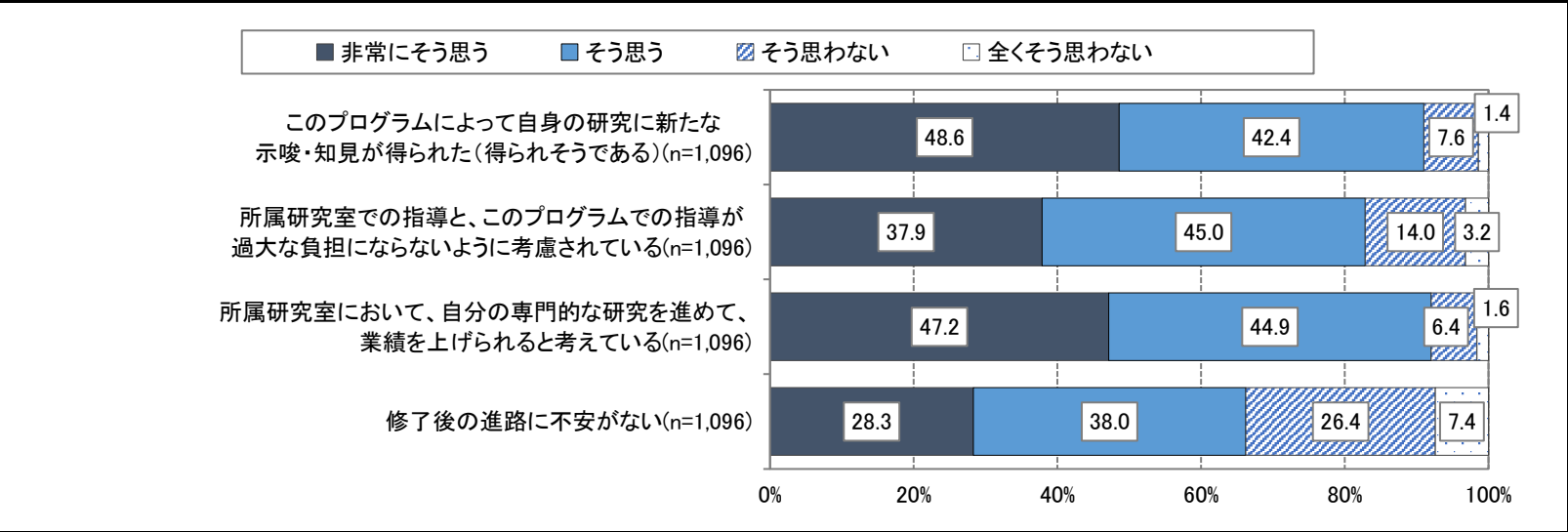
X. 教員の理解度等

Q 1 3. 以下の点について、どのように考えますか。



XI. プログラムの効果・負担等

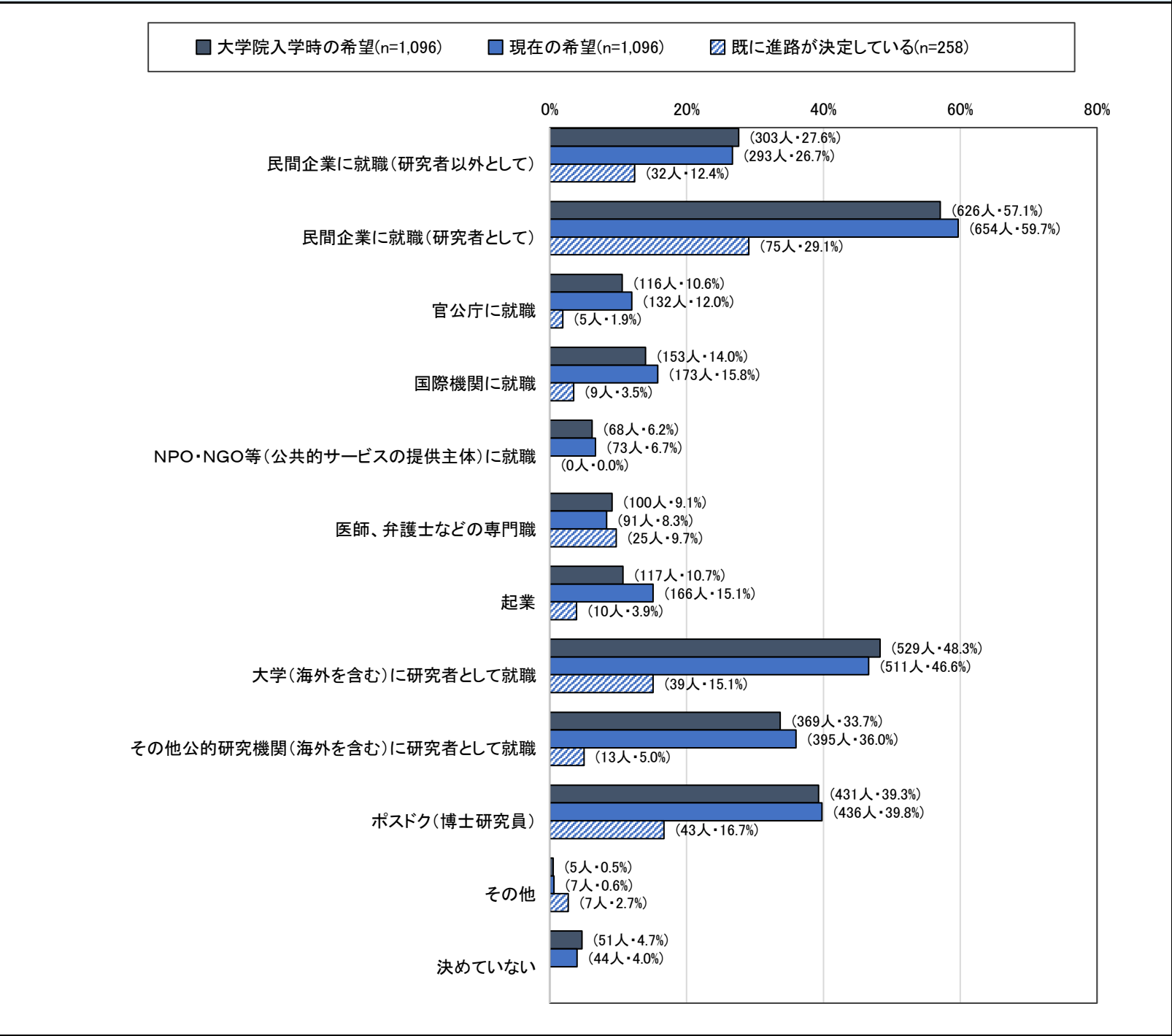
Q 1 4 . 以下の点について、どのように考えますか。



ご自身の今後の希望や本プログラムによる成果などについてうかがいます

XII. 修了後の進路

Q 1 5 . 修了後の進路についてどのような希望をもっていますか。



※「その他」を選択した場合、具体的な希望をご記入ください	
------------------------------	--

Q 1 6 . プログラムへの参加によって、あなたの人生観、職業観、世界観、国際意識などがどのように変わったかをご記入ください。

--

Q 1 7 . 大学や研究機関、民間企業、公的研究機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材となるために、所属するプログラムにおいてあなたが主体的に行った活動およびその成果についてご記入ください。

--

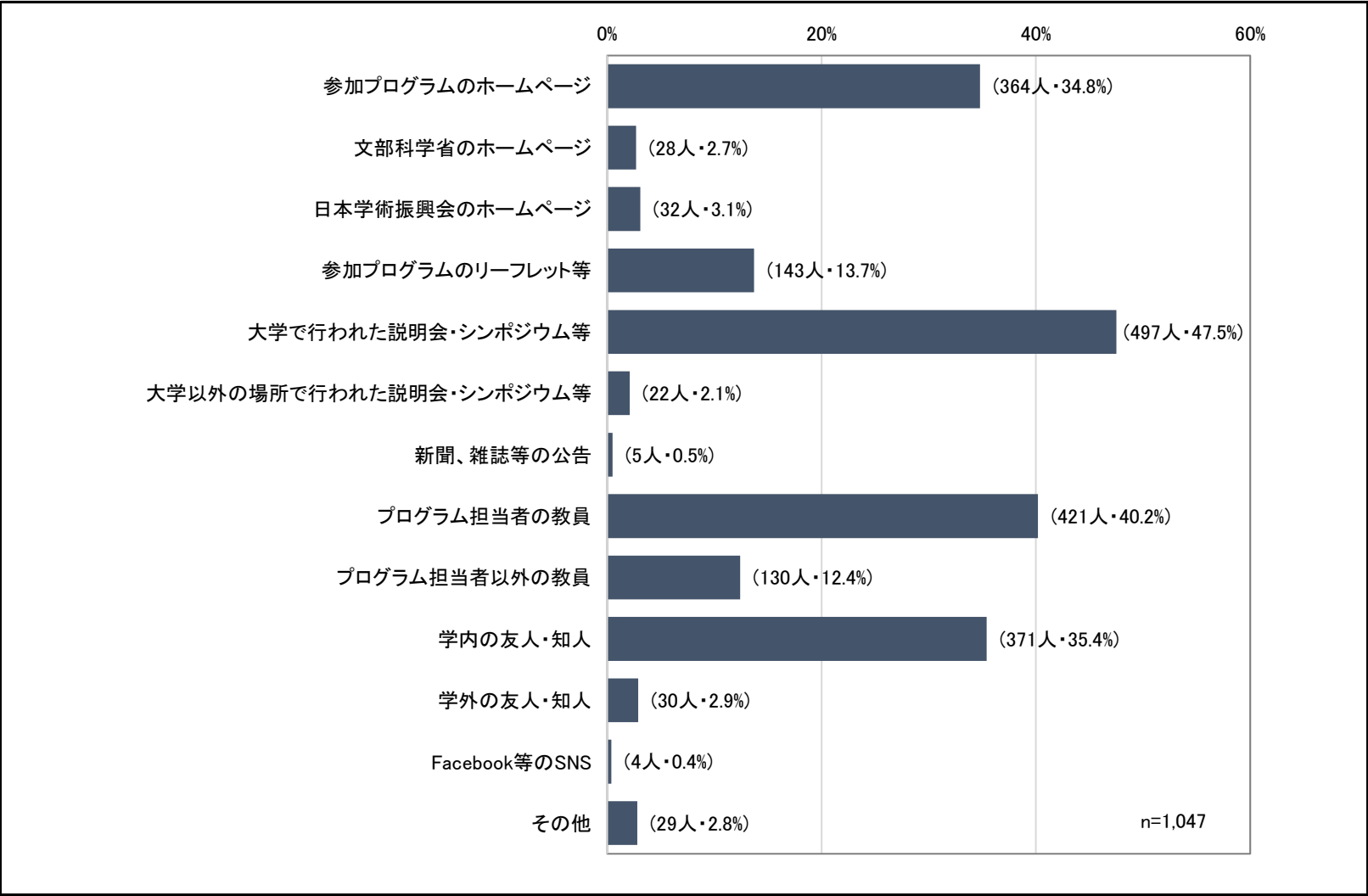
全般的なご意見をうかがいます

Q 1 8 . 参加するプログラムについて、あなたの将来に向けてこのプログラムがどう役立っているか、又はどのように改善してほしいかも含め、感想、ご意見をご記入ください。

プログラムが役立っている点・良い点	
改善してほしい点	
その他の感想・意見	

（参考情報）よろしければご協力ください

Q19. このプログラムをどのようにして知りましたか。（任意回答・複数選択可）



アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

附録C プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果

卓越大学院プログラム 平成30年度採択プログラム事後評価 プログラム担当者アンケート調査

●この調査は卓越大学院プログラム（注）の平成30年度採択プログラムの事後評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムを担当しておられる大学院教員の方および学外から協力いただいている方にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。

●いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 ＜卓越大学院プログラムとは＞

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

本事業により、これまで行われてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの育成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが期待されています。

担当されているプログラムと、ご自身についてうかがいます

I. 回答者の属性

Q1. 担当している大学・プログラム名について、表示されている内容を確認してください。

全体

Q2. 年齢、性別について選択してください。

Q2_1. 年齢

年齢	人数	割合
39歳以下	50人	5.4%
40歳代	216人	23.4%
50歳代	405人	43.9%
60歳以上	251人	27.2%
合計	922人	100%

Q2_2. 性別

性別	人数	割合
男性	810人	87.9%
女性	98人	10.6%
無回答	14人	1.5%
合計	922人	100%

Q2_3. 国籍

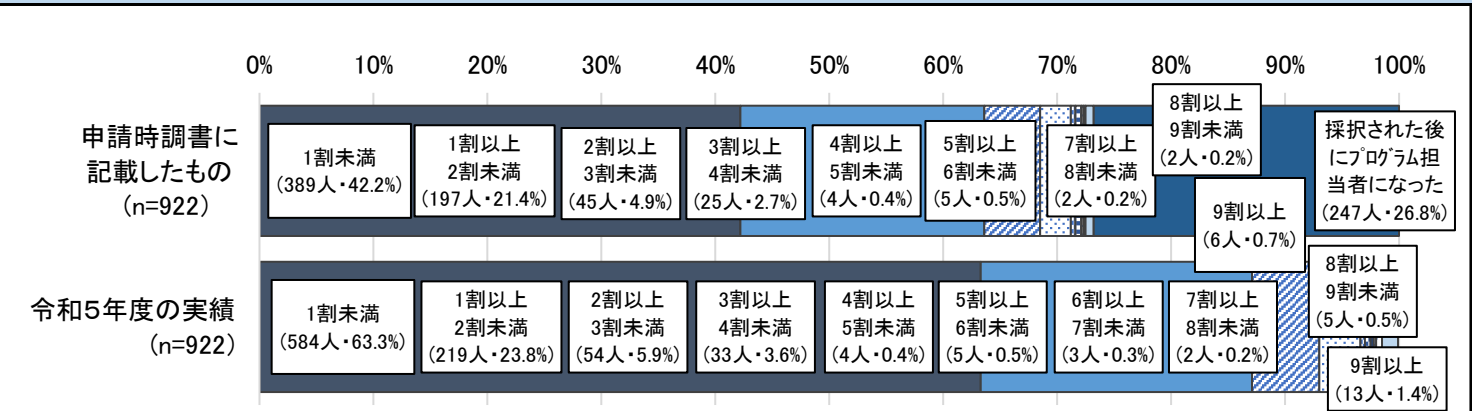
Q3. プログラムとの関係について選択してください。

Q3_1. プログラムに参加した年度（該当する年度全てを選択）

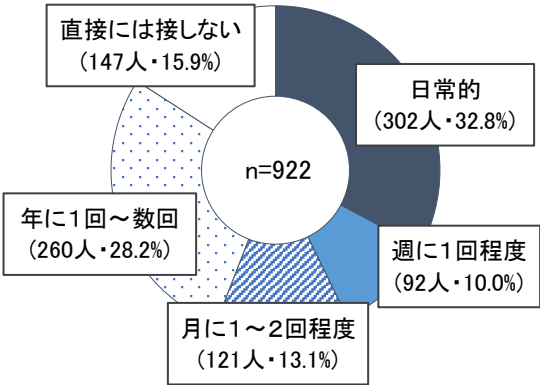
	0%	20%	40%	60%	80%	100%
平成30(2018)年度	(546人・59.2%)					
令和元(2019)年度	(590人・64.0%)					
令和2(2020)年度	(638人・69.2%)					
令和3(2021)年度	(684人・74.2%)					
令和4(2022)年度	(747人・81.0%)					
令和5(2023)年度	(777人・84.3%)					
令和6(2024)年度	(731人・79.3%)					
n=922						

Q3_2.エフォート（申請時調書に記載したもの、1つを選択）

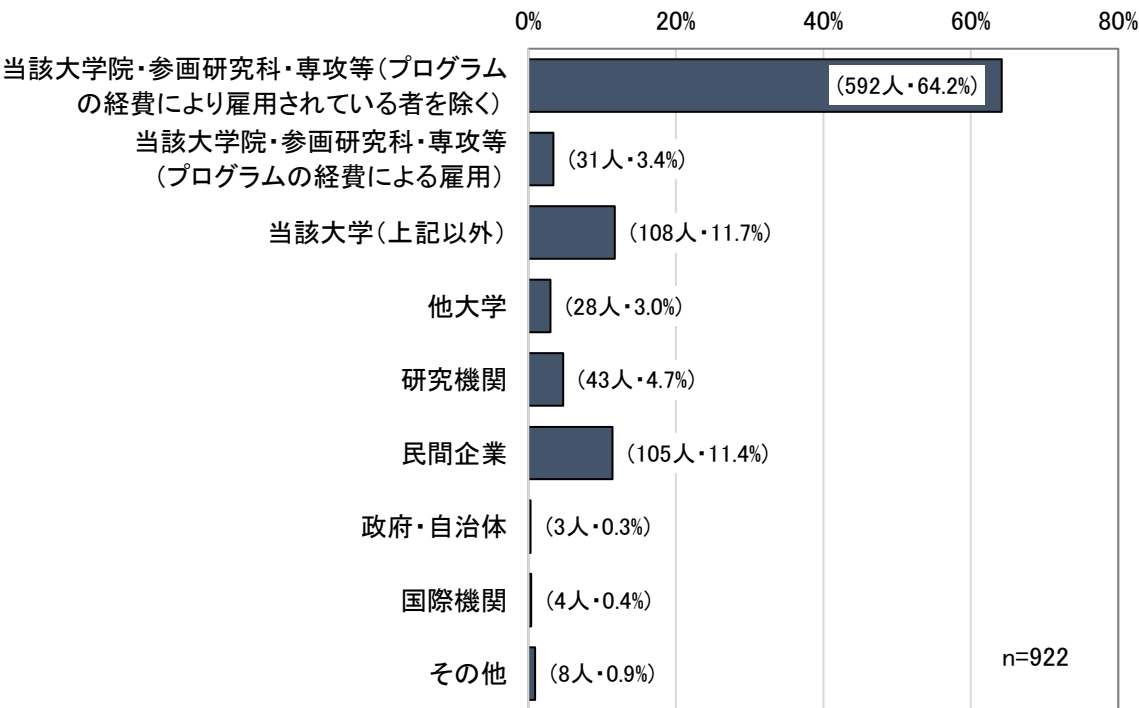
Q3_3.エフォート（令和5年度の実績、1つを選択）



Q3_4.本プログラムの学生に直接に接する頻度

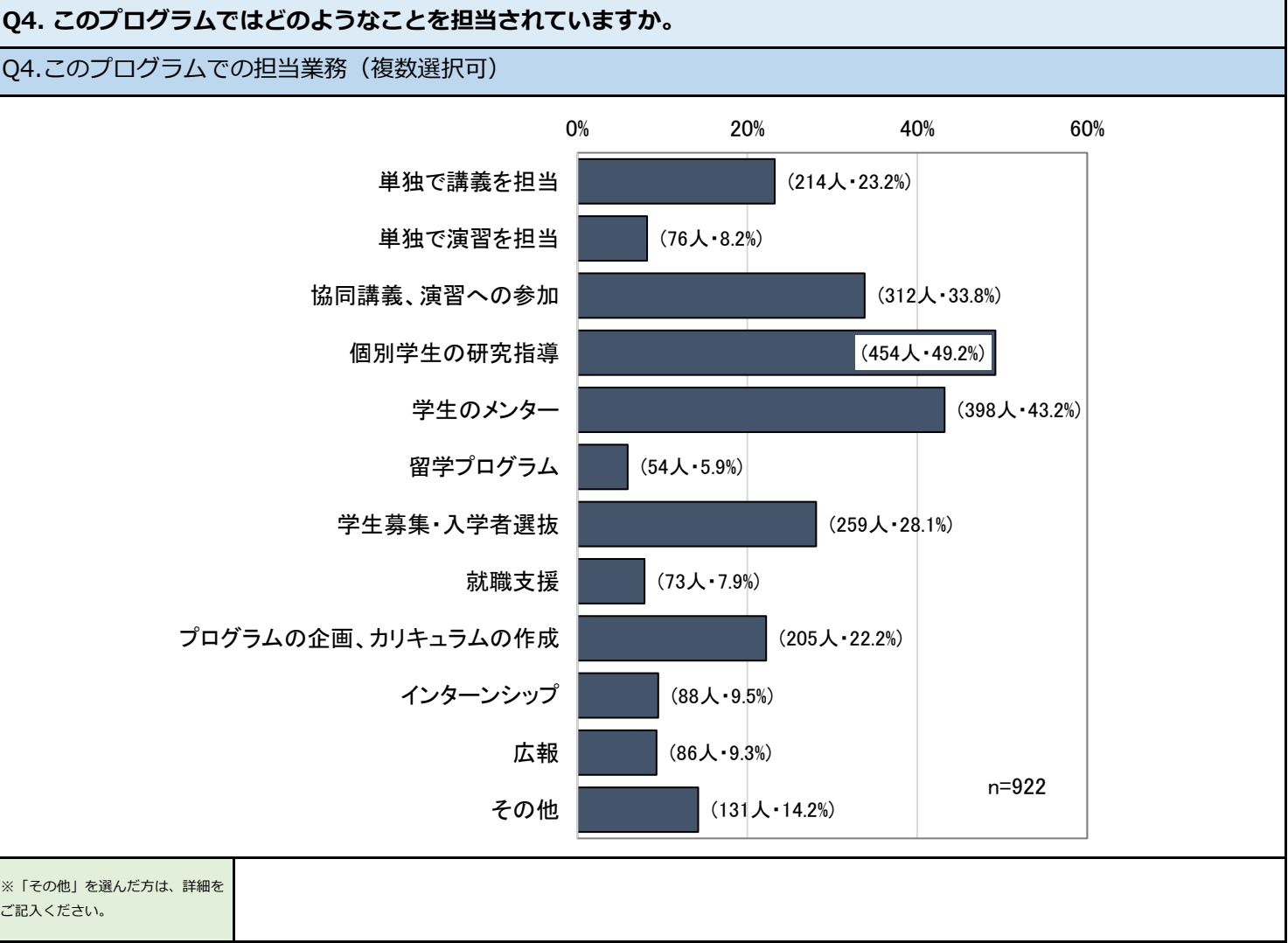


Q3_5.所属（本務）



※ Q3_5.で「その他」を選んだ方は、詳細をご記入ください。

II. プログラムへの関与



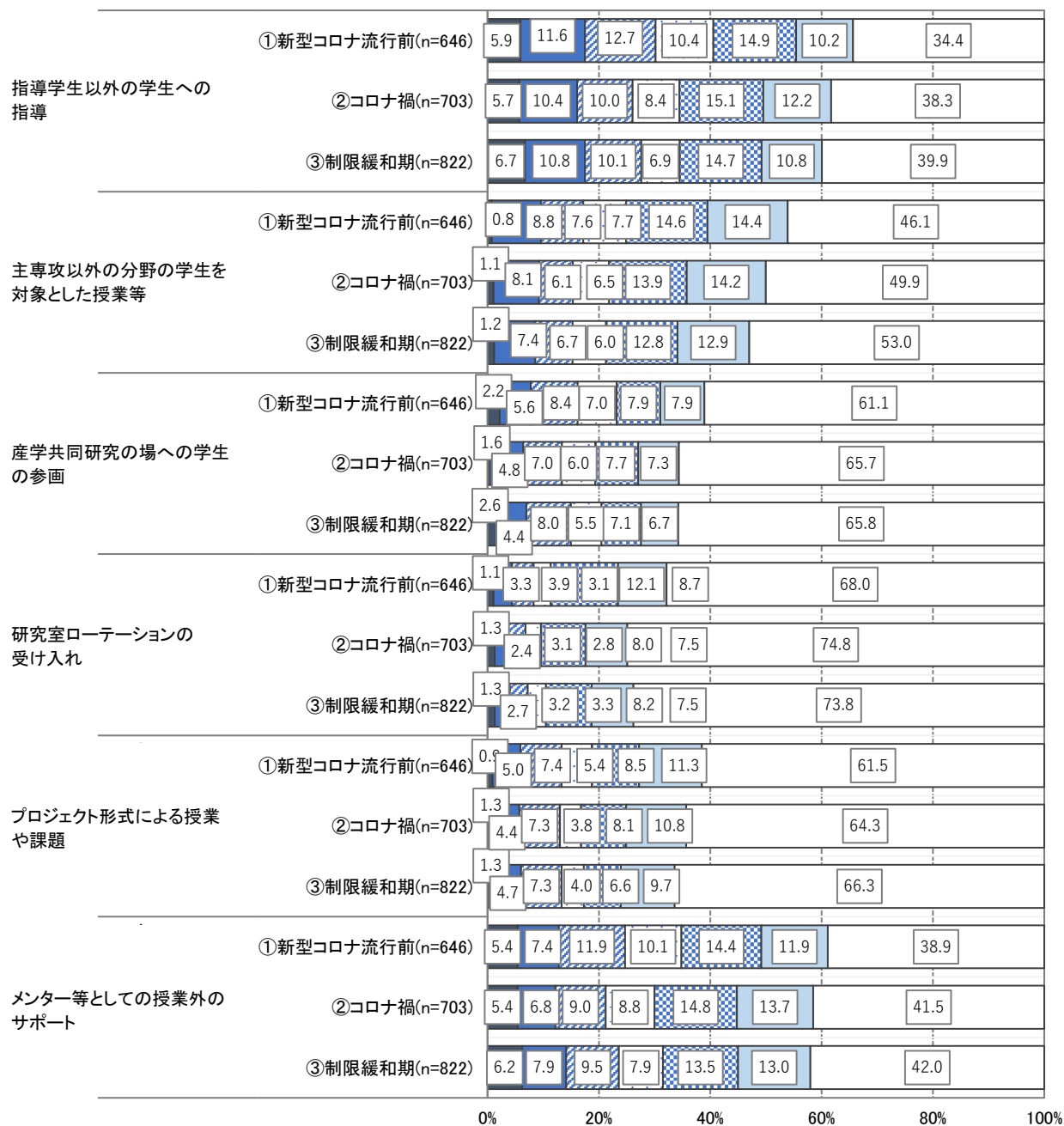
プログラムの実施状況についてうかがいます

III. 指導等の内容

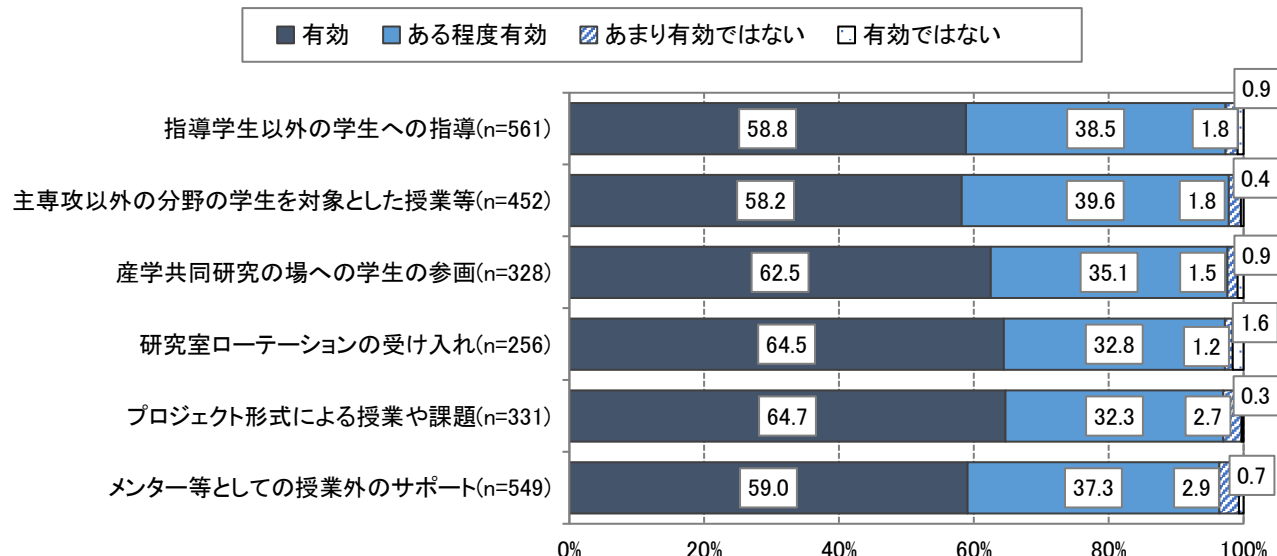
Q5. このプログラムで、先生は以下のような指導を行われていますか。
また、行っている場合、それは有効ですか。
(それぞれ該当する回答を選択。カリキュラムに無い場合や今後行う場合は「行っていない」を選択してください。)

①2018（平成30）～2019（令和元）年度「新型コロナ流行前」、
②2020（令和2）～2021（令和3）年度「コロナ禍」、
③2022（令和4）年度～「制限緩和後」、
それぞれの期間について回答してください。
※プログラム参加前の期間についての回答は不要です。

Q5.このプログラムで行った指導



Q5.上記の指導を行った場合の有効性



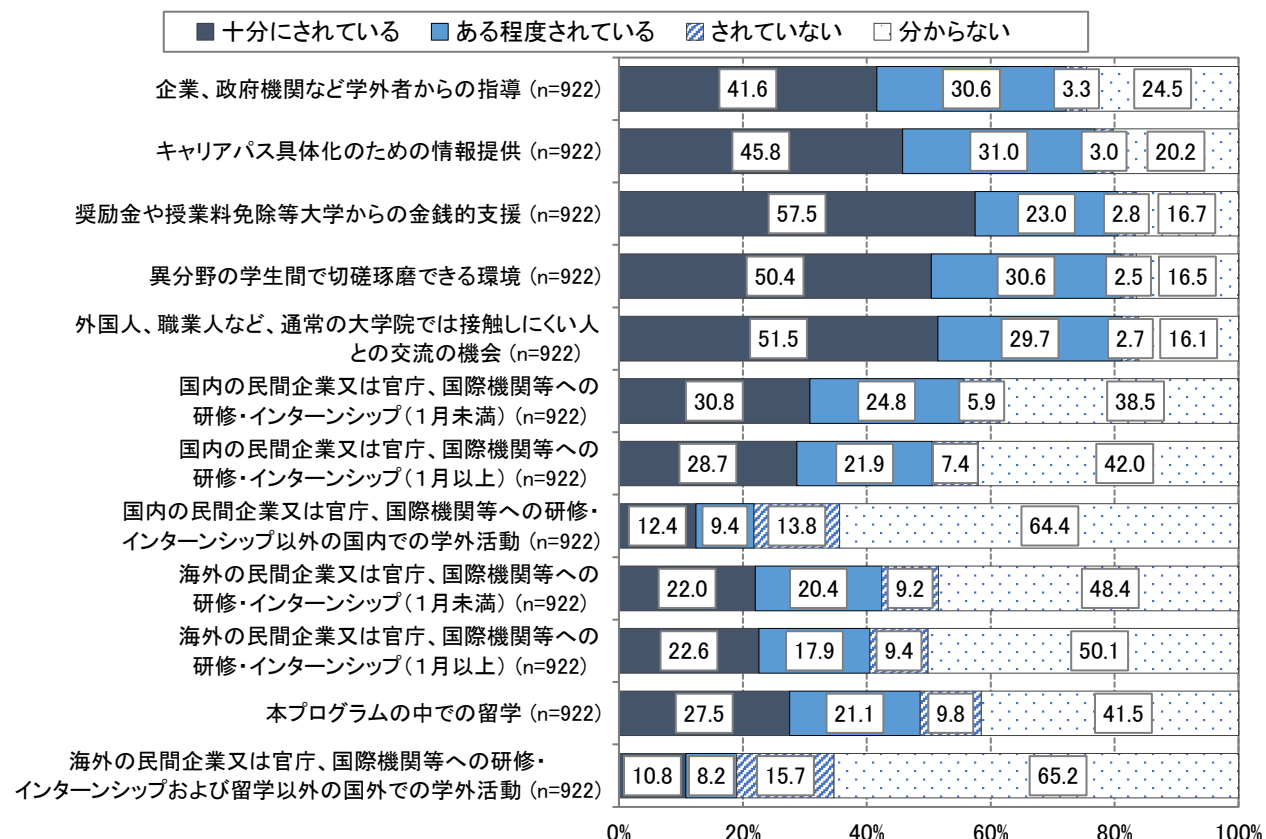
IV. 学生の学修環境の整備状況とその有効性

Q6. このプログラムで、以下のようなことは実施あるいは整備されていますか。

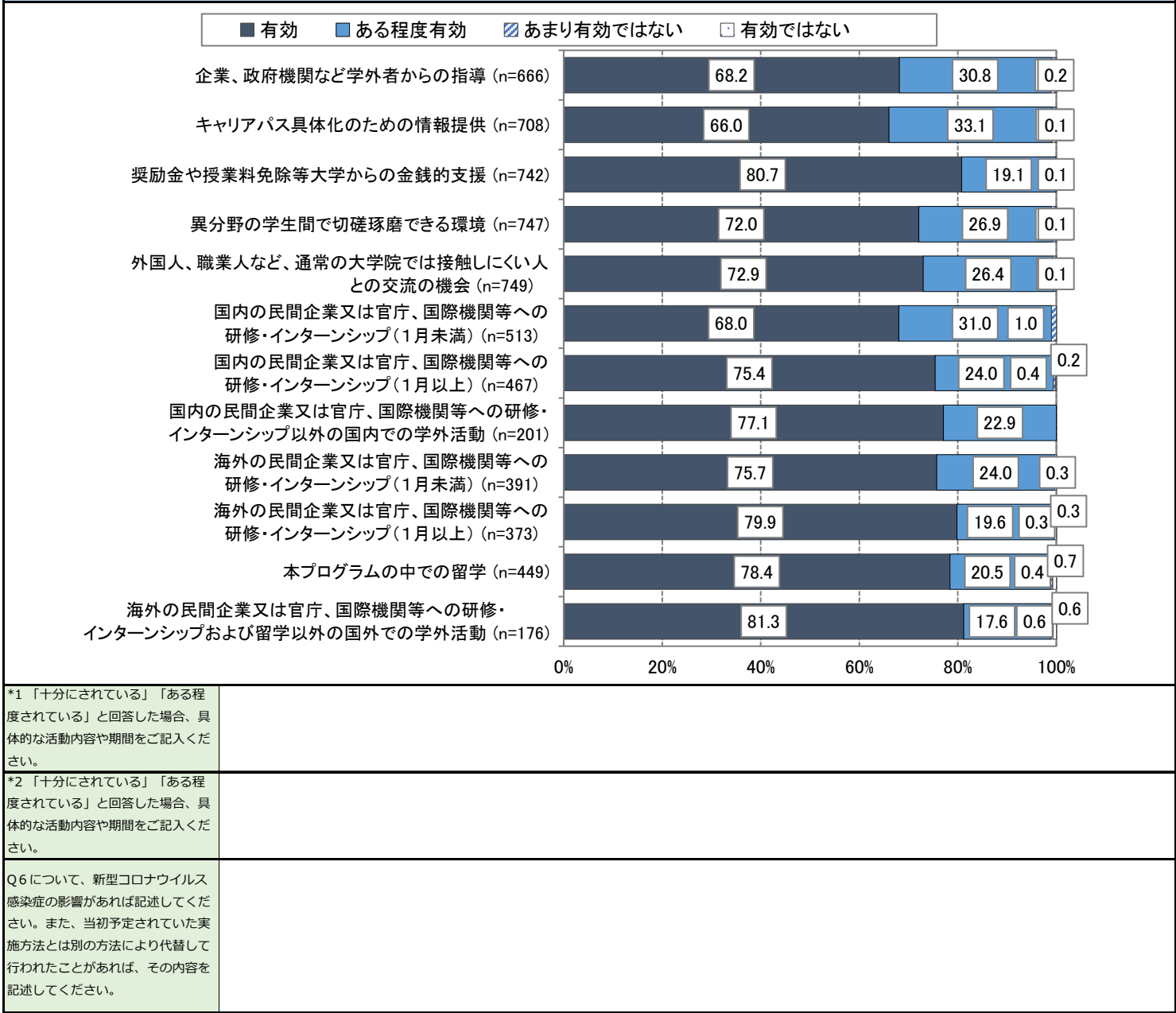
また、「十分にされている」「ある程度されている」を選択した場合、それは有効に機能していますか。

(それぞれ該当する回答を選択。カリキュラムに無い場合や今後行う場合は「されていない」を選択してください。)

Q6.学生の学修環境の整備状況【整備されているか】

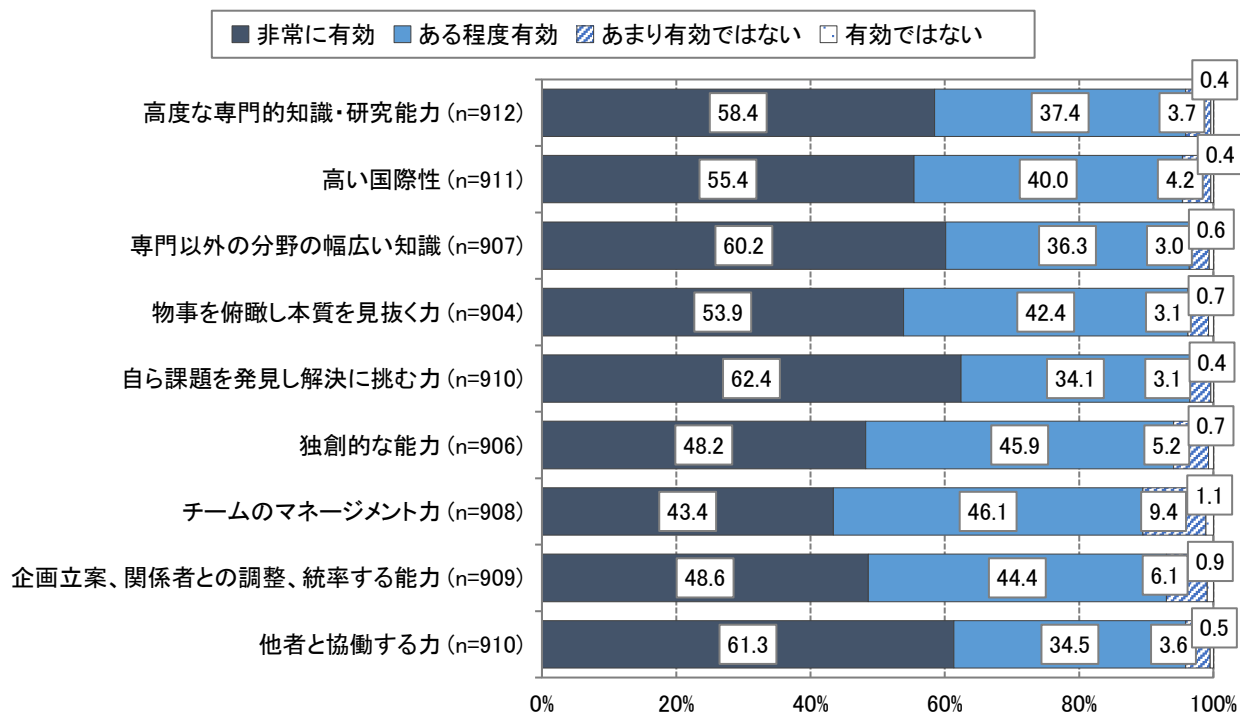


Q 6 . 学 生 の 学 修 環 境 の 整 備 状 況 【 有 効 か 】



V. プログラムの有効性

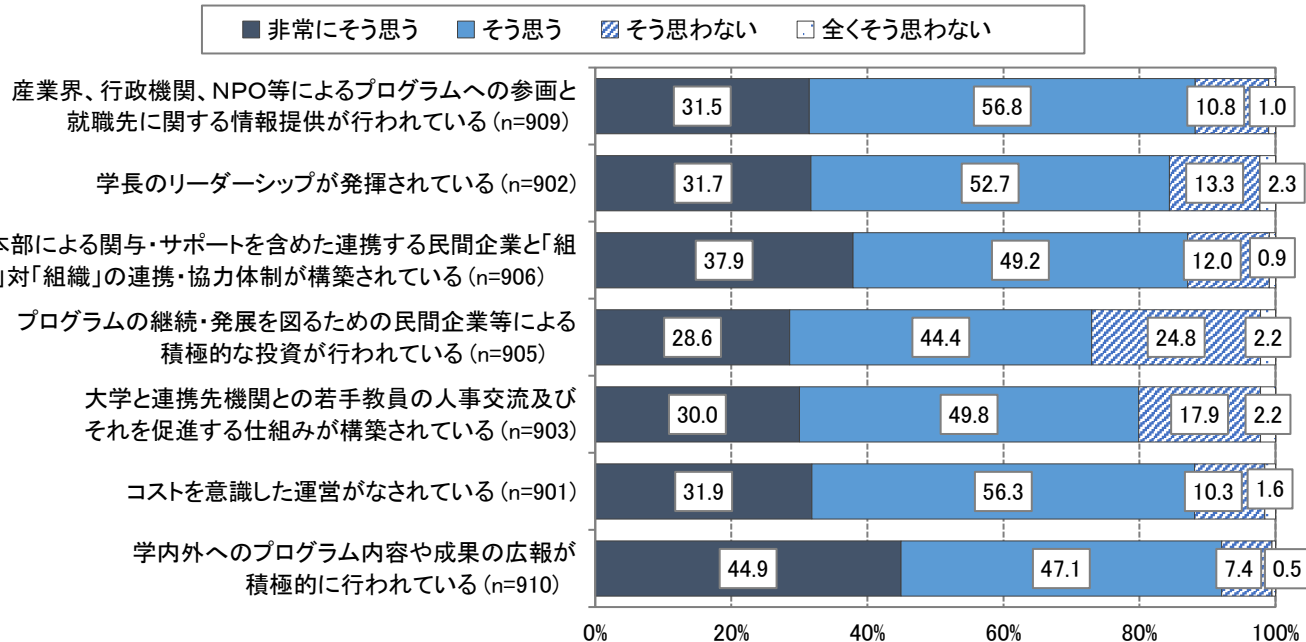
Q7. このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせる為にどの程度有効だと思いますか？



その他（具体的にご記入ください）

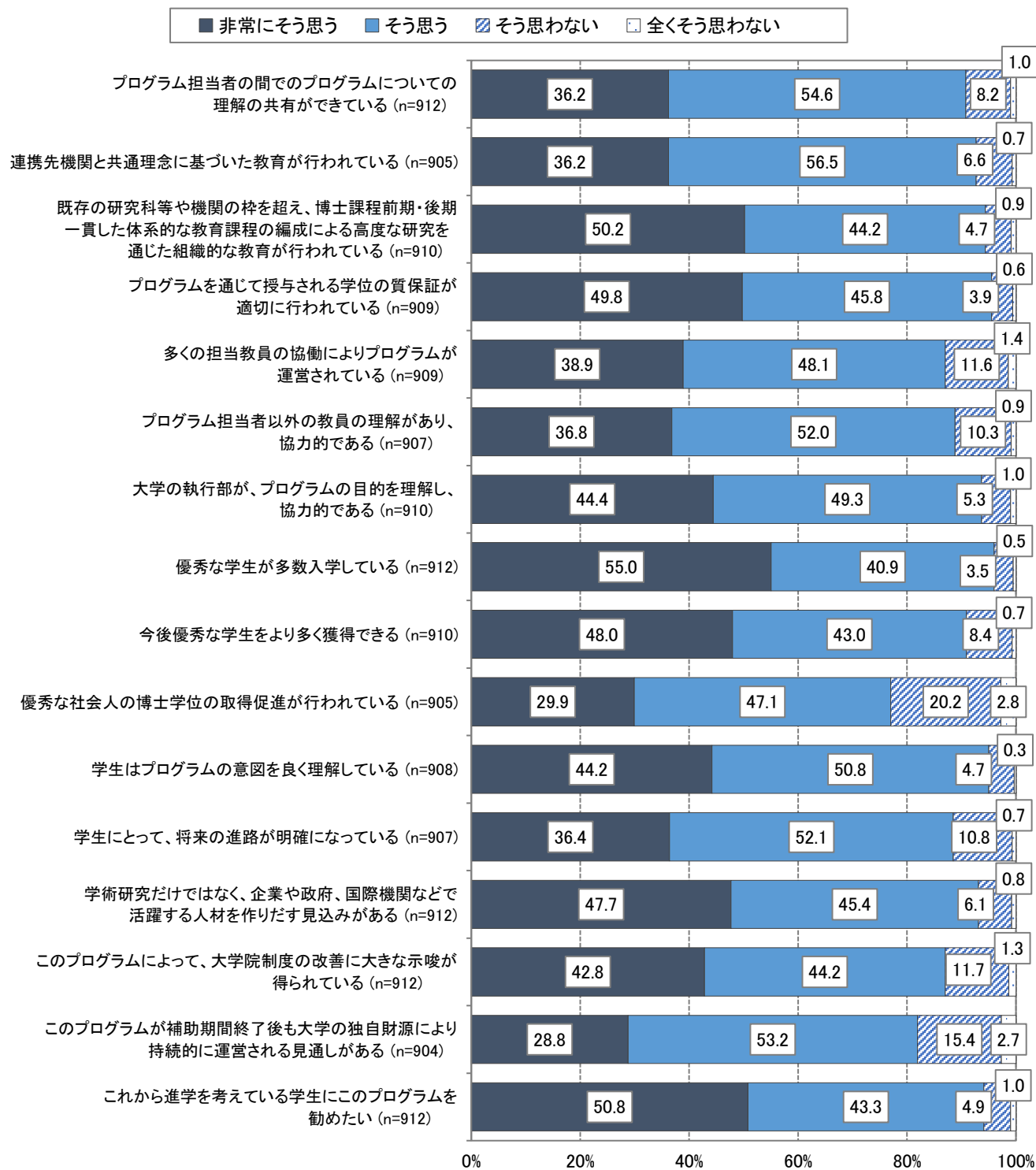
VI. プログラムの運営・管理

Q8. 運営・管理の面で、以下の点についてどう考えられていますか。



VII. プログラムに対する印象

Q9. 以下の点について、どう考えられていますか。

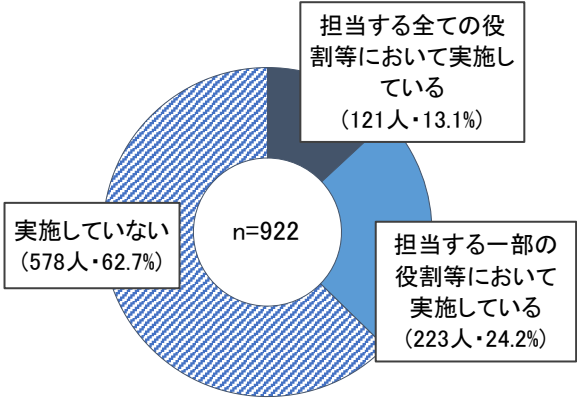


プログラム改善のための方策についてうかがいます

VIII. プログラムの改善

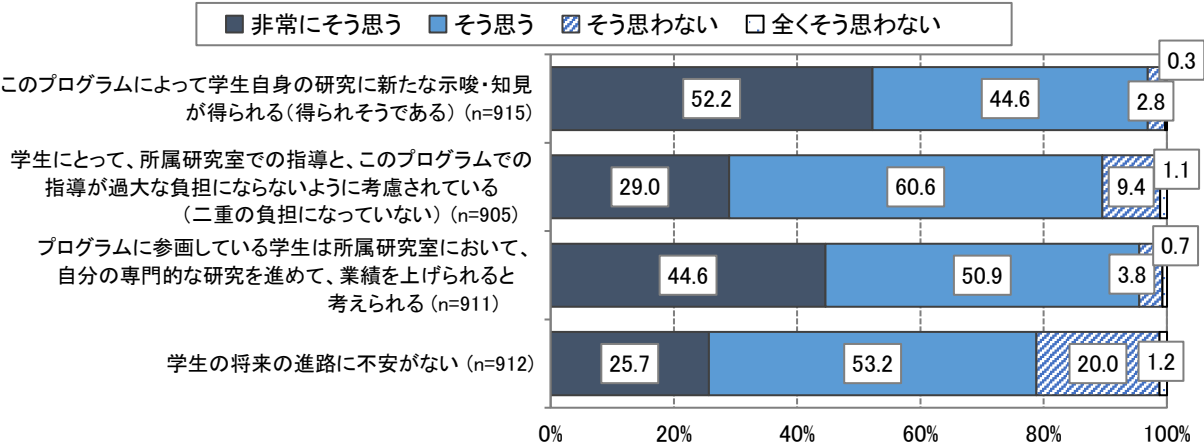
Q10-1. このプログラムにおいてあなたが担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート（紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの）を行っていますか。下記から一つ選択して下さい。

Q10-1. 指導・支援改善のための、学生による評価やアンケート実施



Q10-2. Q10-1にて「（全て・一部において）実施している」と回答された方へお伺いします。評価やアンケートの結果を踏まえ、具体的に改善を図った内容があれば、その内容についてご記入ください。

Q11. 以下の点について、どう考えられていますか。



全体的なご意見をうかがいます

Q12. この質問票でお尋ねした点、あるいはそれ以外にも、このプログラムについてお考えがあれば、ご自由にご記入ください。

調査項目はこれで終わりです。ご協力どうもありがとうございました。

附録D 修了者アンケート調査と単純集計結果

卓越大学院プログラム 平成30年度採択プログラム事後評価 修了者アンケート調査

●この調査は卓越大学院プログラム（注）の平成30年度採択プログラムの事後評価の一環として実施するものです。プログラムに参加された皆さん（大学により各プログラムに選抜された学生）にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。

●いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 <卓越大学院プログラムとは>

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

本事業により、これまで行われてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの育成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが期待されています。

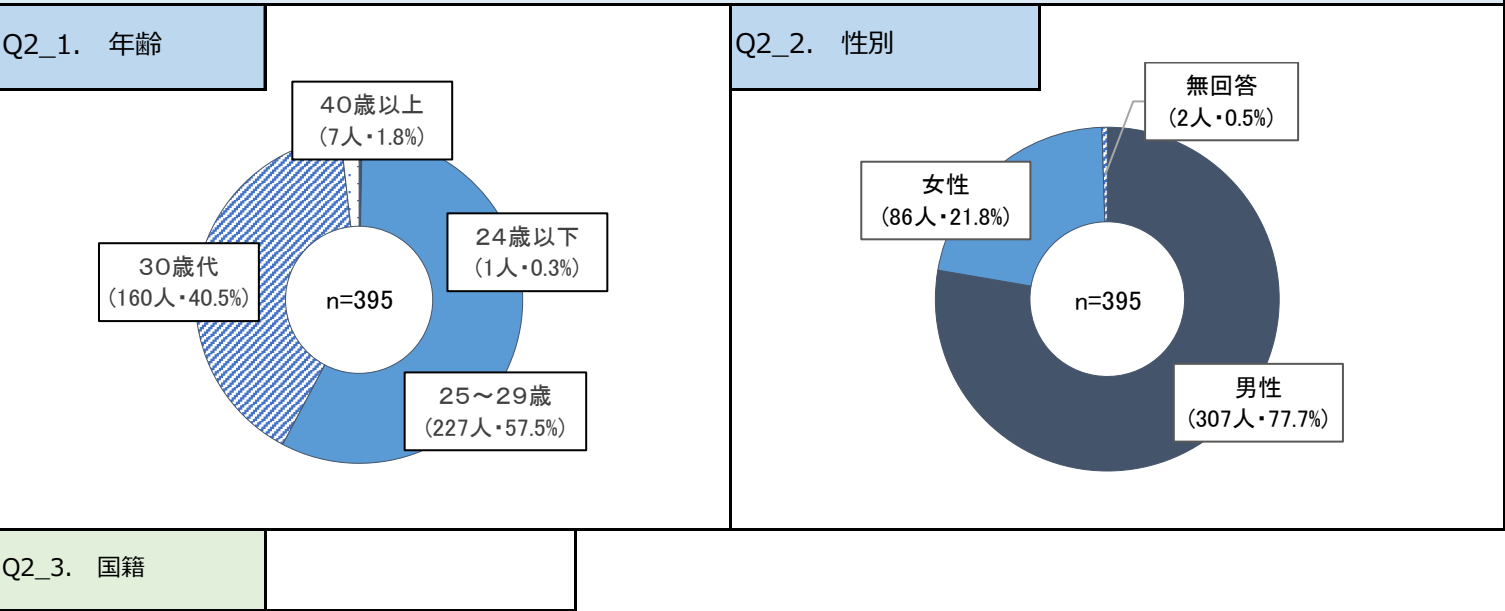
参加されていたプログラムと、ご自身についてうかがいます

I. 回答者の属性

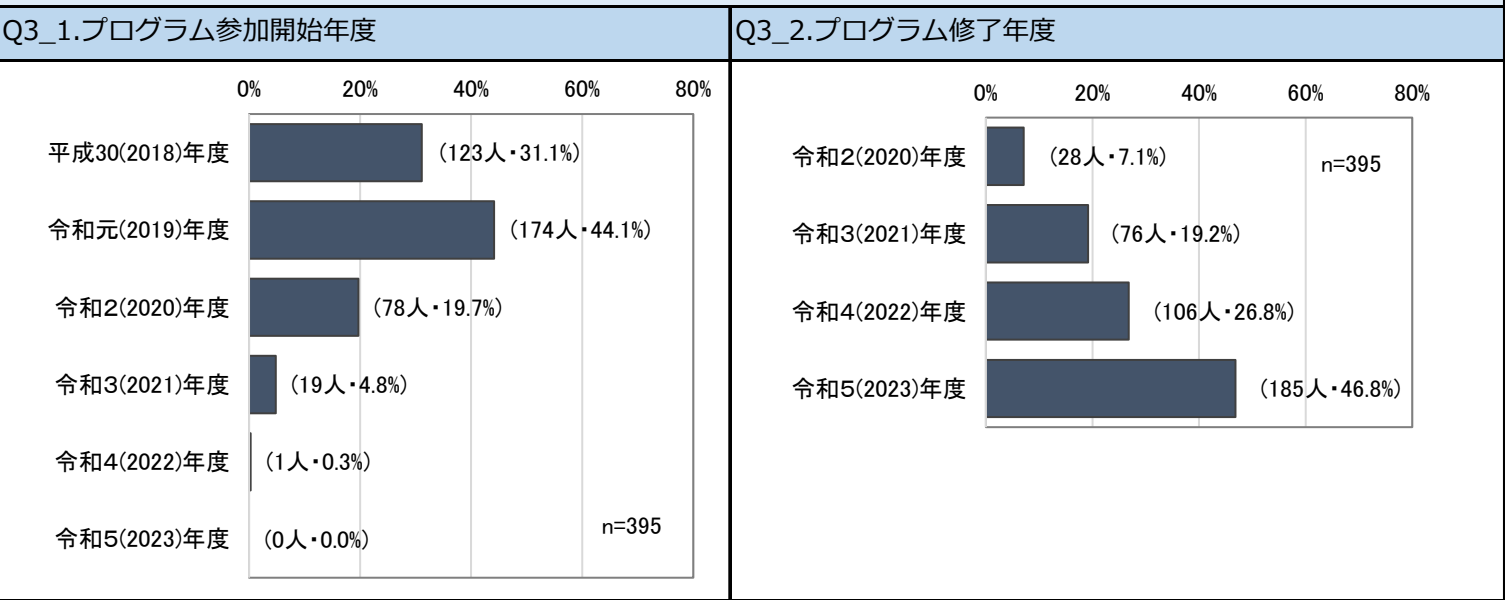
Q 1. 参加している大学・プログラム名について、表示されている内容を確認してください。

全体

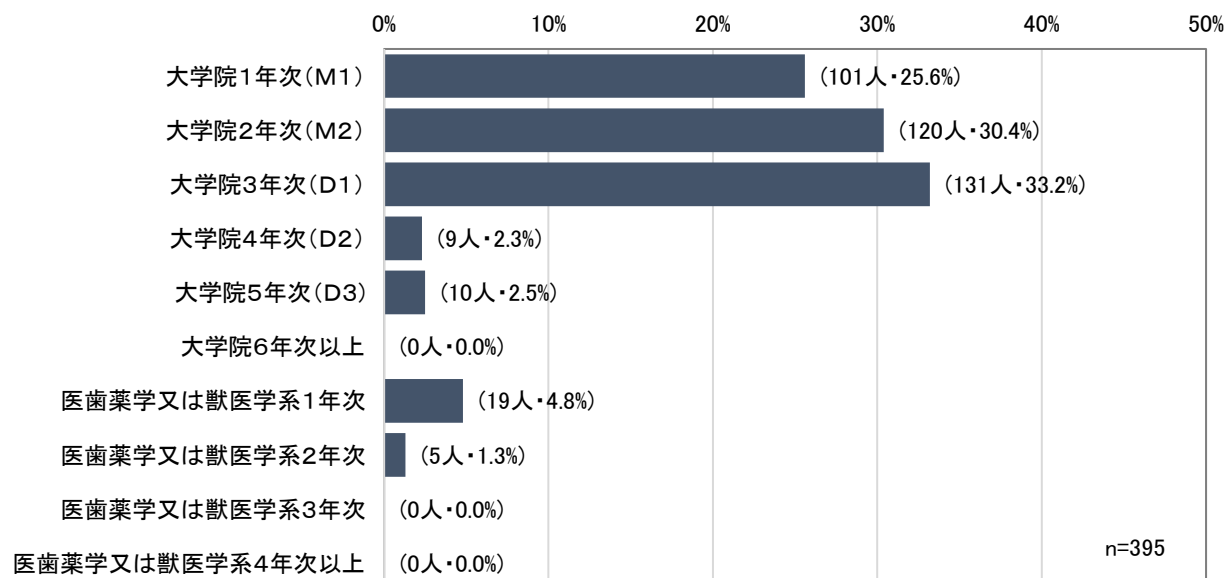
Q2. 年齢、性別、国籍について選択してください。



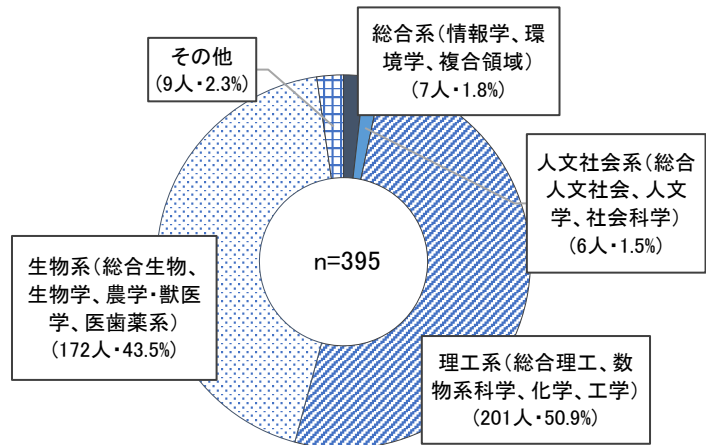
Q3. プログラムとの関係について選択してください。



Q3_3.プログラムに参加した年次

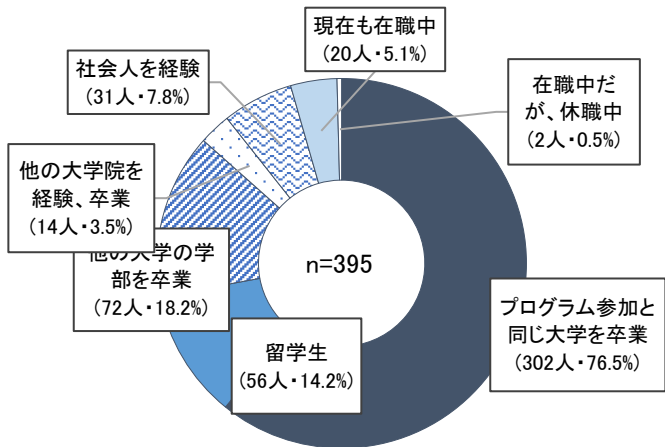


Q3_4.学位論文執筆分野

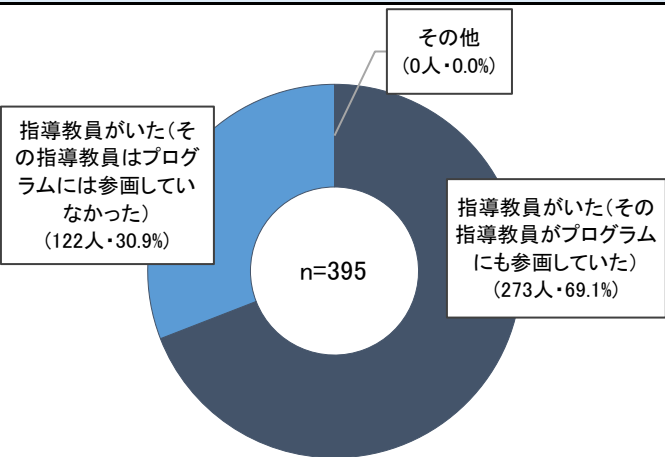


※ Q3_4.で「その他」を選んだ方は、執筆分野をご記入ください。

Q4. プログラム参加時の経歴にあてはまるものを全て選択してください。



Q5. 指導教員（専門分野における研究指導を行う教員1名）とプログラムの関係について、あてはまるものを選択してください。

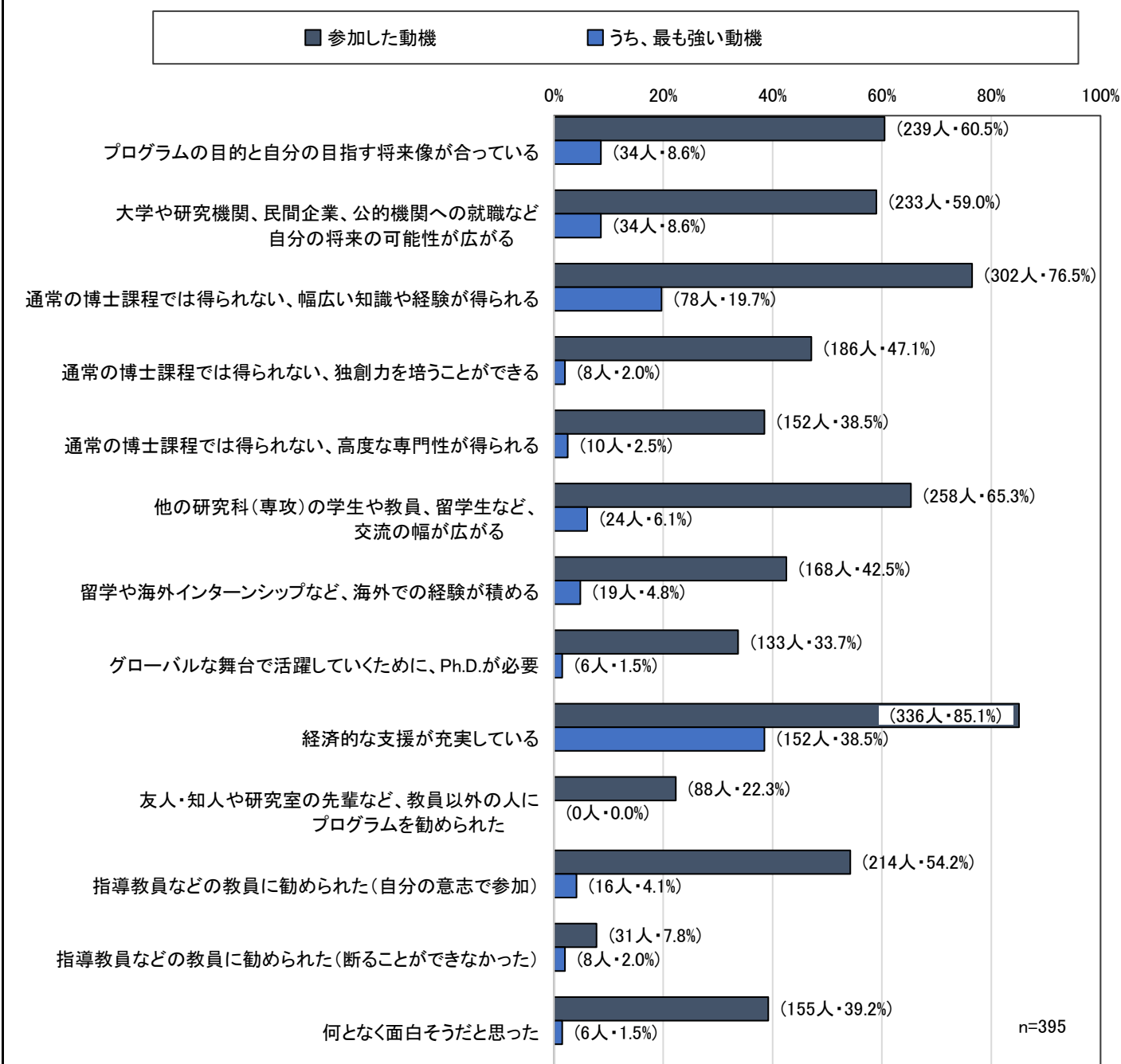


※ Q5.で「その他」を選んだ方は、詳細をご記入ください。

II. プログラムへの参加動機

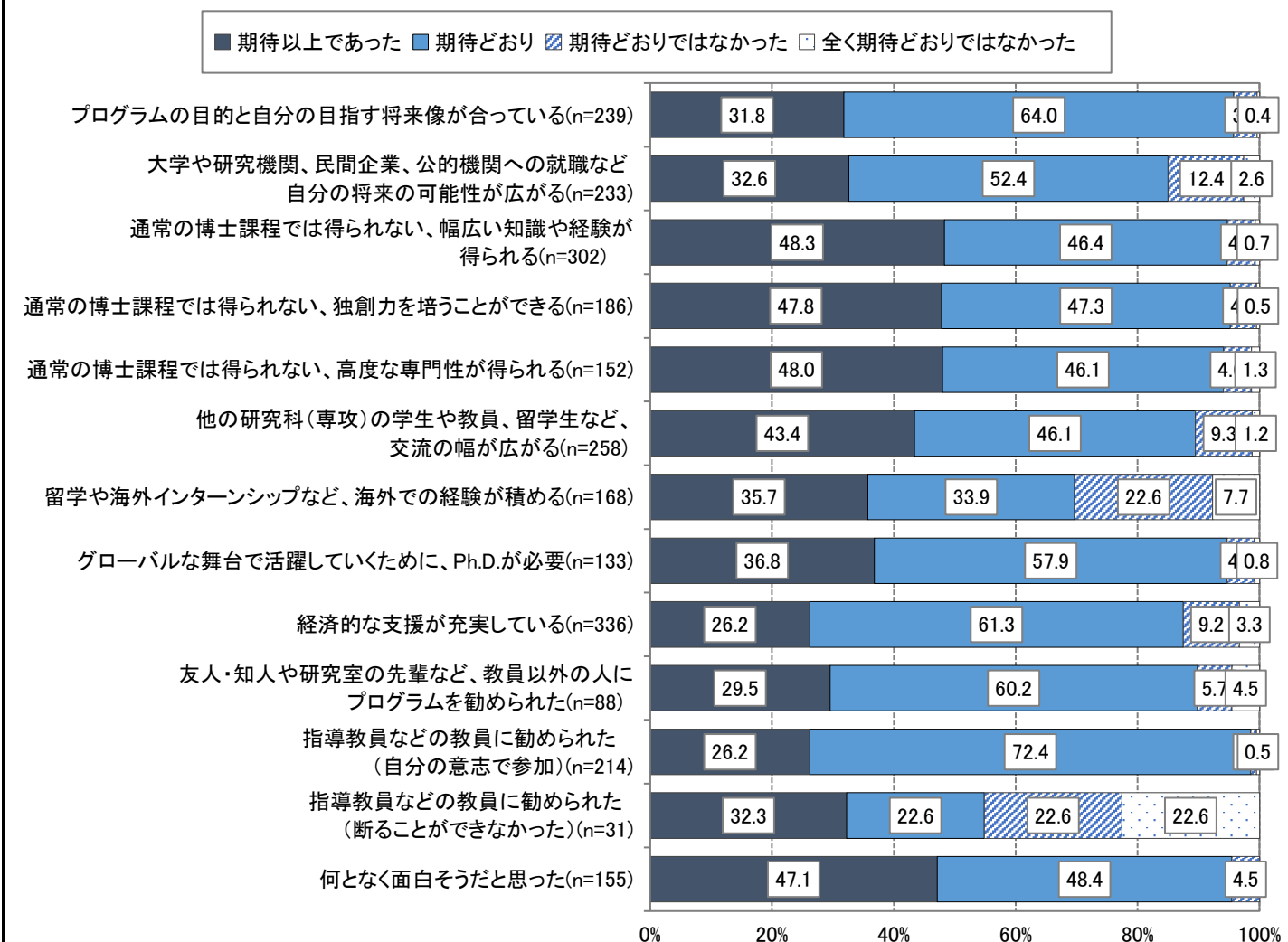
Q6. プログラムへの参加動機について選択してください。また、それはどの程度満たされましたか。

Q6.プログラムへの参加動機



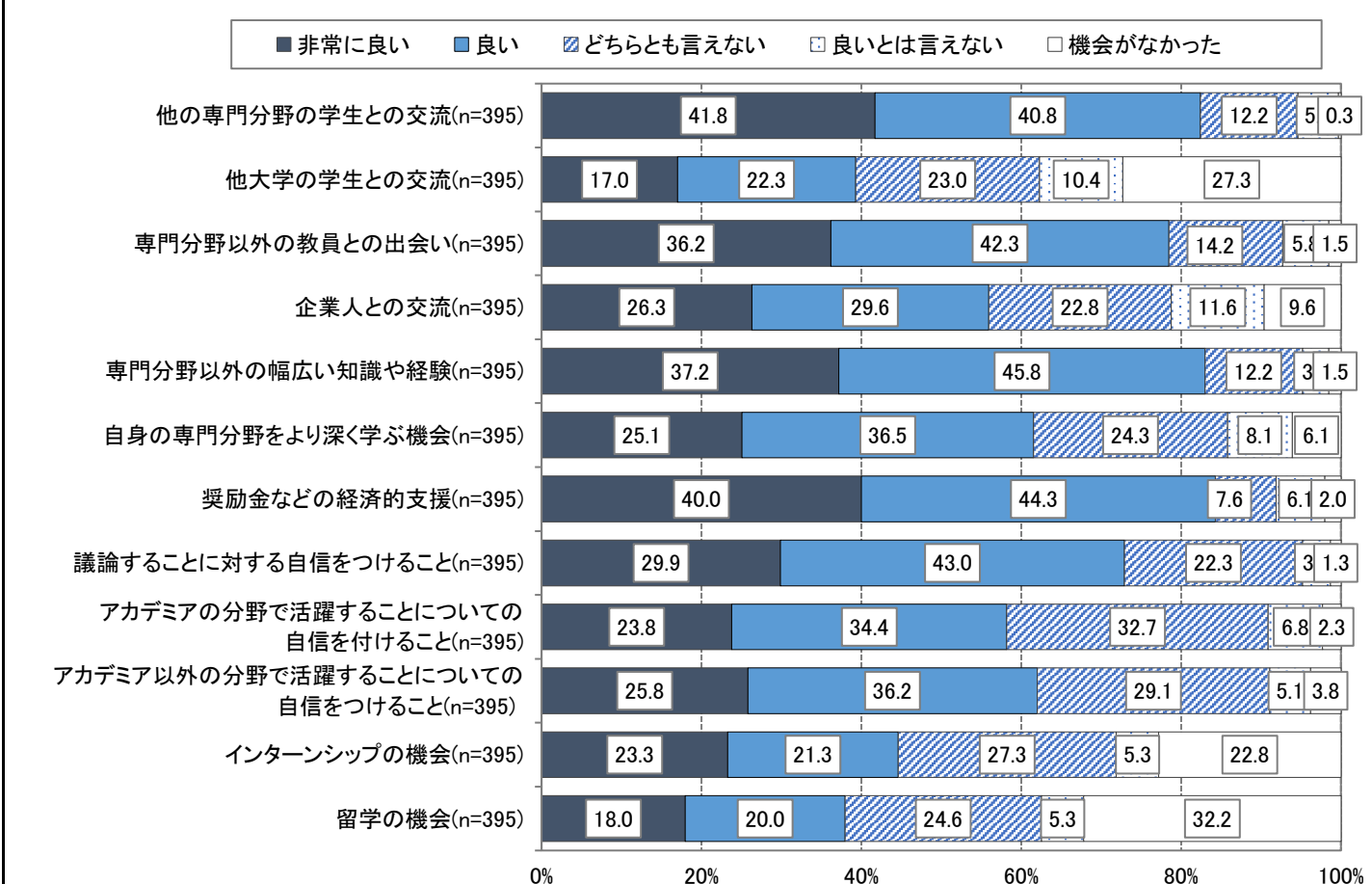
その他の理由がある場合や、上記を選択した理由をご記入ください。

Q6.「当てはまる動機」について、修了後の評価



III. プログラムの内容に対する評価

Q7. プログラムについて、以下の点をどのように評価されますか。



プログラムで受けた指導や、機会の提供についてうかがいます

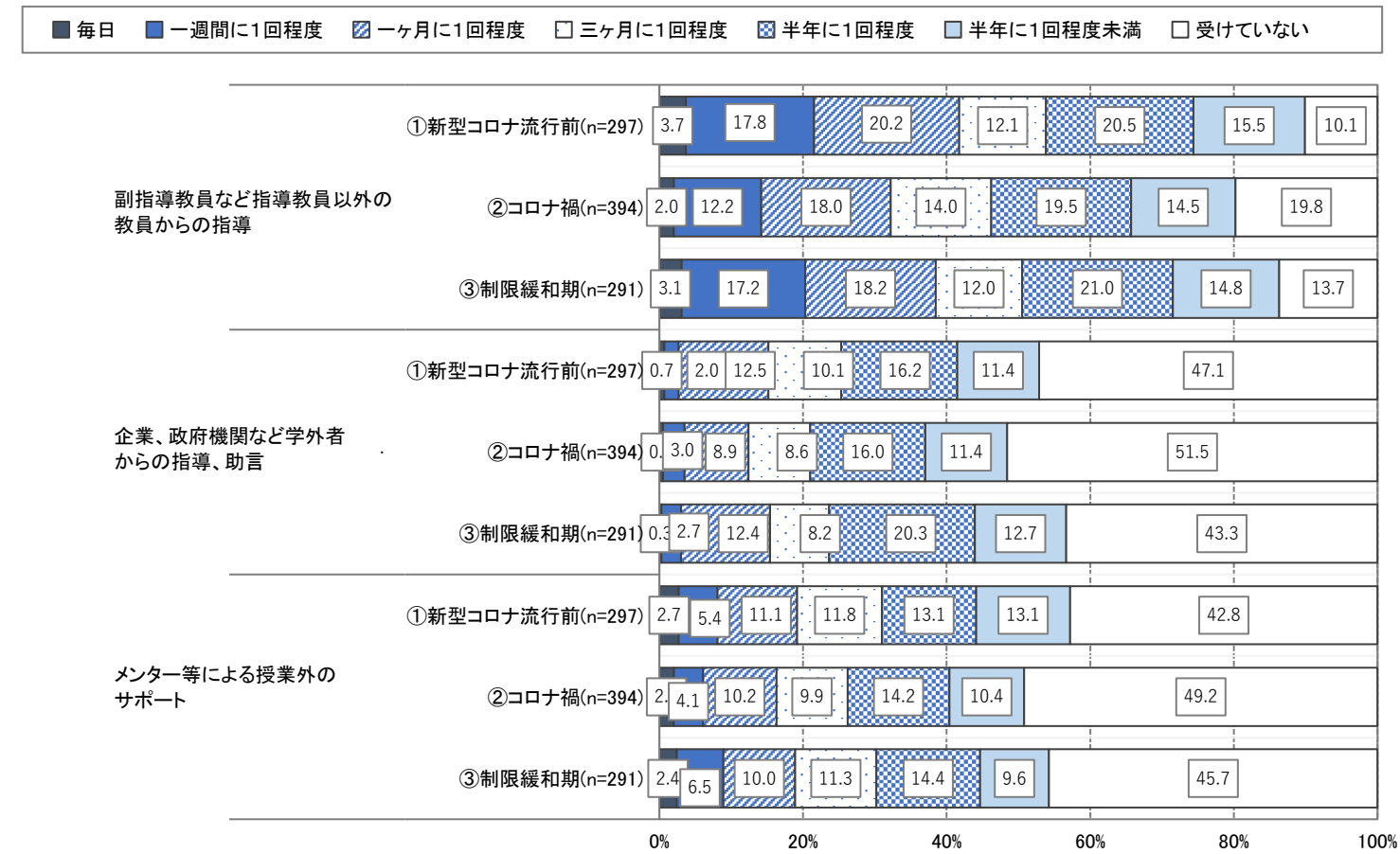
IV. プログラムで受けた指導とその有効性

Q8. このプログラムで、次のような指導をどの程度の頻度で受けましたか。
また、受けた場合、それは有効でしたか。

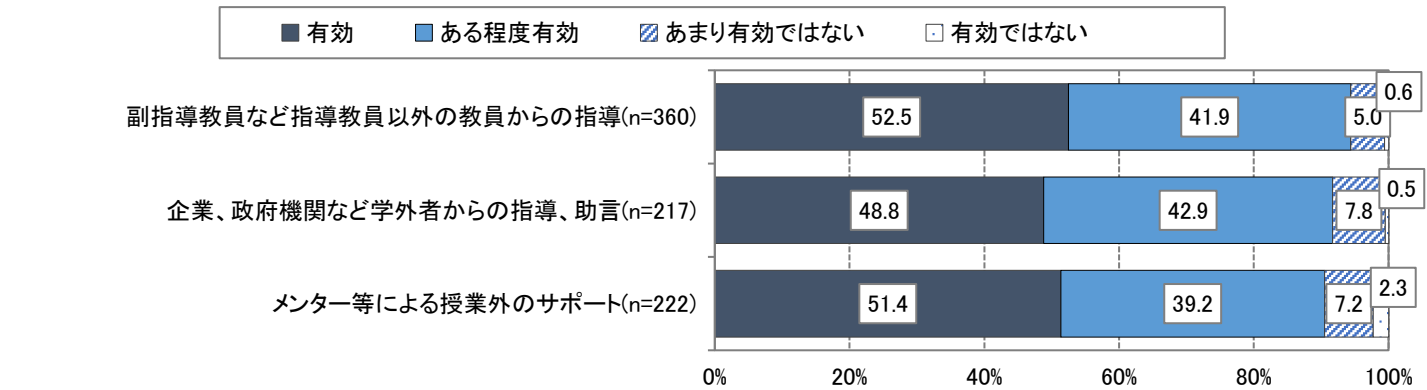
①2018（平成30）～2019（令和元）年度「新型コロナ流行前」、②2020（令和2）～2021（令和3）年度「コロナ禍」、
③2022（令和4）年度～「制限緩和後」、それぞれの期間について回答してください。
※プログラム参加前の期間についての回答は不要です。

<人的な指導>

Q8_1.人的な指導を受けた頻度



Q8_2.人的な指導を受けた場合の有効性



研究・生活・修了後の進路など特記すべき意見や感想などがあれば自由に記載してください。

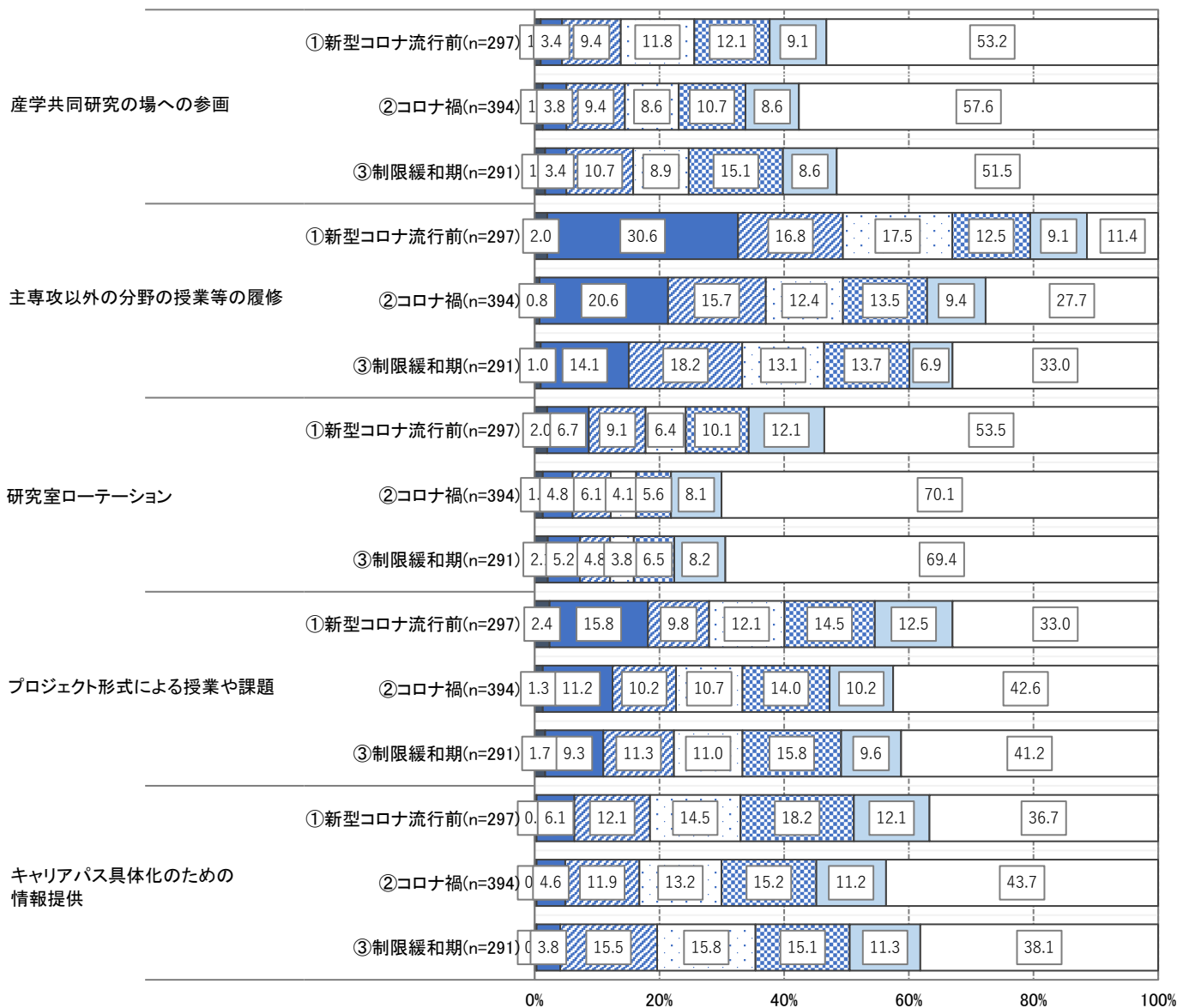
研究・生活・修了後の進路など特記すべき意見や感想などがあれば自由に記載してください。

研究・生活・修了後の進路など特記すべき意見や感想などがあれば自由に記載してください。

<機会の提供>

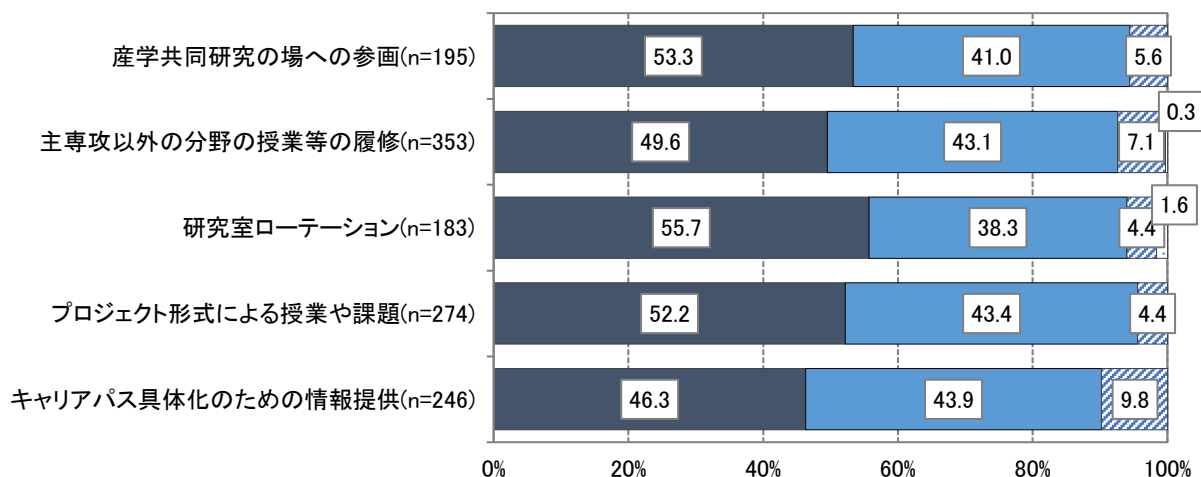
Q8_3.機会の提供を受けた頻度

■ 毎日
■ 一週間に1回程度
■ 一ヶ月に1回程度
■ 三ヶ月に1回程度
■ 半年に1回程度
■ 半年に1回程度未満
□ 受けていない



Q8_4.機会の提供を受けた場合の有効性

■ 有効
■ ある程度有効
■ あまり有効ではない
□ 有効ではない



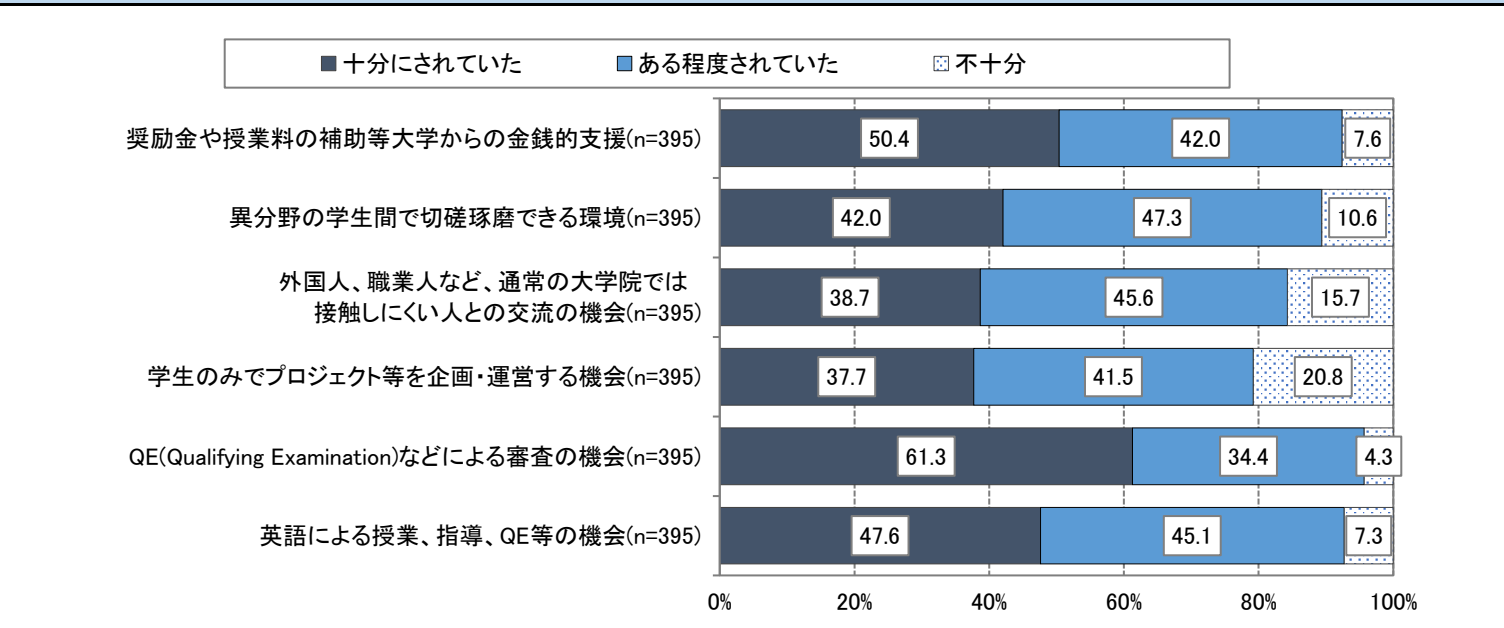
選択した理由や、特に有効または有効でないと思った点などご記入ください。

コロナ禍に、当初予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われた指導等があればその内容をご記入ください。

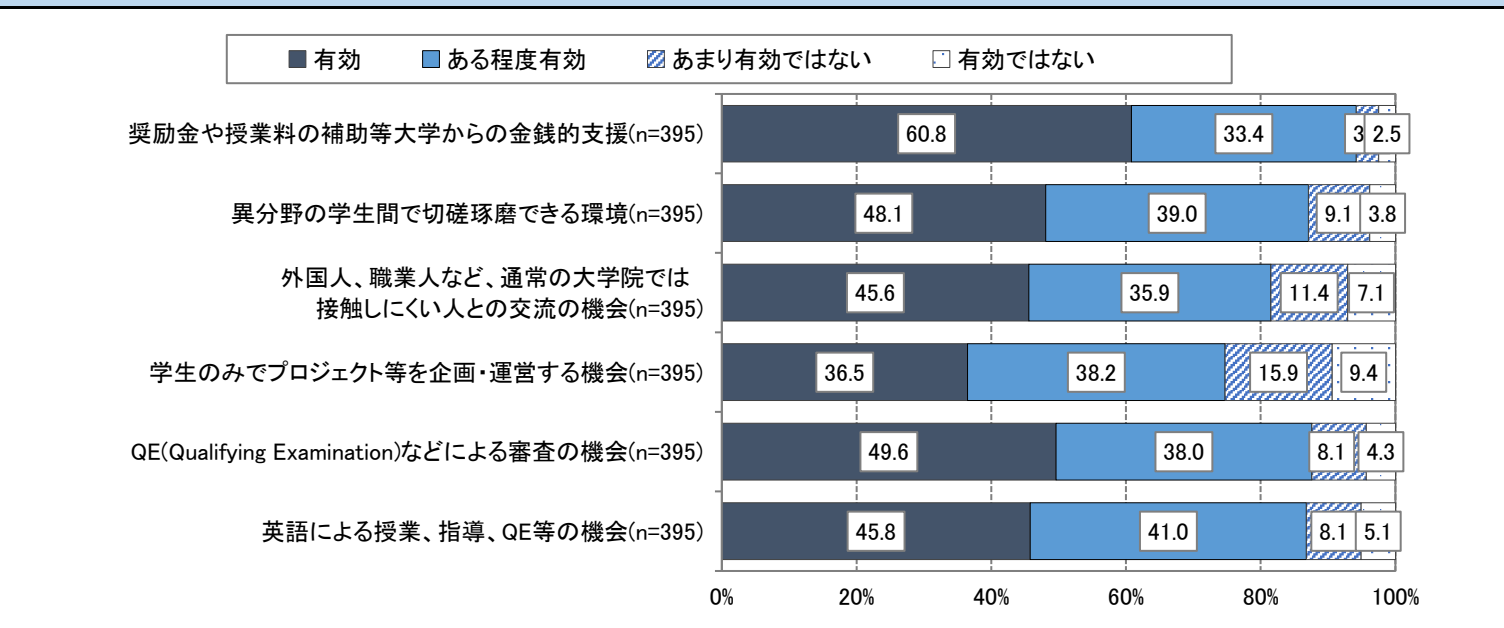
V. 修学環境の整備とその有効性

Q9A. このプログラムで次のような修学環境は整備されていましたか。また、それは有効でしたか。

Q9A.修学環境は整備されていたか



Q9A.有効であったか

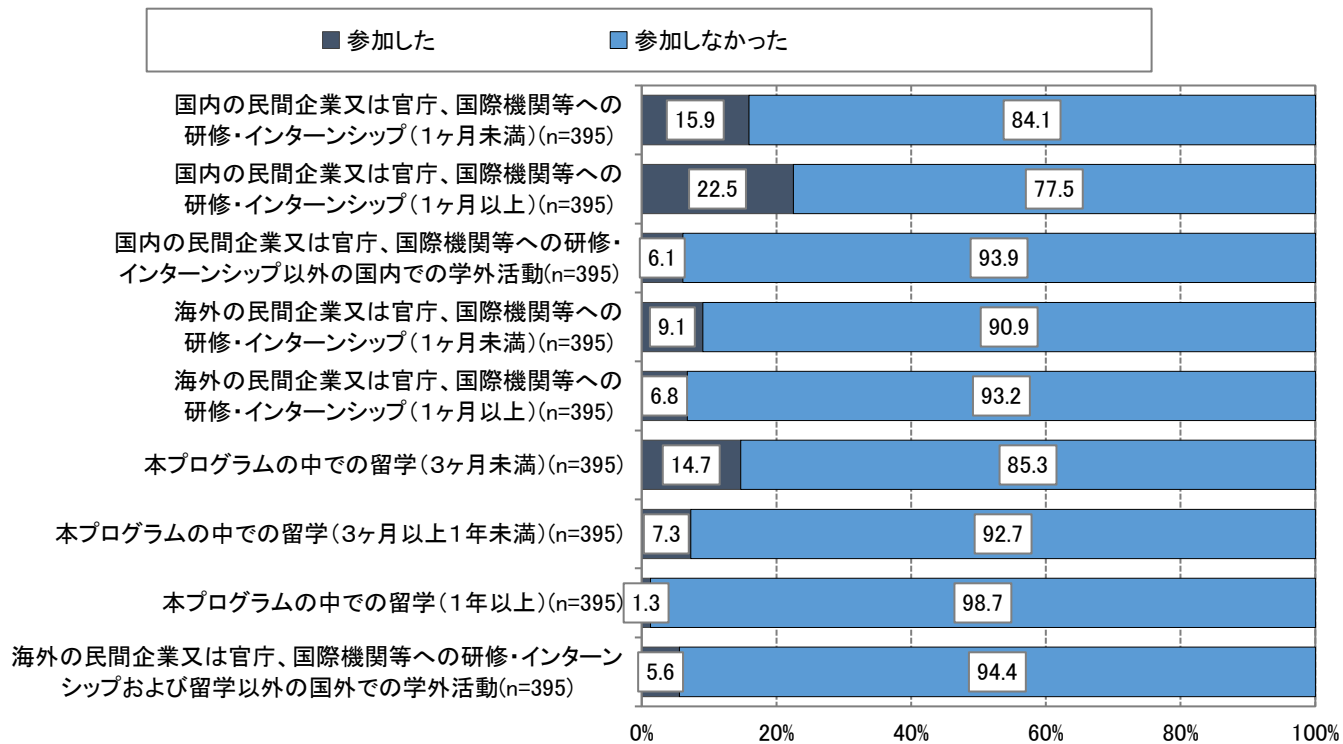


選択した理由や、特に有効であると思った点などご記入ください。

VI. プログラムでの経験とその有効性

Q9B. このプログラムで次のようなことを経験しましたか。また、経験した場合それは有効でしたか。
(プログラムのカリキュラムに該当する制度・取組がなかった場合は「参加しなかった」を選択してください)

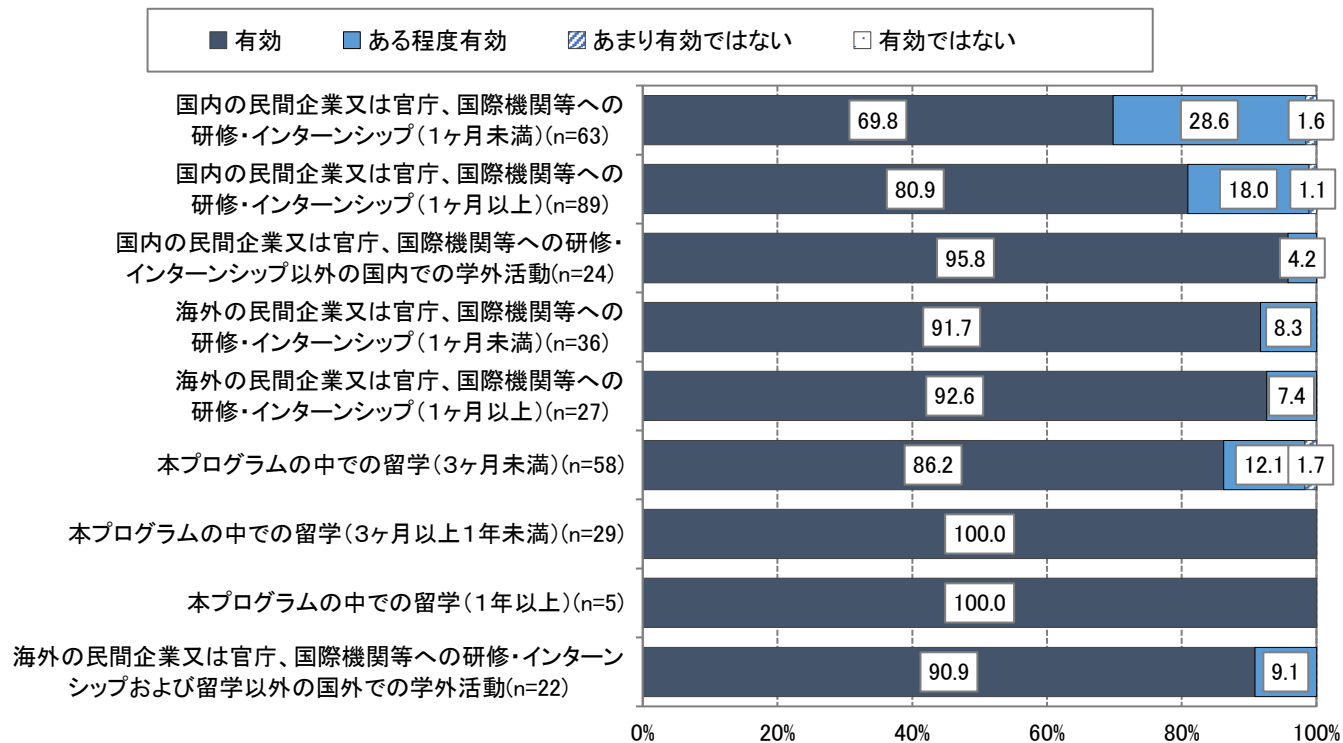
Q9B. 研修・インターンシップ・留学等



※「参加した」と回答した場合、具体的な活動内容や期間をご記入ください。

※「参加した」と回答した場合、具体的な活動内容や期間をご記入ください。

Q9B. 参加した場合の有効性

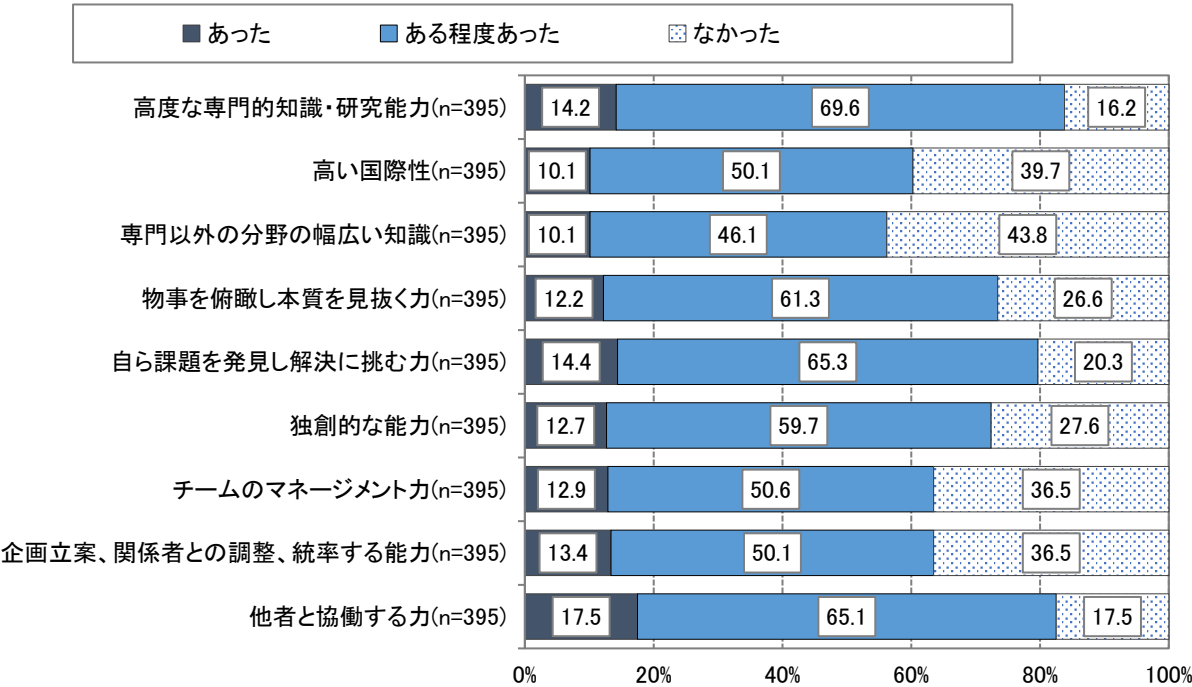


上記を選択した理由や、特に有効と 思った点があればご記入ください。	
インターンシップや留学等につい て、コロナ禍の影響があった場合は ご記入ください。 また、当初予定されていた実施方法 とは別の方法により代替して行われ たことがあればその内容をご記入く ださい。	

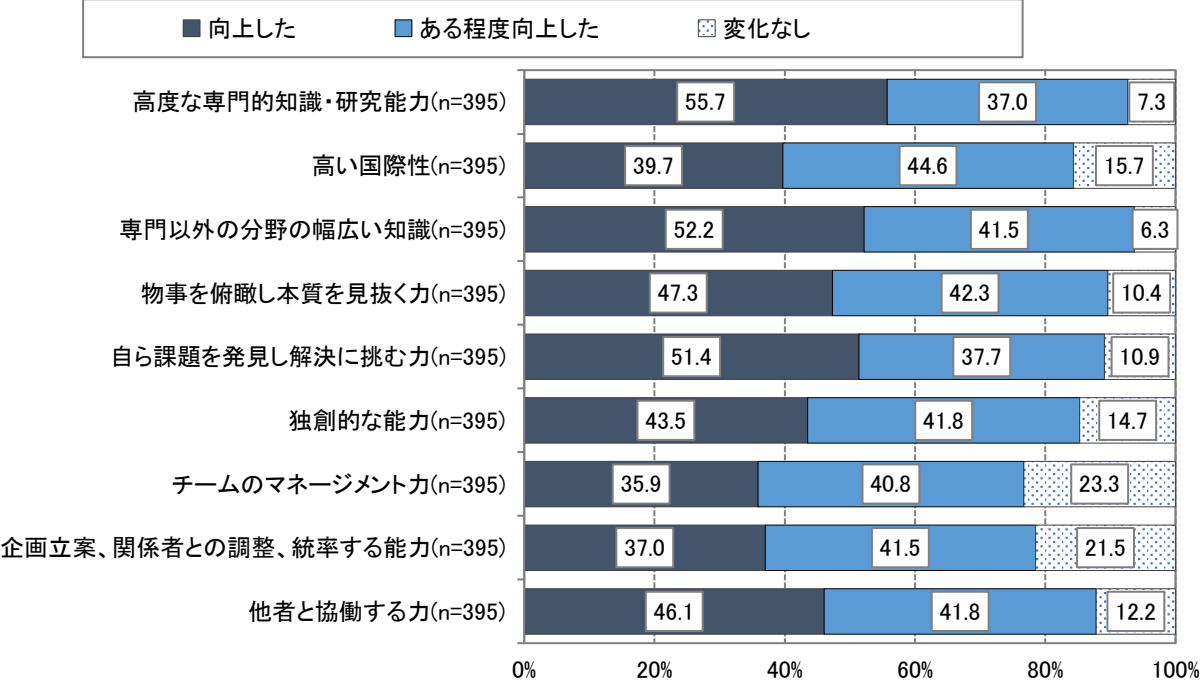
VII. プログラムで身に付いた能力

Q10. プログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。

Q10.参加前



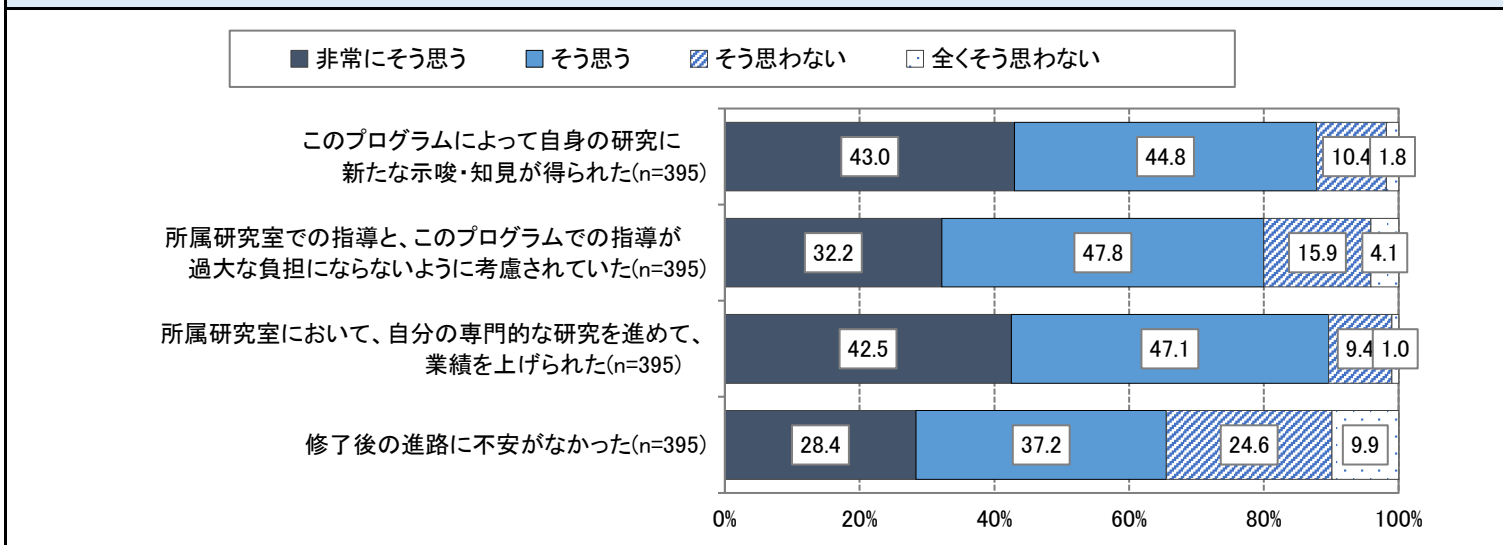
Q10.修了後



その他（具体的にご記入ください）	
------------------	--

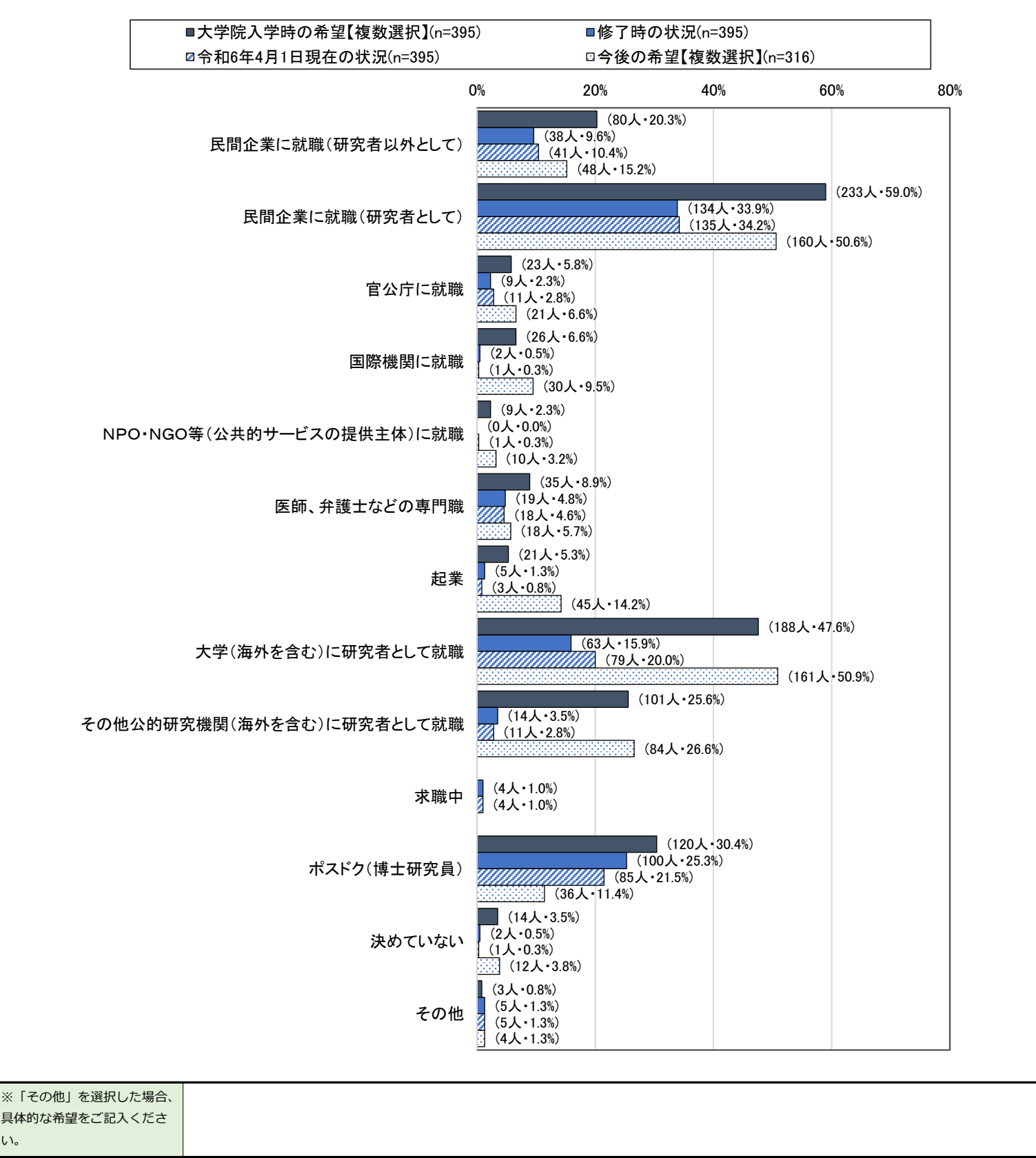
VIII. プログラムの効果・負担等

Q11. 以下の点について、どのように考えますか。

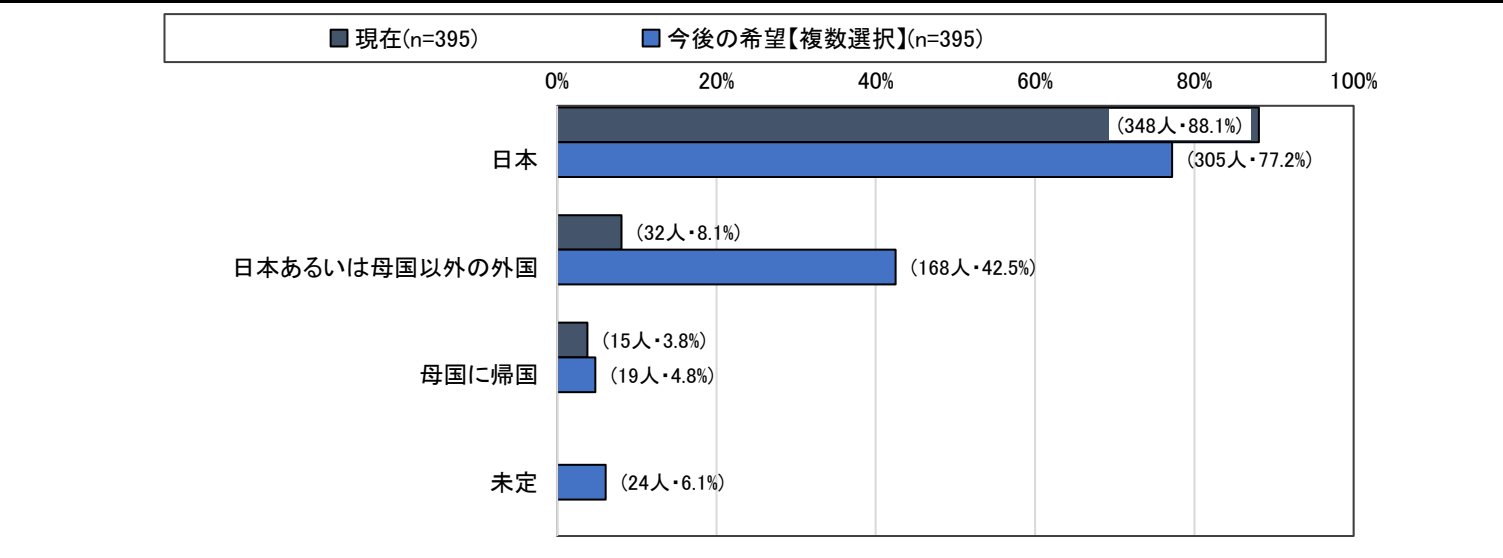


IX. 修了後の進路

Q12. 修了後どのような職等に就きましたか。また、今後どのような希望を持っていますか。



Q13. 居住国について選択してください。また今後の希望は持っていますか。



Q14. プログラムへの参加によって、人生観、職業観、世界観、国際意識等がどのように変わったか、また、修了後の活動や進路にどのような影響を及ぼした自由に記述してください。

Q15. 大学や研究機関、民間企業、公的研究機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材となるために、プログラム修了後あなたが主体的に行った活動があれば、内容およびその成果についてご記入ください。

海外勤務や海外での研究活動・留学	
国際学会での発表や海外との共同研究等の活動	
イベントやプロジェクトの企画・運営、会社設立	
論文投稿や学会発表等、国内での研究活動	
専門分野、文化やバックグラウンドが異なる人との積極的な交流	
その他	

全般的なご意見をうかがいます

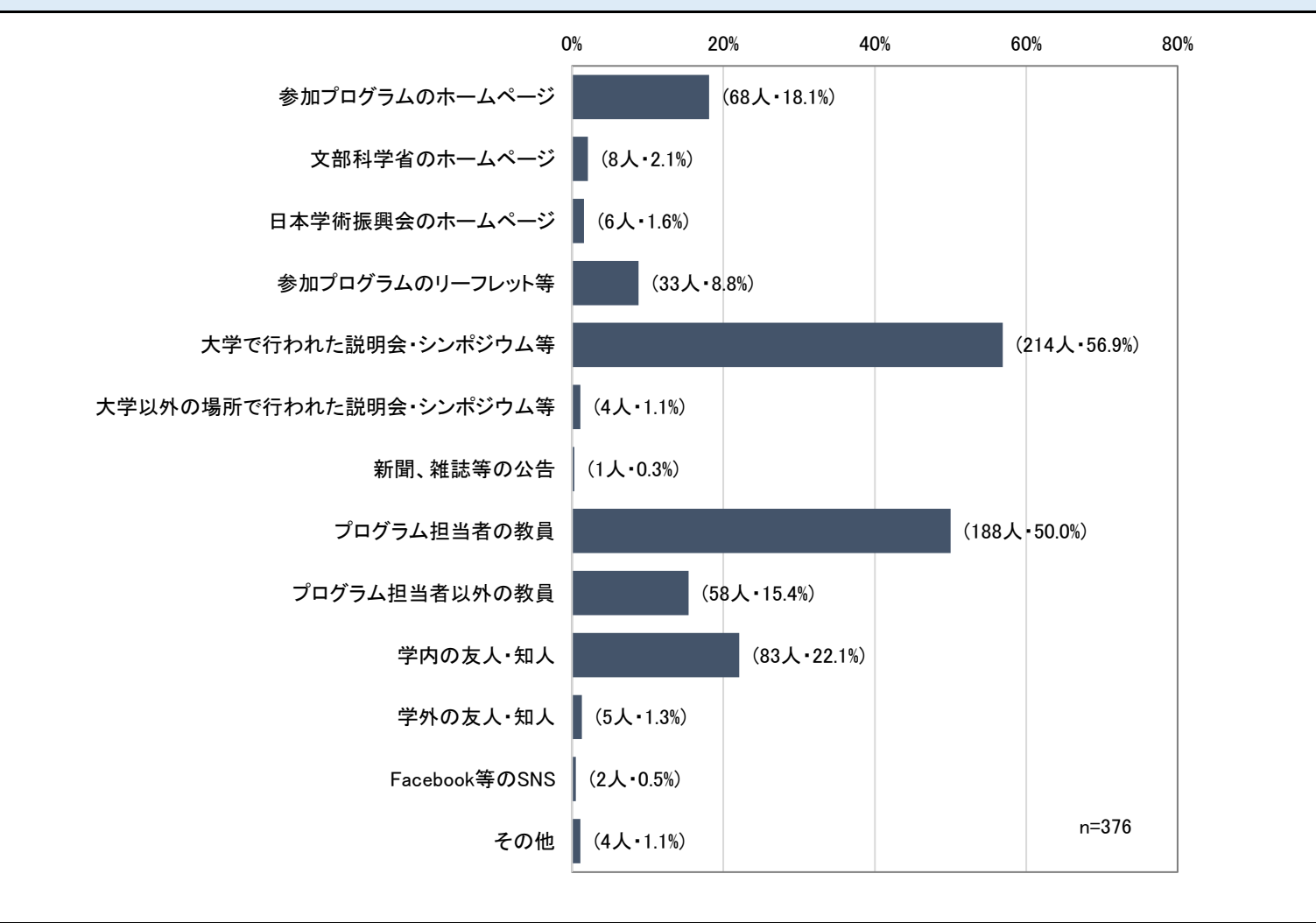
(参考情報) よろしければご協力ください

Q16. 参加していたプログラムについて、自身の将来にどう役立ったか、今後どのように役立つと考えられるか、また、これからプログラムに参加する学生のために、プログラムがどのように改善すれば良いと考えるか、感想、意見を自由に記述して下さい。(以下①～③のうち1つでもかまいません)

① プログラムが役立った点・良い点	
② 改善を要する点 (負担を感じた点など)	
③ その他	

(参考情報) よろしければご協力ください

Q17. あなたはこのプログラムをどのようにして知りましたか。(任意回答・複数選択可)



調査項目はこれで終わりです。ご協力どうもありがとうございました。